

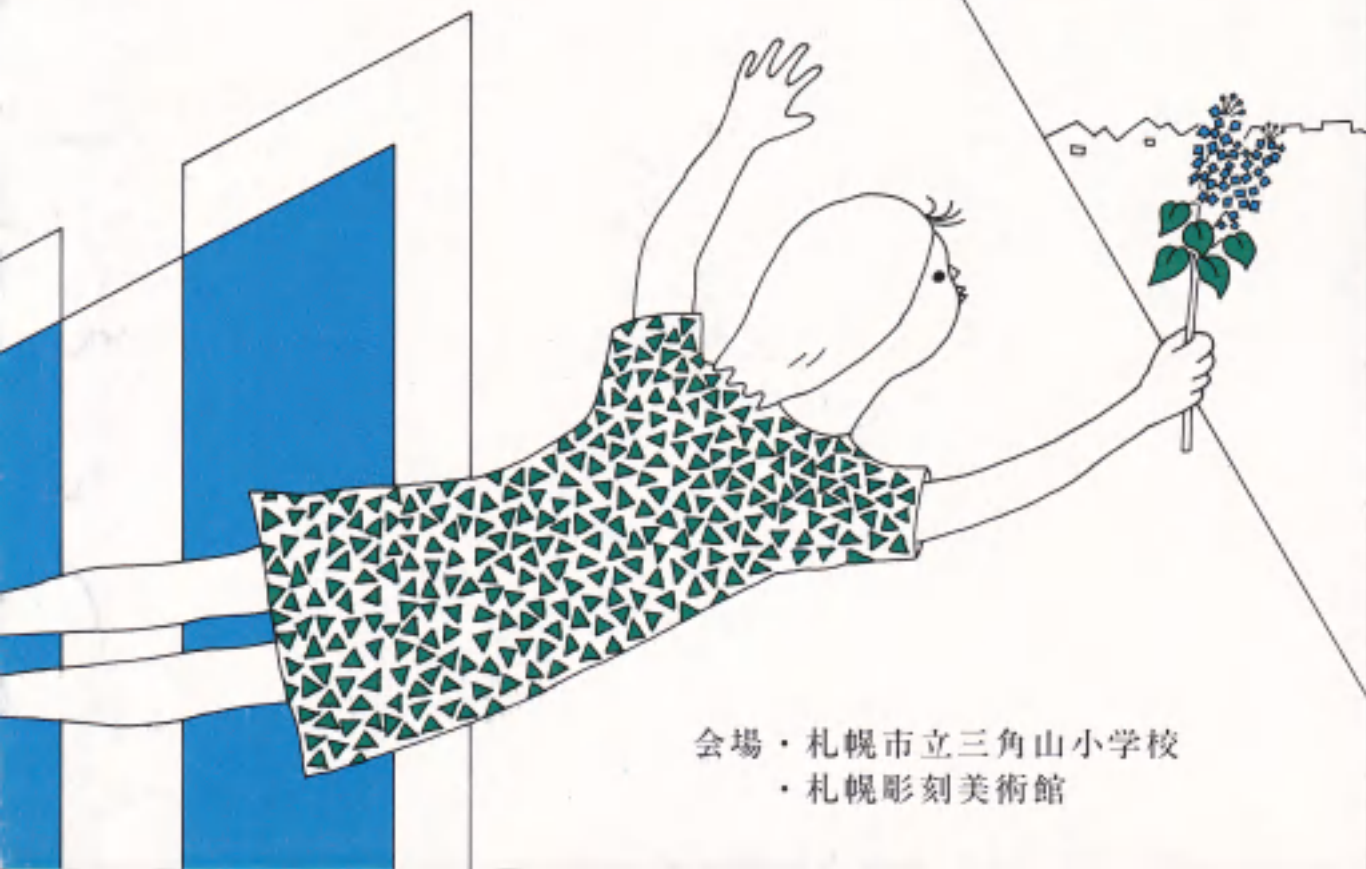


第 41 回

全道造形教育研究大会札幌大会

1991.7.28(日)～29(月)

子どもの つくる喜びをひらく



会場・札幌市立三角山小学校
・札幌彫刻美術館

第41回

全道造形教育研究大会
札幌大会

連盟研究主題

子どもの個性的表現を援ける造形教育

大会主題

子どものつくる喜びをひろく

1991.7.28(日)~29(月)

札幌市立三角山小学校

札幌彫刻美術館

目 次

挨拶	札幌大会大会長 北海道造形教育連盟委員長	佐々木 理 温	2
祝辞	札幌市教育委員会教育長	荒 井 徹	3
大会シンボルマーク			4
大会開催要項			5
会場 図			6
開・閉会式次第			11
会場案内			12
記念講演者紹介			16
研究主題解説			18
公開授業一覧			24
指 導 案			25
分科会構成一覧			39
提 言			43
資 料	(大会の歩み・連盟の規約・連盟名簿・大会役員一覧)		70



札幌の青空に希望を求めて

— 歓迎のことばをご挨拶にかさねて —

第41回全道造形教育研究大会札幌大会

大会長 佐々木 理 温

(北海道造形教育連盟委員長)

“札幌の青空は 限りなく高いよ
どこまでも楡の木が 伸びてゆくせいだよ
その空にぼくたちの憧れが きらきら
ルル ルルルルルル ルルルル”

「札幌の空」(作詞横井弘 作曲神津善行)を
歌う子ども達の歌声が響いてきます。

札幌市は創建120年余、人口165万を擁し
て全国第5位の大都市に発展しました。その市
街中心部を望み、緑に包まれた三角山や大倉
山シャンツェを背にしたここ宮の森の一角、三
角山小学校を主会場とする第41回全道造形教
育研究大会に、全道からご参会の皆様を札幌
の子どもと教師が、心から歓迎申し上げます。

41回の歴史を誇る大会のうち、札幌大会は
今回7年振り9回目の開催となります。前回は
昭和59年に第34回大会として、「創り出す心
を呼び起こす造形教育」の連盟主題をもとに
開催されました。そして今回は、新学習指導
要領完全実施を目前にした移行期に当たり、今
次の改訂内容をどのように理解し展開するこ
とが望ましいか、さらに未来を志向する造形
教育は如何にあるべきかについて、札幌の提
案を中心に皆様の忌憚のないご意見を伺う大
会となるよう期待しております。

本大会主題の『子どものつくる喜びをひら
く』—子どもの個性的表現を援ける造形教育—
は、具体的な子どもの側にたった授業づく
りを課題とし、魅力ある教材(題材開発)と
授業の在り方(授業形態・指導法)を中心視
点において準備されてきました。一人一人の

子どもに造形活動が楽しいといえるような体
験をさせることや、教師は子どもの発想を出
発点において子どもから学ぶ姿勢を大切にし
なければならないこと等も、主題表現の内面
から感じとっていただければ幸いです。

小学校の造形遊びに見られるように、自由
な発想の広がりや体ごと材料とぶつかり合う
ような体験を重視する内容を授業として成立
させることが、今強く望まれているところで
す。そのことは、やらされている造形教育か
ら、自ら学ぶ意欲に裏付けされた造形教育へ
の転換を意味しています。そして、まわりの
自然や生活と造形のかかわりに関心を持つ人
間の教育にも深いつながりを持つものです。真
剣でしかもやさしいまなざしを自然や生活に
向ける子どもと教師が、北海道の造形教育の
未来に光をあててくれることでしょう。

造形教育に正解はありません。あるいはす
べてが正解であるともいえます。ご参会の皆
様お一人お一人が感じたことを持ち帰りいた
だき、明日からの実践に少しでも生かしてい
ただければ、札幌大会を準備した私達にとり
これに勝る喜びはありません。

最後に、ご後援の北海道教育委員会、札幌
市教育委員会他の関係機関団体の皆様、直接
本大会運営にご尽力いただいた皆様、そして
全道各地からご参会の皆様に深く感謝申し上
げ、歓迎を兼ねたご挨拶とさせていただきます。



札幌大会に寄せて

札幌市教育委員会

教育長 荒井 徹

このたび、全道各地から多くの先生方の参加を得て、第41回全道造形教育研究大会が開催されますことは、誠に喜ばしく心からお祝い申し上げます。

造形教育研究大会は昭和25年の第1回大会以来、一貫して子どもの造形表現の可能性を追求してきました。また、本研究会の研究母体である北海道造形教育連盟は、今日まで北海道の造形教育の在り方を模索しつつ、確かな造形教育の方向性を示し、その推進役を果たしてきました。北海道が全国的にみても造形教育の先導的役割を果たしていると評価されておりますのは、こうした長年にわたる当造形教育連盟の教育実践の積み上げによるものであり、深く敬意を表する次第であります。

さて、21世紀を目前に控え、今日の学校教育に求められているものは、豊かな心の育成や個性重視の教育などであります。このような状況の下では、図工や美術などの造形にかかわる教科が育てる豊かな情操や子どもの持ち味・特性などは、これからの社会を生きていく子どもの望ましい人格形成に大きくかかわってくるものと考えます。

したがって、図工や美術を通して、子ども一人一人の個性的な資質や能力に応じて自己

実現を図ること、さらには自ら学び続ける意志や態度を形成し、社会の変化に主体的に対応できる能力を育成することは、単に造形教育の範囲にとどまらず、学校教育の今日的課題に取り組み解決を図ることに他なりません。

このたびの第41回研究大会は、「子どもの個性的表現を授ける造形教育」を研究主題に掲げ、幼稚園教育から高等学校教育までの一連の造形教育の流れの中で、個性的表現の在り方を追求していくものです。子どもの側に立った新しい学力観に立ち、個性とは何か、個性的表現が今後の造形教育にどうかかわってくるのかなどが課題になることであらう。

北海道は、豊かな自然と開拓の精神を背景としながら、さらに新たな文化と伝統を築く可能性に満ちております。時代が求めている新しい造形教育がこの札幌大会で熱く語られ、北海道全域に新しい波として広がることを期待しています。

皆様の熱意によって、この大会が実りあるものとなるとともに、当造形教育連盟が今後ますます充実、発展されますように祈念し、お祝いのことばといたします。



マークを作成して

札幌市立東栄中学校 六本木祐司

いろいろ考えましたが、最初のうちは研究大会の今年度のイメージがつかめなくて苦慮しました。結局、前年度までのマークやその他のマークのことをあまり気にしないで自由に考えたものが今回採用されたマークで、自分でも好きなものです。

マークの骨組みは、たぶん雪の結晶だと思いますが、六角形が頭に浮かびました。その六角形の枝が地面から木のように成長していくイメージだと思います。そしてその枝に木の葉の形や渦巻きや造形の基本である円や正方形がおたがいバランスをとり合っているかのように配置しました。迷ったのは枝の先に何を付けるかということです。ただ、ラフスケッチをしているときは、ほとんど無意識にいくつかの発展形を描きました。

全体的な感想としては、奥が深くて大きな「造形教育」というもののイメージを、表現するのは非常に難しく感じたということです。

●活用デザイン

札幌市立三角山小学校 菅原 清貴

感性の鋭さを頂点に、創造活動の豊かさを裾野とした三角山の形で、中心デザインを囲みました。



第41回
全道造形教育研究大会
札幌大会

1. 大会テーマ

◎北海道造形教育連盟研究主題

「子どもの個性的表現を援ける造形教育」

◎札幌大会主題

「子どものつくる喜びをひらく」

2. 日 程

	8:30	9:30	<50分>	10:20	10:40		12:00	13:00	<180分>	16:00	18:00	20:00
(第一日)	受付	公開授業	移動	開会式	セレモニー	歓迎	昼食	分科会	移動	レセプション	歓迎	

	8:30	9:00	<80分>	10:20	10:30	<90分>	12:00	12:30
(第二日)	受付	クリエイティブプラザ	移動	記念講演	閉会式			

*中学校は他に分科会
「これからの美術教育」
4階・音楽室にて

大会事務局

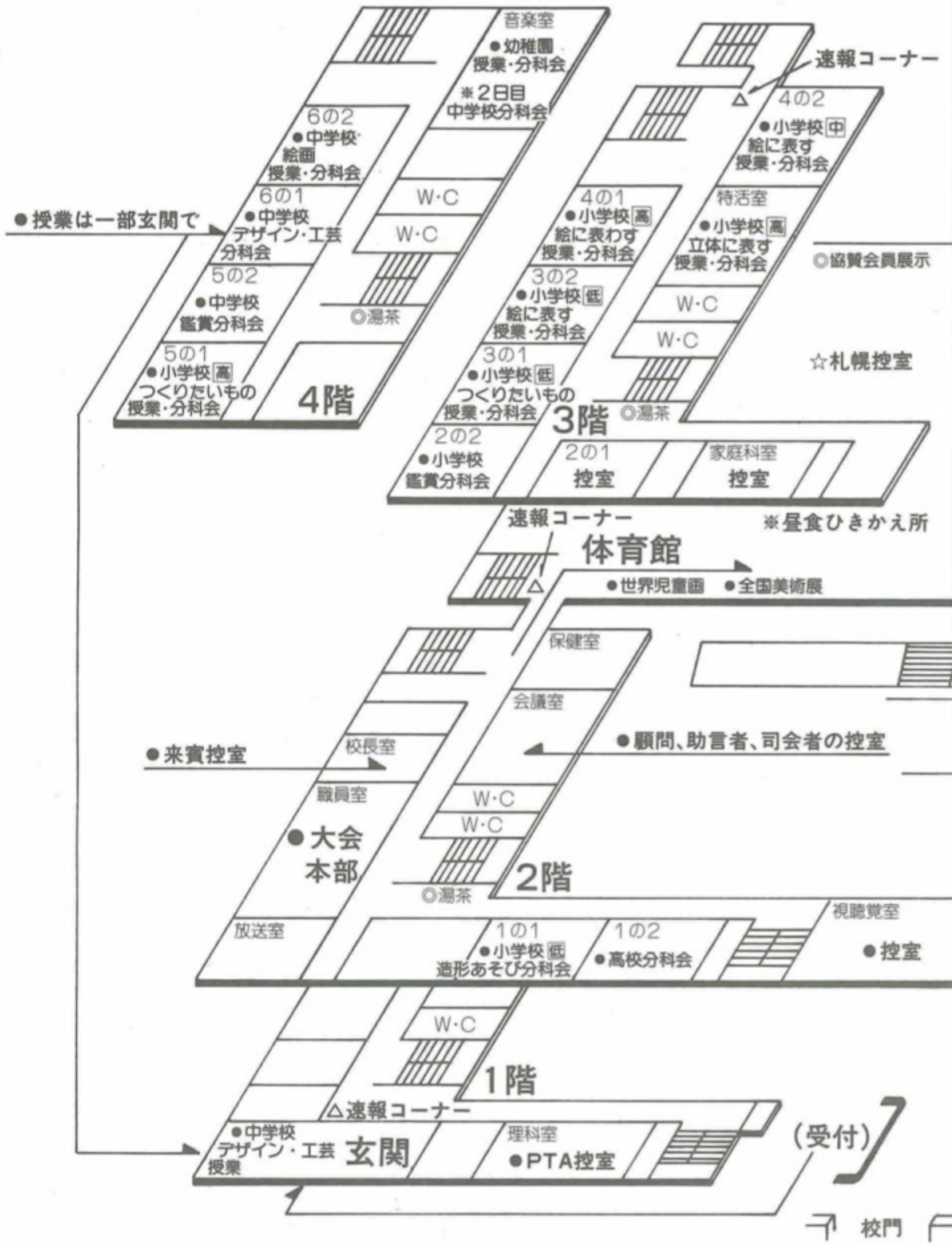
〒065
札幌市東区北46条東13丁目
札幌市立栄東小学校
☎011(753)2670
事務局長 鹿嶋 健

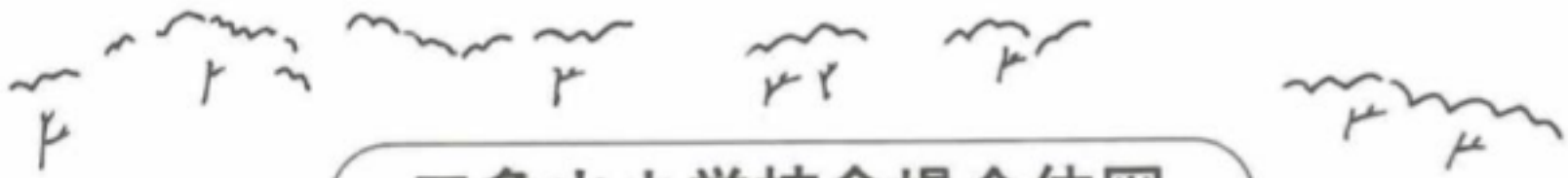
3. 主 催 北海道造形教育連盟

4. 後 援 北海道教育委員会・札幌市教育委員会・札幌市立幼稚園長会
札幌私立幼稚園連合会・北海道社会福祉協議会保育協議会
札幌市小学校長会・札幌市中学校長会・北海道高等学校長協会
札幌市教育研究協議会

5. 会 期 平成3年7月28日(日)・29日(月)

6. 会 場 ・札幌市立三角山小学校 札幌市中央区宮の森4条11丁目4-1
・札幌彫刻美術館(本郷新美術館) 札幌市中央区宮の森4条12丁目1-41

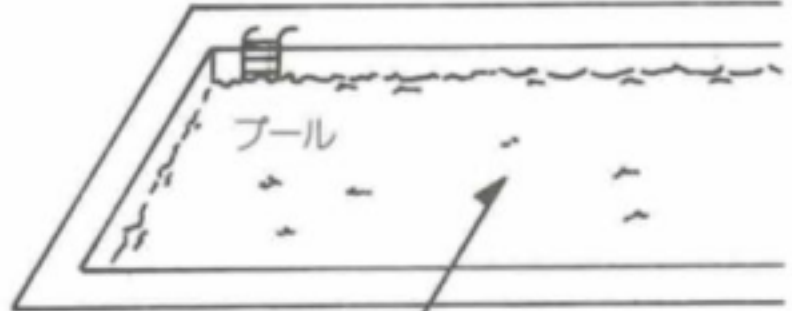




三角山小学校会場全体図

体育館では

- 小学校・低学年・造形あそび・授業
〈第1日、AM9:30〜〉
- 開会式・歓迎セレモニー
〈第1日、AM10:40〜〉
- クリエイティブプラザ
〈第2日、AM9:00〜〉
- 講演
〈第2日、AM10:30〜〉
- 閉会式
〈第2日、PM0:00〜〉



フカフカプール展示場
(クリエイティブプラザ)

芝生

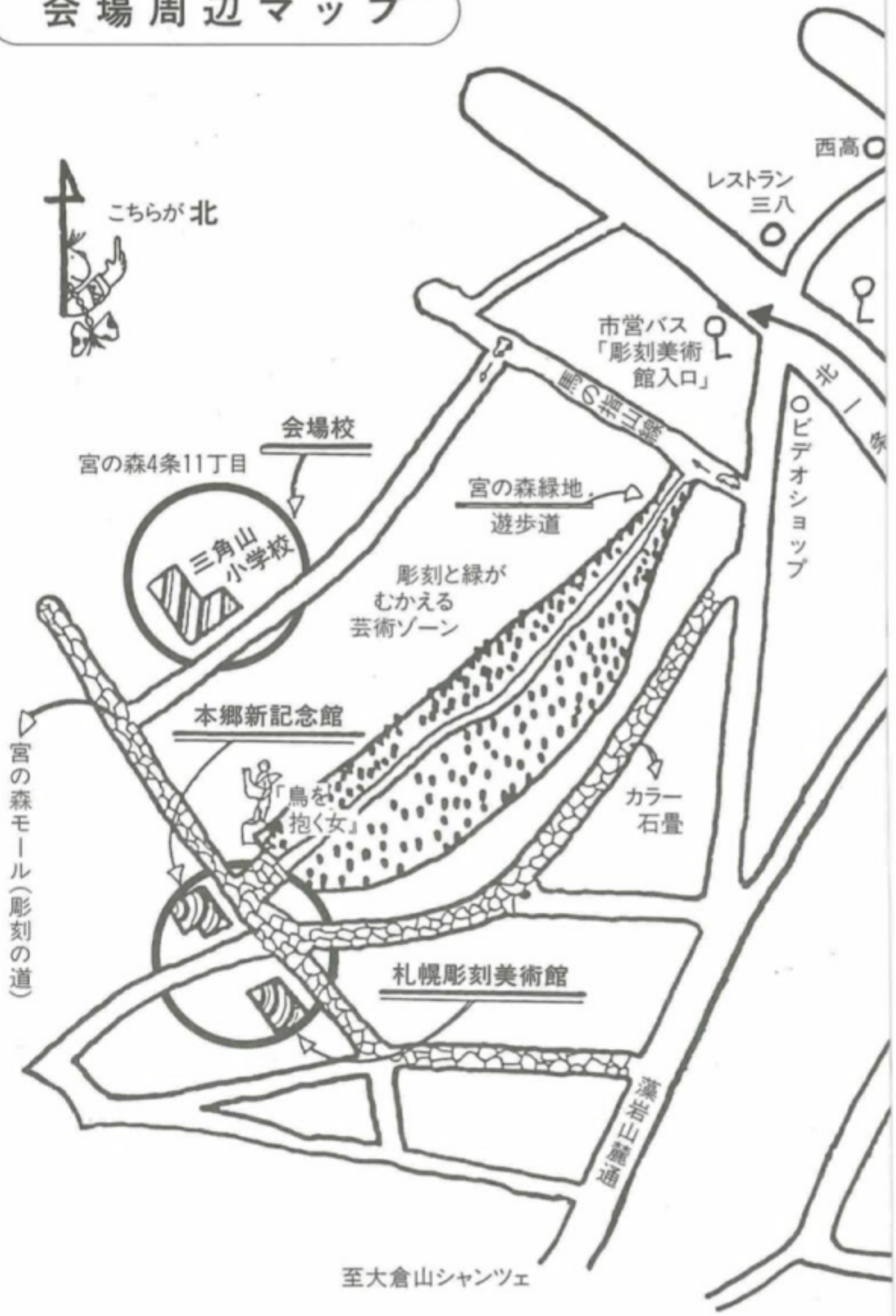
グラウンド

グリーン芝生展示場 (クリエイティブプラザ)

芝生

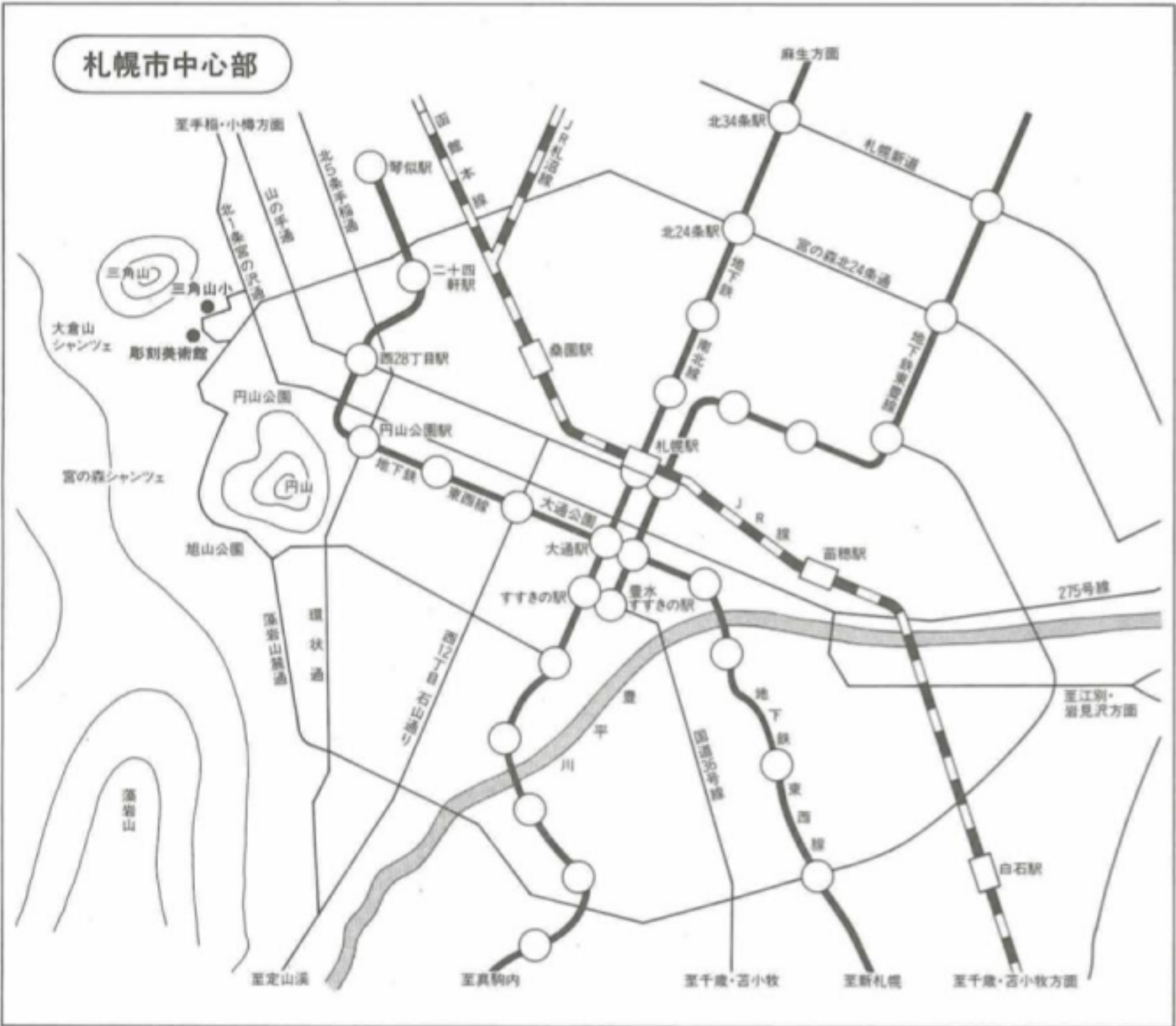
花壇

会場周辺マップ





札幌市中心部



開 会 式 次 第

	司会	札幌大会実行副委員長	船 着 昭 弘
1. 開会のことば		札幌大会実行委員長	鹿 嶋 健
2. 挨拶		札幌大会大会長 北海道造形教育連盟委員長	佐々木 理 温
3. 祝辞		北海道教育委員会教育長 札幌市教育委員会教育長	寺 島 敏 保 荒 井 徹
4. 来賓・講師紹介		札幌大会実行委員長	鹿 嶋 健
5. 祝電披露			
6. オリエンテーション		札幌大会研究部長 北海道造形教育連盟研究部長	富 田 泰
7. 閉会のことば (連絡)		札幌大会実行委員長	鹿 嶋 健

○歓迎セレモニー 「明えろ！みんなの三角山」

会場校・三角山小学校児童全員

閉 会 式 次 第

	司会	札幌大会実行副委員長	村 谷 利 一
1. 開会のことば		札幌大会実行委員長	鹿 嶋 健
2. 挨拶		札幌大会大会長 北海道造形教育連盟委員長	佐々木 理 温
3. 連盟旗引き継ぎ			函 館 市
4. 次期開催地代表挨拶		函館市美術教育研究会会長	田 邊 康 夫
5. 閉会のことば		札幌大会実行委員長	鹿 嶋 健

会場紹介



三角山小学校

▲グラウンドから見て左後方に国際的ジャンプ台「大倉山ジャンツェ」、右後方に校名の「三角山」が見えます。

札幌市立三角山小学校

・札幌市中央区宮の森4条11丁目 ☎011 (643) 1133

札幌彫刻美術館を校下にもつ閑静な住宅地域に、緑豊かな三角山と大倉山ジャンツェを背にして、白い三角山小学校が建っています。昭和53年に開校し、本年14年目を迎える学級数12の若々しい学校です。

校歌に「風さわやかな、さくら丘」と歌われているように、グラウンドのまわりの樹木はすべて桜で、校地内には現在72本の桜の木があります。教室の窓からは青空の下に広がる札幌の街が一望され、「ひろびろと広がる街に、七色の虹をわたって五輪の旗がひるがえる」札幌オリンピックをものぶことができます。

「三角山の自然とともに心豊かに育つ子ども」を学校教育目標に、「ときめかせ、いい顔いい声いい動き」を本年度の子どものめあてにかかげ、創意を生かした教育活動に積極的に取り組んでいます。

昨年度は第4回実践研究発表会を開催して多くの方々から御指導を仰ぎ、また校長と児童2名が姉妹提携を結んでいる瀋陽市南京街第一小学校を訪問して交流の場を広げました。図工の実践でも、第21回世界児童画展全国団体奨励賞、第50回全国教育美術展学校賞受賞等の成果を挙げてきました。



▲道路をはさんで左手に主として彫刻作品の展示がある「本館」、右手に本郷新のアトリエであった「記念館」があります。

札幌彫刻美術館（本郷新美術館） ・札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011 (642) 5709

「奏でる乙女」「鳥を抱く女」「太陽の母子」と3基の野外彫刻像が、何げなくとけ込んだ宮の森緑地と宮の森モール（彫刻の道）の先に、彫刻家本郷新を記念する美術館があります。

本郷新は明治38年に札幌に生まれ、昭和55年74歳で東京において逝くなりました。昭和54年宮の森のアトリエ・土地・作品の寄贈申し出があり、昭和55年の没後「財団法人札幌彫刻美術館」が設立されて、昭和56年には全館がオープンしました。

収蔵作品には、彫刻「無辜の民」「哭」「風雪の群像」等の他、絵画やコレクション類もあります。また前庭では戦没学生記念像「わだつみのこえ」をみることができます。『彫刻の存在は同時に生命体の存在である』とする本郷新の作品は、骨太な野外彫刻が特徴ですが、トルソー、テラコッタにみられる温か味のある小品も捨て難いものがあります。

開館時間は午前10時から午後5時（冬期間午後4時）まで、月曜日は休館日です。郷土が生んだ大彫刻家の魂に、是非触れていただきたいと思います。

- 1日目 午前11時30分～ 体育館にて

歓迎セレモニー (三角山小全校児童による)

萌えろ！みんなの三角山

登山や野原での遊びのときは、仲よしの友だちの顔。その歴史を学ぶときは、心豊かな生き方を教える母の顔で、子どもたちを見つめる三角山。

三角山の様々な表情を表しながら、三角山の子どもたちのかかわりを紹介します。子どもたちも、三角山への思いを新たにすることでしょう。

三角山がみなさんをお待ちしています。

- 2日目 午前9時～10時20分 4階 音楽室にて

中学校分科会 これからの美術教育

－教育課程の実践的課題－

- 新学習指導要領の趣旨にもとづいて、美術科として、どう対応すべきか等について、お二人の先生にお話して頂き、情報交換を行ないます。

- ◇ 教育課程と美術教育
- ◇ 新指導要領の時数上の問題
- ◇ 2・3年の目標解釈の問題
- ◇ 新しい内容・削除された内容
- ◇ 具体的な題材のあつかい上の工夫

- 提 言 ・奥野郁男(札幌・柏中)
・武市尚政(札幌・清田中)
- 司 会 ・村谷利一(札幌・北栄中)
- 記 録 ・多田紘一(札幌・柏中)
- 運営委員 ・角力山 旭(札幌・陵北中)



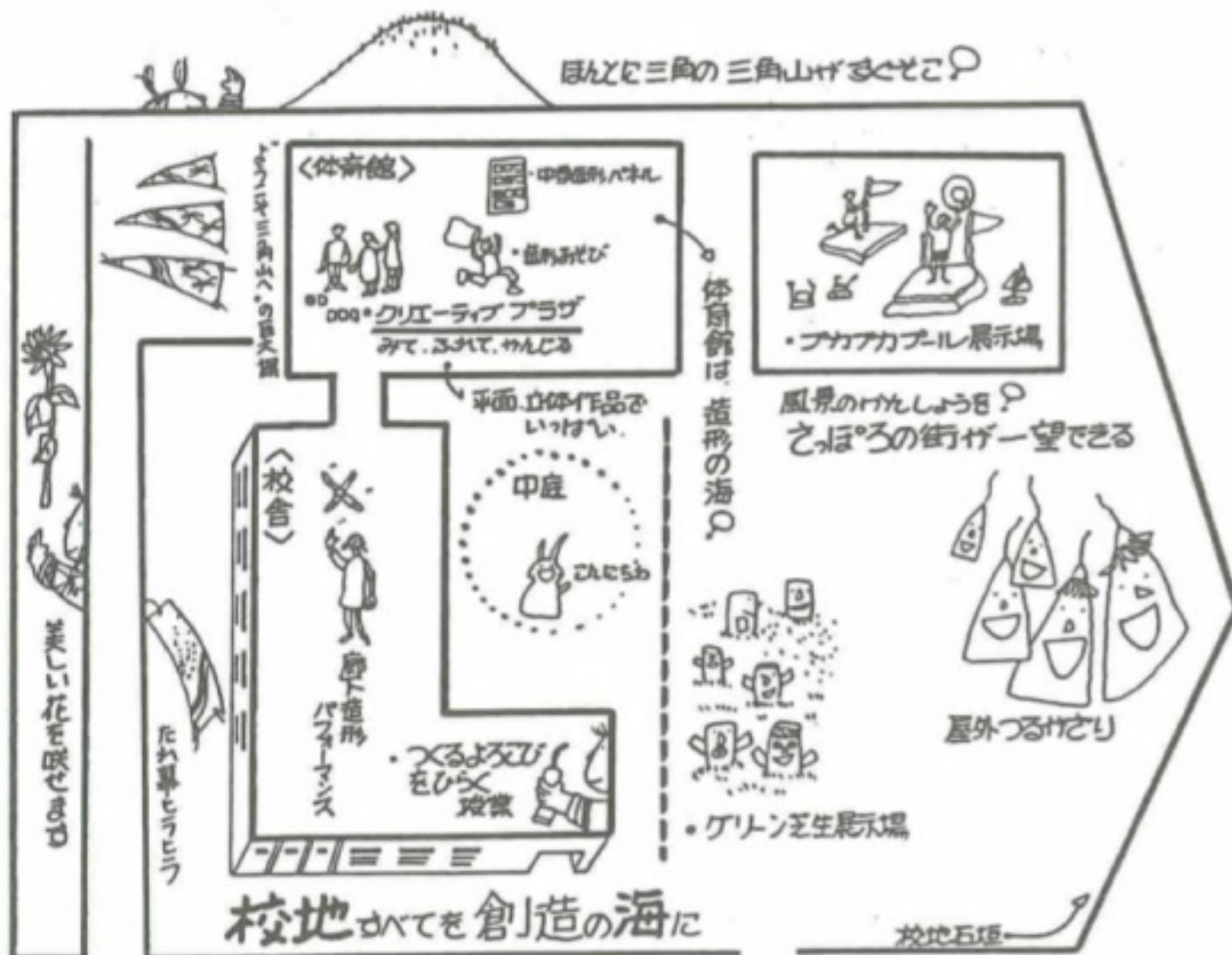
クリエイティブプラザ

みて・ふれて・かんじる 造形広場



子どもの「個性」が造形活動のみならず今後の教育活動の中で重要なキーワードとなってきました。一人ひとりの子どもの持ち味を十分に発揮できる教育活動を実現するには、教師の役割は益々大切になってきたと言えます。そのためにも、多くの作品・材料用具に対しての、しっかりとした実践的認識が必要でしょう。そのような今日的課題に少しでも迫ってみようと札幌大会では、クリエイティブプラザという造形広場の提案をします。ここでは、会場校の校地全体を展示場とし、子どもの躍動感あふれる様々な作品を鑑賞していただけたらと思います。

さらに2日目では、体育館と2階・3階の廊下を使った造形体験コーナーを設けます。札幌の教師と子どもがつくるこの「造形の海」にドップリと浸っていただければと思います。



記 念 講 演



■演 題

子どもの心をゆり動かすもの

■講演者

シルエット・アート作家 藤城清治氏

■略 歴

- ・ 1924(大正13)年東京生まれ
- ・ 慶應義塾大学経済学部(昭和22年)卒
- ・ 厚生省児童福祉文化奨励賞(昭和55年)「シャクンタラー姫」
芸術祭優秀賞(昭和57年)
国際絵本原画展金のリンゴ賞(昭和58年)「銀河鉄道の夜」
芸術祭優秀賞(第37回)(昭和58年)

・ 在学中から油絵や人形劇に夢中になり、新制作派展等に入選。昭和22年、卒業と同時に影絵劇団「ジュヌ・パントル」を結成。一方、東京興業(現テアトル東京)宣伝部に入り、プログラム編集の仕事をする。「暮しの手帖」に影絵を連載したのをはじめ、テレビ番組「影絵名作アルバム」(TBS)の制作、影絵映画の発表など活躍の場を広げる。一時は木場座を結成して、ぬいぐるみ人形劇を手がけ、人気を博したこともある。全国で影絵劇を上演するなどの活動を続けて、57年文化使節団として、西アジア・中東方面への初の海外公演、また61年にはカナダ、アメリカ公演を果たし、藤城清治影絵40周年記念を迎えた。著書に「影絵はひとりぼっち」「天の笛」「遠い日の風景から」「ヨーロッパの森の中で」「きん色のピーター」「藤城清治影絵劇の世界—シルエット・プレイその歴史と創造—」がある。また動物好きでも知られ、玄関から応接間にかけて、猫・あらいぐま・小鳥・魚など多数飼育する。

メ モ

北海道造形教育連盟研究主題

『子どもの個性的表現を援ける造形教育』

札幌大会研究主題

「子どものつくる喜びをひらく」

札幌大会研究部長

北海道造形教育連盟研究部長 富田 泰

私たちは今、教育の大きな転換期を迎えています。まず、それを思い切って図らなければ課題を解決できないところにまで追い詰められているのではないのでしょうか。

日本の高度経済成長期を三十余年前とおさえるならば、当時の社会のものの見方、考え方は「知識、技術、経済」に偏っていたと言えます。これは、誰しもが認めることであります。物質的に豊かになり、西欧先進諸国に追いつけ、追い越せのもと、教育もこの流れに沿う人材を要求し、重要視する方向で進められてきました。その点から見ると、先の教育も成功し、事を成し遂げたということになります。生活は豊かになり、居ながらにして世界の動きが見え、そして分かる時代になったのですから。しかし、大切なものをなおざりにしてきたのではないかという不安は、教育に携わるものばかりではなく、今の社会の通念になったといっても過言ではないと思われます。社会の歪みや学校教育の諸問題を引き起こし、その原因を探れば探るほど大切なものを忘れていたと言わざるを得ません。

急速に発展しているハイテク産業は、人間関係を冷たいものにしてきたと言われます。機械が人間の間に入り込んでしまったこの状態を何とか解決し温かい人間関係を取り戻そうとしているのも事実です。この発達した物質的経済的生活に、人間的な温かい心の触れ合

いや文化的接触（ハイタッチ）を導入しようとする運動があることも周知の通りであります。

言い換えると、軽視してきた人間性の回復といえると思います。今「人間」性というテーマでものが語られ、社会の様々な場所で、様々なマスメディアを使って主張されています。次のことが、この人間性回復ということに求められていると思います。

1. 人の心が分かること
2. 他人を思いやること
3. 自然を思いやること

これは、すなわち私たち造形教育連盟が常に教育目標としてきた『豊かな感性』にほかなりません。

国際化社会に生き、地球規模で語られる私たちの「生き方」を育む「教育」に大きな期待が寄せられていることは言うまでもありません。ましてや21世紀を背負う子どもたちの学校教育に課せられている比重は、最も大きいと言えます。とりわけ個人的な活動で占められる「造形教育」は、その重要性と共に「人間」としての基本的な行為に裏づけられる活動であることが再認識されているのではないのでしょうか。

1. 子どもの個性的表現を援ける

造形教育のみならず、学校教育が教科書重視の教科中心といった流れが過去100余年間

あり、「知識、技術、経済」優先の考え方のもと、系統性という枠はめの中で教育が行われてきました。前述のように、そこに大きな忘れ物をしてきたと言わざるを得ません。そして、この急速な社会の流れは、ますます加速化するとされています。

このような社会の急速な変化に対して主体的に対応し、自らの生活を築いていくために、生涯にわたって学び続ける力を持たなければなりません。

したがって、学校教育が「自ら考え主体的に判断し、行動する能力を育成する教育」へとより強く思考し、「個性」重視の質的転換を図ることが求められているのです。

私たちは、思考力、創造力、直観力を育み、そして、「問題解決の力」ばかりではなく、主体的な「問題提起の力」の育成に努力しなければなりません。

一人一人の自由で独創的な物の見方、考え方、感じ方を重視し、子どもの多様さを受入れ、それを援助し「個性」を生かす指導が求められるのです。

このことは、子ども一人一人の独自性（個性）を見とる力量が指導する側に望まれることでもあります。幼児、児童、生徒が一人一人自分の個性を生かしながら、生き生きと活動し、「生きる」ものとなることを助ける教育とならなければなりません。

今の教育システムの中で、多くの問題と対応しながら、その方法を考えていくことあります。また、一人一人の子どもには、それぞれ教育の適時性があることもおさえねばなりません。子どもが自ら伸びようとする時期に、それを助け伸ばす教育が必要です。教育する側が助けることが「教育」の本来の姿であることを認識する必要があります。

「教える教育」から「学ぶ教育」への転換です。

私たちにとって、ものをつくりだし、具体的なものに表す内容をもった造形教育は、「子どもの個性的表現を援ける」極めて難しく厳しい仕事とすることができます。

II. 造形教育の特質として

1. 新しいイメージをつくり出し
2. イメージを色や形に表し
3. 創る力、感ずる力を養い人間的なよさ、人間性を知ること

を上げる事ができます。

造形教育は、これらの特質を子どものが、頭、心、手の総合的な活動を通して喜びに出会い、人間としての「心が分かる自分」を自ら育てていくことを助けることです。省みるとそのためにいろいろな実践研究を試みてきたが、今一步というところで停滞していると言わざるを得ません。

子どもの表現するものの中に、私たちの幾つかの反省点があります。

1. 没個性的傾向と作品の画一化
2. 一人一人の子どもの独創性を軽視
3. 教えることと育てることが混在
4. 子どもの生活に結びつけていない
5. 手みじかな安易なセット教材の使用
6. 造形する態度への「要求と寛容」の不安
7. 押しつけ型指導に気づいていない

このような停滞の原因と模索は造形教育ばかりではありませんが、教育の在り方を再評価し、私たちの指導理念の質を整え、新たな情熱が望まれる時です。この在り方は各方面からいくつも提案されていますが、先の新学習指導要領も「急速に発達した科学技術」からの離脱を意図していることも明らかです。

* 21世紀にむけての教育の全体方向として考えられることは、

1. 人間形成に必要な基礎・基本的な生活習慣の徹底
2. 学習の喜びと生涯学習への思考と意欲の育成
3. 自己教育力の育成の多様化の推進
4. 国際化・情報化社会への適応力の育成
5. 学習の主体性と自己実現の育成
6. 教育内容の重点化、精選化
7. 体験重視の学習、地域素材の教材化
8. 総合学習の意義の自覚
9. 学年・学級制度の弾力化
10. 自然や地域社会への学習の場の拡大

です。造形教育の内容も方法も、これらの方向に呼応し、その質の高さが求められます。造形教育は、子どもの一人一人の「個性的表現」こそが教育の中心課題とならなければなりません。これは、図工の授業観と相俟って、教育の主流になることでありましょう。つまり

- ・ 学習者の個々に焦点をあて、学習者自身の学習が最大になる、“教える”ことよりも、“学ぶ”ことを強調
- ・ 学習者を一人の人格者として受容し、感覚と発想をより尊重、“自ら追及し、自らが回答すること
- ・ 個性とオリジナリティ（独創性）を支持、それを育てるための学校の機能は、個人の差異の尊重と認める態勢づくり
- ・ 学び方は、体験・経験を通じた発見と探索による学習法の強調と推進
- ・ 教師は学習のパートナーであり、ガイドに徹し、ティーチから一步退く

個性指導のもと、個人の進歩に対しての個別化と一人一人の進歩の確認であり、個性や独自性に応じる教育を基盤とする造形教育は、

以上のような考えに立って進めなければならないでしょう。

以上のような教育の流れをみつめ、本連盟は子どもの個性的表現の援助のための実践をより深めていかなければならないと考えます。そのために次のことが求められます。

1. 子どもの生活の見つめ直しと生活のとらえの研究
2. 教材の再吟味(評価と有効性)とその実践
3. 個に応じた教材・教具の研究
4. 教えるもの、育てるものの分析とアプローチの多様化、新しい指導法の研究
5. 材料体験を豊かにし、連続性・連鎖性のある題材構成(単元構成)の研究
6. 新学習指導要領に対して、ひとつの意見をもつ理論研究の推進
7. 地域を生かした造形教育環境の改善研究

私たち本連盟は、日常教育実践ばかりではなく、造形的創造活動が一生を通して続いていくものというとらえを基本にするとともに、造形家・芸術家の苦しみ・努力・喜びを味わえ、本来持っている「人間」としての心身の調和のとれた人格形成を目指したいものです。

これからの私たちの実践課題は、前述を十分にとらえた上で、柱としては、「教材づくり」であります。流れに対応する教材と指導を一つの理論のものにと、早急につくり整えねばなりません。

Ⅲ. 実践の視点として

1. 『思いのままに表現する教材と指導』
2. 『制作の方法を拡げる教材と指導』
3. 『個性に基づいてこだわり探求する教材と指導』
4. 『領域や分野の枠を取り払った教材と指

導』

5. 『造形活動の造形あそびの教材と指導』

6. 『感性が対話する生きた営みの鑑賞指導と教材化』

が考えられます。

私たちの日常実践は、子どもの実態、地域の特性に応じて常に変わり得るものです。子どもの「個性」を中核に進める造形活動は、その発達段階の適時に何を準備すれば膨らみ、大きく成長するのか、「何を育てる」のかを明確にしなければなりません。教材の精選を図り、子どもの『感性』と人間としての手仕事と生活を高めるための努力を更に進めていきたいものです。

IV. 札幌大会研究主題

『子どものつくる喜びをひらく』

* 研究主題と実践研究のおさえ

授業の中で、子どもの活動に驚かされることがあります。彼等の内に固まっているものが溶けたり、ゆさぶられたりすると、「子どもらしさ」がどっと現れたりして、私たちをびっくりさせることがあります。これは、潜在的にある子どもの力を、予期しないときによく感じられるものです。生き生きとして「子どもらしく」「自分らしく」素直に全身で喜びを表し、人間味を溢れんばかりに表出している時です。

「創る喜び」とはそんな時の子どもの姿に現れるものと思います。このような子どもの姿に出会った時、形や色を使って「創る」という造形行為はとても人間らしい（その子らしい）と思うと同時に、造形教育は決して強いことなく、子どもが持っている潜在の力を精一杯発揮できるように「手伝ってやる」と

いうことが、私たちの仕事と考えます。『子どものつくる喜びをひらく』はこのような考えのもと、今私たちがすべき実践課題としておさえています。

1. 教師の押しつけや主導ではなく、子ども一人一人の個性や主体性を重んじる授業づくり

2. 子どもを今まで以上に理解し、「教える」ことから「学ぶ」教育へと転換した授業づくり

を追及の中心視点と考えました。

したがって、「個性」「思いのままに」を重視することから、これからの造形教育は今までになく難しいものと思います。

造形活動において、子どもは料理人であり、決して教師が料理人であってはならないのです。料理の材料や調味料が、子どもの前に十分用意され、そして、子ども自身がその材料に向かい、料理をするからです。教師は子どもの意欲をそえて考える料理へと援助（導く）するのです。つくり手はあくまでも子どもの自身なのです。言うならば、造形教育の仕事は、子どものそれぞれにあるイメージを膨らませ、表現させることであって、教師のイメージを子どもに押し付けたり、一定の枠を与えることではないのです。

「なすことによって学ぶ」という原理は、教育指導を貫く基本と言えますが、時代背景の中で一様ではなかったようです。子どもの個性を軽視した、教師側の一方的、直線的押し付け型指導を強く想起するところです。新たに基本に関わる示唆として考えなければならぬと思います。

また、私たちは、急速に変わる子どもの生活からどのように子どもを見つめとらえていくかがとても大切なことです。研究主題「子

どもの創る喜びをひらく」の追及視点「授業づくり」とともに、教育を受ける「子どもの見つけ直し」も同時に進めてきました。また、幼・小・中・高の一貫美術教育を考えると、児童生徒の活動の基本に『あそび』という視点を考えました。これは、授業づくりを考えていくとき、『もう一つの授業』という手掛かりを持ち、今までの実践を振り返りながら、新しい「授業を構築」していこうと考えたからです。今までのものを否定することではなく、逆に財産としておさえ新しいものを志向しようとしています。

子ども本来の本能的なものまで含めたこの「あそび」という人間的な行為や思考を大切にしていきたいと考えます。

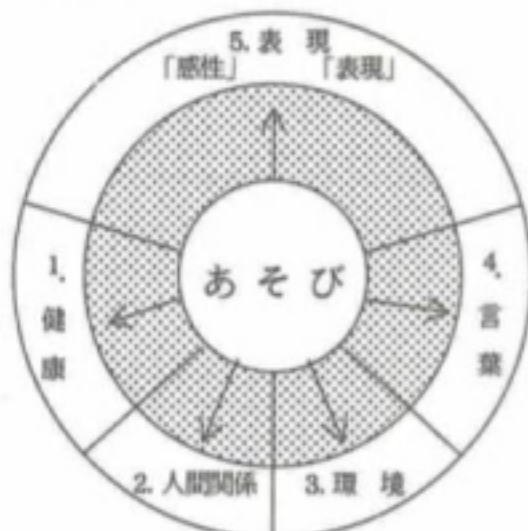
幼稚園の「あそび」、小学校の「造形あそび」、中・高等学校「遊び心」といったものを、組織的計画的な学校教育の中で実践していきたいと思えます。

幼小中高の領域構成と実践の基本姿勢（仮説）

1. 幼稚園

【領域】

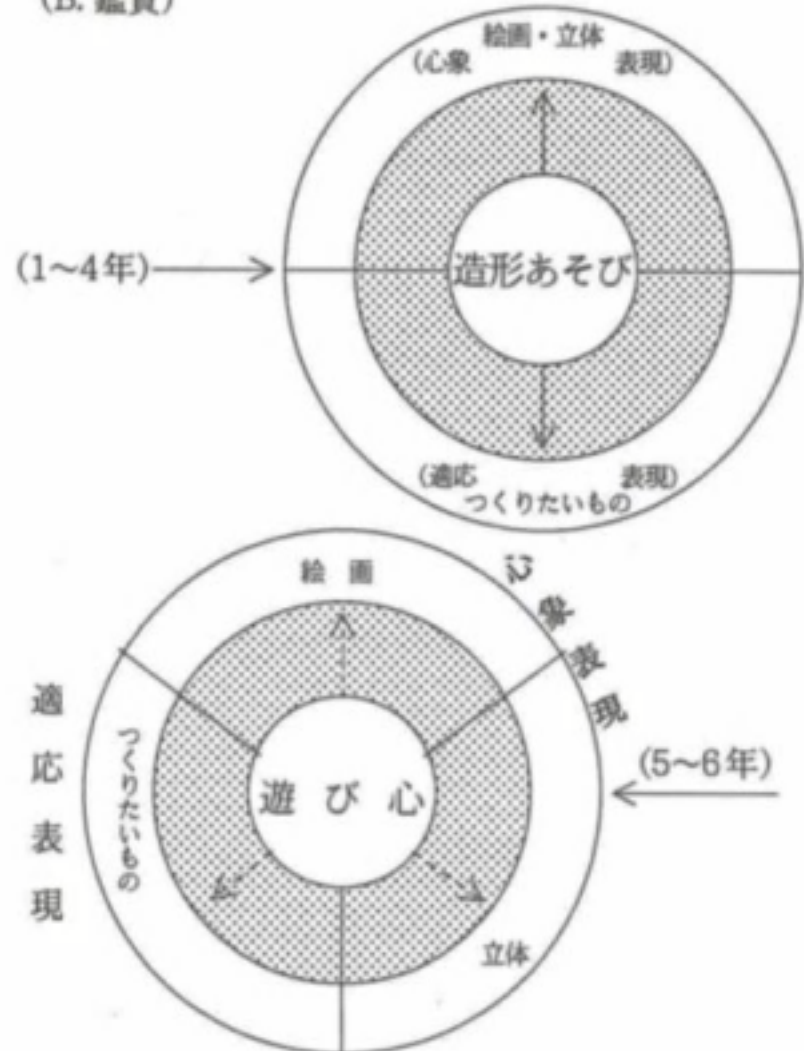
1. 健康
2. 人間関係
3. 環境
4. 言葉
5. 表現…「感性と表現に関する領域」
 - *動き *音 *かた
 - *言語 *手触り *うたう
 - *形・色 *つくる *物と遊ぶ



2. 小学校・図画工作

【領域 (A…表現・B…鑑賞)】

- A. 表現・絵画 (心象表現)
 ・立体
 ・つくりたいもの (適応表現)
- (B. 鑑賞)



3. 中学校・美術 高等学校・美術

【領域 (絵画・彫刻・デザイン・工芸・鑑賞)】

- *工芸のデザイン
- *工芸の制作 高校
- *工芸の鑑賞



*札幌大会実践研究発表の骨子

1. *公開授業

- ・ もう一つの授業づくり
- ・ 新題材
- ・ 領域をはずす
- ・ 学級経営の基盤
- ・ 授業展開のユニークさ

2. *分科会提言

- ・ これからの造形教育を考える
- ・ 新しい試みとして

3. 授業実践を写真と説明で「パネル発表」

- ・ 新しい指導計画や指導過程

4. 授業実践を「一冊の実践集」

- ・ これからの造形教育を志向して
- ・ 新しい試み

5. クリエイティブプラザ

- ・ 作品展示
- ・ 新素材の展示
- ・ 「みて、ふれて、かんじる」をテーマ
に実演実技コーナー

6. 中学校全体分科会

- 『新教育課程に中学校の対応はどうあればよいか』

おわりに

「鑑賞」の授業が、小学校高学年と中学校で一つずつ行われます。会場校の三角山小学校に隣接している本郷新彫刻美術館で授業公開されます。新学習指導要領の中でも重要視されている鑑賞教育の在り方を問うものですが、一つの問題と課題の提起になるところです。「鑑賞授業」について、深めていきたいと思しますのでよろしくお願い致します。

公開授業一覧

	校種別	領域・分野	学年	題 材 名	授 業 者	授業の場所
①	幼稚園	表 現	年長	がっきをつくろう	西野智子	4階音楽室
②	小学校	造形あそび	1	ふくらませてふくらませて	新井弘通	2階1の1
③		絵に表す	2	ざりがにさんとたんけんだ	大場章子	3階3の2
④			4	三角山の春夏秋冬	熊谷悦代	3階4の2
⑤			5	ぼくの夏・わたしの夏	稲實 順	3階4の1
⑥		立体に表す	6	決めろ！組み体操	今谷 孝	3階特活室
⑦			5	新考える人……わたしもロダン	菅原清貴	彫刻美術館
⑧		つくりたいもの をつくる	3	不思議の国の子どもたち	今 裕子	3階3の1
⑨			5	ひらけーゴマ！	植木則子	4階5の1
⑩		中学校	絵 画	2	もう一人の自分	八重樫 真一
⑪	デザイン・工芸		2	小学生へのメッセージ	伊藤 尚	4階6の1 (玄関)
⑫	彫刻・鑑賞		2	彫 刻 鑑 賞	中山龍雄	彫刻美術館

指導案





題	材	名	校	種	領	域	学	年	教	室
が	っ	き	を	つ	く	ろ	う	幼	稚	園
表	現	2	年	音	楽	室				

○園児 なかのしま幼稚園
2年 年長

○授業者
西野 智子

1. 題材目標

- ・ いろいろな素材や作り方によってできる音に興味を持つ。
- ・ 身近な音に興味を持ち、工夫して表現する喜びを味わう。

2. 題材設定の自由

年中の4クラスが分散し、年長の新しいクラスが編成された当初のクラスの現状は、活気に満ちあふれた反面、多少、集中力に欠ける面もあった。楽しい題材で表現する喜びを味わえ、遊びを発展していけるものはないかと考えた。身近な素材によってできるいろいろな音に興味を持ち、工夫すると、また違った音になるという発見する喜びを味わえないかと思った。おもちゃになる楽器を自分達で作り、いろいろな音を出して表現する喜びを味わわせたい。

3. 指導の全体計画

身近にある紙ひとつとっても、触った時、叩いた時、転がした時、吹いた時、それぞれ違った音が出る。1つの素材でいろいろな音が出て、更に素材に働きかけることによって音が変わるといった音あそびを経て、自分で作った時の音の印象を絵で表現し、変化を感じていく。いろいろな楽器を創ることで自分だけの音を創る喜びを味わい、物を創る喜びを得ていく。

4. 本時の目標

- ・ 素材によって、作り方によっていろいろな音が出ることを思い出し、工夫して楽器を作る
- ・ 自分で作った楽器を鳴らすことに期待し、創る喜び、表現する喜びを味わう。

時 間	幼 児 の 活 動	留 意 事 項
9:30	話し合い	・ 本時までの活動を思い出し、楽器について話し合いをする。 ・ 素材による音の変化、働きかけるものによっての音の変化に気付くような話し合いをする。
9:45	楽器づくり	・ 今迄よりも、よりはっきりとした音が出るよう働きかける。 ・ いろいろな材料を用意し、素材による音の変化に気付き、工夫して作っていけるよう働きかける。
10:10	楽器あそび	・ 自分の作った楽器に満足し、曲を感じとり表現していく。



題	材	名	校	種	領	域	学	年	教	室
ふくらませて	ふくらませて	小学校	造形遊び	1年	1の	1				

○児童
札幌市立三角山小学校

○授業者
教諭 新井 弘 通

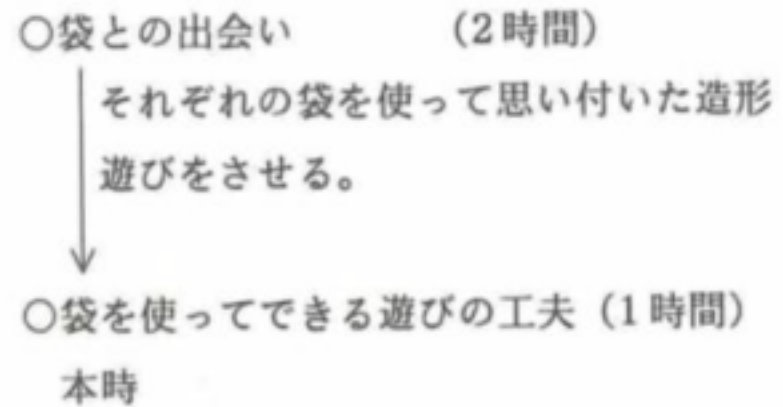
1. 題材目標

身近かな材料をもとにして、楽しく造形活動ができるようにする。

2. 題材設定の理由

ここで人工材料のポリ（ビニル）袋を取りあげたのは、①日常使われている身近かな材料で親しみがあり、扱いやすい。②軽くて運びやすい。③ふくらませることによって比較的大きな物もつくれる。④絵をかいたり、紙類なども簡単につけやすい。⑤空中に浮かせたり、とぼしたりできる。⑥部分的にしばったりすると形が変化する。などの長所があり、子どもたちの遊びへの興味や意欲をそそぎ、遊び方の広がりが期待できると考えたからである。

3. 指導の全体計画



4. 本時の目標

ポリ（ビニル）袋を使ってできる遊びを思いつき、楽しく遊ぶことができる。

子	ど	も	の	活	動	留	意	事	項
○自分の好きな遊びをする。——袋の形や色、大きさにも目	・ここに何をつけようかな。	をむけながらとぼす、かざ	・友達と一緒にしようかな。	る、ならべる、たてる、つ	・つなげてみたら○○みたい。	なげる…などの活動をしな	・先生、△△ができたよ。	がら造形遊びをする。	
○友達の遊びを見たり、楽しく遊んだことを発表する。	・本当に○○がいるみたいだね。		・大きな△△ができて、うれしかったぬよ。						
						*子どもにとって必要感のある材料を前もって用意しておく。			
						*消極的な活動している子への働きかけ			
						・何に困っているのか。どんな遊びをしようとしているのか。などを見取り、ほめたり、励ましたりして意欲化をはかる。			



題	材	名	校	種	領	域	学	年	教	室
ざりがにさんとたんけんしよう			小	学	校	絵	画	2	3	の
										2

○児童

札幌市立山鼻小学校

○授業者

大場 章子

1 題材目標

- (1) 未知の世界のイメージを広げ、探検している様子を楽しく描く。
- (2) 自分のイメージにあった探検の世界になるように描画材料を工夫して使う。

2 題材設定の理由

5月からの子供達の良き友達になっているザリガニ達。普段は狭い入れ物の中で飼育されているが、広い世界へ飛び出せたらどんなによいであろうということは、どの子も心の中で感じているに違いない。

いつも仲良くしているザリガニといっしょに未知の世界を探検することは、子供達の冒険心をくすぐり、夢をふくらませ、表現する

楽しさを増すことにつながると思い、この題材を設定した。

3 指導の全体計画（7時間）

- 1次… 探検している様子を想像する。(1)
- 2次… 進んでいく道やまわりの様子を構想し、表現する。(2)
- 3次… ザリガニと探検している様子を構想し、表現する。(3)
- 4次… 友達の作品を鑑賞する。(1)

4 本時の目標（5/7）

- (1) 自分の作った平面のざりがにを画面の上で動かしながら構想を深めていく。
- (2) ザりがにと探検していく様子を思いのままに描く。

子 ども の 活 動	留 意 事 項
<p>○切り取ったざりがにの絵を画面の上で動かしながら、イメージをふくらませ、画面構成を考える。</p> <p>○画面上のどこを探検しているか、行く手には、どんな世界があるのかということを決める。 (2、3人発表する)</p> <p>○線描していく。～クレヨンかコンテ～ ・想像しながら、ゆっくりした線で ・人物が小さくなりすぎないように ・想像していることを思いのままに ※切り取ったざりがにを画面に貼ってもよい。</p> <p>○着彩する。</p>	<p>○画面を縦にしたり横にしたり、ざりがにを大いに動かしたりして、画面の中で遊ぶことを奨励する。</p> <p>○机間巡視に際しては、一人ひとりの表現の良さをほめ、表現への意欲づけを図る。</p> <p>○材料、用具の効果的扱いになるよう助言する。</p>



題	材	名	校	種	領	域	学	年	教	室
三角山の春・夏・秋そして冬(ガラスにかく)		小	学	校	絵	画	4	年	4	の
									2	

○児童

札幌私立三角山小学校

○授業者

熊谷悦代

1. 題材目標

○三角山を中心とする生活の中から、感動を強く表現できる印象深い場面を選び、ガラスにいきいきと表現することができる。

2. 題材設定の理由

子どもたちは「三角山の時間」の活動を通して三角山と様々なつながりを持っている。情緒依存をまだ多分に残すこの時期の子どもの難しさを十分にふまえながら、あくまで感じる主体の“想い”を中心に体感感動や対象感動を絵画表現にまで高めていきたい、又、ガラスにかくという遊び心を満たしながら表現への自信につなげたい。

3. 指導の全体計画（7時間）

- ・ 生活の中から印象的な場面をとらえる
(思い起こし、掘り起こし) 1/2時間
- ・ 主題をきめ、グループの構造をきめる
1時間
- ・ かく場面を確定し、彩色・表現する
—— (本時4/5) —— 5時間
- ・ 完成した春・夏・秋・冬のモチーフを鑑賞する
1/2時間

4. 本時の目標

楽しい、感動のある三角山の四季を、その想いがよくよく出るように、ガラスの特質を考えて彩色することができる。

子	も	の	活	動	留	意	事	項	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 三角山の春・夏・秋・冬を、自分たちの気持ちがあられるようにガラスにかいたり、色をつける </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 対話を大切に <ul style="list-style-type: none"> ・ 根気強く表現活動を続ける ・ 友だちや自分の良いところにふれる ・ 描画材料を自信を持って選択し、活用する。 賞賛と励まし </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 一人ひとりが成功感を味わい、表現への自信をもつ </div> <p>画面を見直し、次期の表現場面を確認する。</p>					<p>めあての確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 色彩は自分の感情をあらわす大切な要素であることを体験させる。 ・ 追求する態度はどうか ・ 着彩に工夫があるか ・ 材料選択に巾が見られるか ・ 楽しみながら表現しているか <p>画面を見直し、次への表現へつなげる</p>				



題	材	名	校	種	領	域	学	年	教	室	
「	決	め	ろ	！	組	体	操	」	小	学	校
					立	体	で	表	す	6	年
										特	活
										室	

○児童

札幌市立幌西小学校

○授業者

今谷 孝

1. 題材目標

人の動作や体のつりあいをとらえて、素材の扱いを工夫しながら、生き生きと立体で表すことができるようにする。

2. 題材設定の理由

子ども達は、5年生の3学期から、運動会に向けて組体操の練習に取り組んできた。「より美しく」を合い言葉に、2人組、3人組の演技、多人数でのピラミッド、タワーの演技でバランス、関節の曲げ伸ばしの大切さに気づき始めたり、学級全員が一体となってつくりあげる喜びを味わうこともできた。

5年生で経験した心材と紙塑を使って、運動会当日にたくさんの拍手をもらった組体操の感じや思いが表れるように表現させたい。

このような活動から、子ども達が進んで創

造的に取り組み、楽しみながら造形活動を行う姿勢をつくりあげていくことを期待している。

3. 指導の全体計画

- ・ 組体操のVTRを見ながら、どんな場面をつくりたいか考える。 ～1時間
- ・ 心材（アルミニウム線）を使い、組んでいるところをつくる。 ～1時間
- ・ 紙粘土（木工用ボンドを混ぜたもの）で肉づけする。 ～1時間

4. 本時の目標

- ・ 自分がイメージしている体の動きに気をつけ、特徴があらわれるようにつくる。
- ・ 助け合いながら、根気強く、楽しく制作できる。

子	ど	も	の	活	動	留	意	事	項
<ul style="list-style-type: none"> ・ 心材組み合わせ、全体像を見してみる。 ・ 各自、紙粘土で肉付けする。 <p style="text-align: center;"> 2人組 3人組 タワー </p> <p style="text-align: center;"> バランスに気をつけながら… 立つように台座を固定して… 木工用ボンドを混ぜながら… </p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紙粘土がついた像を組み合わせ、全体像を見してみる。 						<ul style="list-style-type: none"> ・ 巡視しながら、子ども達の実態に合わせてアドバイスをし、動きや肉付けを工夫させる。 ・ 次への広がっていくふりかえりを大切にしたい。 			



題	材	名	校	種	領	域	学	年	教	室
新・考える人…私もロダン			小学校	鑑	賞	5	年	美	術	館

○児童

札幌市立三角山小学校

○授業者

菅原清貴

1. 題材目標

(1) 鑑賞活動の目標

- ・ 実際の作品を通してひとつひとつの作品が制作者の意図を形にしたものであることに気付くことができる。

(2) 制作活動の目標

- ・ 何かを考えたり訴えようとする姿を芯材を使った立体作品につくることができる。

2. 題材設定の理由

新指導要領では、高学年での鑑賞指導の重視をうたっている。優れた過去の作品の鑑賞は、美しいものに対する敬愛の心につながるものである。今回の題材では、作品に触れ、作者の感動を移入するねらいは当然であるがより自らの制作活動に結びつけることにより主

体的に鑑賞活動ができるようにと題材の設定を彫塑学習の一環として位置づけた。

3. 指導の全体計画（全体8時間）

- ロダンの「考える人」の作品鑑賞をする。
『新・考える人』のポーズを考え友達とモデルになりながらスケッチする（2時間）
- 彫刻美術館の現地鑑賞活動にでかける。
（本時・1時間）
- 芯材に粘土をつけ作品を完成させる。
（2時間）
- 最終デッサンをし、芯材の骨組み製作をする。
（2時間）
- 友達の作品から聞える声を想像し鑑賞しあう。
（1時間）

4. 本時の目標

- ・ 作品の意図を知り主体的に鑑賞ができる。

	子 ども の 活 動	留 意 事 項
とらえる	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの作品から聞えてくる「つぶやき」「さけび」を想像しながら鑑賞活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作者の生立ちなどにも接しより身近かに作品を感じるができるようにする。
広げ・深める	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一方向だけでなく側面・背面からも見ることにより立体作品に対する認識を深める。 ・ ひとつの作品を例により深く作者の意図、その作品から聞こえてくる心の叫びを感じとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の簡単な解説をし理解を深めより想像力を強くしたい。



題 材	名 校	種 類	領 域	学 年	教 室
不思議の国の子どもたち -魔法使いのかぶりもの-	小 学 校		つくりたいものをつくる	3 年	3 の 1

○児童 札幌市立伏見小学校

○授業者 今 裕 子

1. 題材目標

- ・ 身近材料をすすんで集め、その材料を生かして使うことができる。
- ・ つくりたい「かぶりもの」のイメージに合わせて、形や色、材料などを選んで使い、それらの感じなどに関心をもってつくることができる。

2. 題材設定の理由

自由で生き生きとした空想の世界にひたることのできる3年生の子どもたち。

素材との楽しい出会いが活動のきっかけとなり、子どもは、空想や想像の世界に遊び、思いのままに表現することができる考えた。

子どもの興味や関心を軸とした場を設定した題材群、「不思議の国の子どもたち」

一連の題材を通し、素材のもつ面白さに気付き、生かすことによって、つくる楽しさに

ひたることができると考えた。

3. 指導の全体計画

(1) つくることへの動機づけ

「いろいろへんないろの国」の魔法使いのかぶりものをつくろう。

(2) 材料集め

楽しさ、不思議さを表すための材料集め

(3) つくる

「ぼくもわたしもデザイナー」

・ 基本となる型づくり。

・ 装飾を工夫する。(本時3/4)

(4) 遊ぶ

服とかぶりものを身につけて遊ぶ

4. 本時の目標

集めた材料を使い、工夫しながら楽しくつくることができる。

子 ども の 活 動	留 意 事 項
(前時まで)『願いごとがかなう、ふしぎなかぶりもの』を自分なりにイメージした材料集め。かぶりものの原型づくり。	・ 目的をもった収集活動 ・ 共有の材料コーナーの設置
○「魔法使いがびっくりする、かぶりものをつくろう」 ・ もとになる型に、材料を工夫して飾る。 ・ 新しく思いついたことを楽しみながらつくる。 ・ 全体、向きを見ながらつくる。 ○服(前題材で製作)を着て、合わせてみよう ・ 似合うかな。 ・ もっと工夫することはないかな。	・ 学習内容の確認 用具、接着に必要な補助材料等はあらかじめ準備する。 ・ 意欲を促すアドバイス ・ 完成への見通しをもたせる。



題	材	名	校	種	領	域	学	年	教	室
ひ	ら	け	ー	ゴ	マ	!	小	学	校	つ
										く
										り
										た
										い
										も
										の
										を
										つ
										く
										る

○児童 札幌市立桑園小学校

○授業者 植木 則子

1. 題材目標

- ・ 開くとなにかがとび出してくるようなカードをつくる。
- ・ 仕組みをうまく使って、楽しいカードをつくる。
- ・ 配色、配合にも工夫して、よろこばれるカードをつくる。

2. 題材設定の理由

クリスマスカードなど、グリーティングカードが生活の中にとり入れられるようになり、カードが身近なものになってきている。そんなカードの中に、独自のアイデアを盛り込み、贈る側、贈られる側のコミュニケーションが、造形を通して出来るたのしさを体験し、生活を豊かに創る態度をつくりたい。

3. 指導の全体計画

- (1) カードづくりの興味や意欲をもたせる。
- (2) 開くとなにかがとび出す仕組みのあるカードを構想する。
- (3) 動きの仕組みを生かして、情景化する。
- (4) 配色や配合に工夫し、美しくデザインさせる。
- (5) カードを見せあい、互いによいところを認めあう。

4. 本時の目標

- ・ しかけを動かしながら、しくみが働くように、接着の位置をくふうし、接合完成させる。

子	ど	も	の	活	動	留	意	事	項
1.					着想に従って動く部分の接着に入る。				・ 手順を考え接着させる。
2.					↓				
3.					仕掛けを動かしながら動きの効果を考えて接着する。				・ 接着の部分に注意させる。
4.					↓				
5.					動かしながら想を広げる。友達と交流しながら想を深める。				・ アイディアをより確かにするてだての相談にのる。
					↓				
					接着のたしかな接合に一層気をくぼる。				
					↓				
					出来あがったカードを見せあい、動きの面白さを発表しあう。				・ 子どもの想いのほかの部分を見つけ出すようにする。



題	材	名	校	種	分	野	学	年	教	室
も	う	一	人	の	自	分	中	学	校	絵
							画	2	年	6
										の
										2

○生徒

札幌市立美香保中学校

○授業者

八重樫 真一

1 題材目標

- ・ 自分をみつめ、自画像を描くことによって自己理解に努めさせる。
- ・ 強調的表現によって個性的な表現の可能性を追究させる。
- ・ 主題にそった効果的な表現技法を習得させる。

2 題材設定の理由

中学2年になると自我意識の芽生えが見られるようになる。(人間としての発達課題) 一方、絵画表現も対象をより客観的にとらえようとする意識が高まる反面、描写力の不足により返って制作意欲を失う傾向も伺える。(造形意識の発達) そこで、「もう一人の自分」を題材として設定し、自由で自分なりの発想・構想・表現を保障することにより自己表現の可能性を追究させたい。

3 指導の全体計画

- ①画家の自画像を鑑賞させ、個性の表現や題材について理解させる。 1時間
- ②作文「今の自分」を書かせ、自分の表現主題を設定させる。 1時間
- ③鏡に映った自分を素描させ、強調などによる表現方法を追究させる。
[事前制作] 2時間
- ④自分の表したい気持ちを題名にし、強調して表す方法を工夫して描く。
[本制作] 本時(本制作6時間の1時間目)
- ⑤個々の表現主題による追究過程とその効果を相互評価させる。鑑賞 1時間

4 本時の目標

強調・陰影・背景処理等を工夫して、「自分らしさ」を効果的に表現できる下絵を制作する。

	生徒の活動	留意事項
導	前時までの学習をもとに本時のねらいをとらえる。	
入	・ 作文と自分の表現主題を発表する。	・ 指名計画による。
展	・ 強調・陰影・背景など表現効果や表現材料の可能性について理解する。	・ 参考資料による。
開	自分の構想による下絵を制作する。 ・ 線描により自分らしさを表現する。 ・ 強調・陰影・背景処理等の効果を追及する。	・ 最初に描いた線や調子などを生かすように指導する。
整	制作途中の作品を互いに批評し合う。 ・ 成功している、つまずいている作品を比較する。	・ 鏡でのスケッチから伸展した点。
理	・ 表現意図とその効果について話合う。 ・ 自分の個性的表現について自信を深める。	・ 主題を尊重する。
	自己評価欄(作品裏)に本時学習の記録をとる。 ・ 気付いたこと/発見したこと/次時への意欲など まとめと次時への見通しを持つ。	・ 自己評価による。 ・ 自由に伸び伸び制作していた事を励ます。



題	材	名	校	種	分	野	学	年	教	室														
小	学	校	へ	の	メ	ッ	セ	ー	ジ	中	学	校	デ	・	エ	2	年	6	の	1	(玄	関)

○生徒

札幌市立上野幌中学校

○授業者

伊藤 尚

1 題材目標

訴える対象に合わせて、デザインを選び、飾り付ける場所の条件を考えて、効果的な装飾活動ができる

2 題材設定の理由

中学の造形学習は、小学校のそれと異なり、ともすると高い技術の追究や大人の芸術活動の模倣に終始し、環境や社会との関わりを見失いがちであるように思う。

本題材では、「中学生から小学生への造形のうえでのメッセージ」というコンセプトで集団制作・奉仕の精神・装飾効果の追究など、造形の別の側面を学ばせたい。

3 指導の全体計画

○1学期に学習した「イメージ図形からの構成」の生徒作品から、「小学校へのメッセージ」にふさわしいものを5点選ぶ

○装飾場所や時間などの条件に沿って、材料や役割り分担を計画する

○装飾寸法に合わせて、原画を拡大し、下絵を作る

○下絵に合わせて装飾材料を切り分ける

○飾り付け・批評会（本時）

4 本時の目標

- ・グループ毎に効果的な飾り付けができる
- ・装飾の喜びを味わうことができる

	生徒の活動	留意事項
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始礼 ・ 原画の作者を中心に、飾り付けの決意や留意事項を確認し合う。(ディレクターあいさつ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 司会をしながら集団での学習の雰囲気づくりに努める。
展開	<p>…………… 移動 ……………</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5グループに分かれて飾り付けを行なう。 ①原寸下絵をガラスの裏側からテープで止める。 ②下絵に合わせてカラーチップを貼っていく。 ③チップの感覚や貼り方に統一感があるかどうかを確かめながら作業を進める。 ④原画の作者のアドバイスに従って修正を加え、装飾を完成する。 ⑤各グループの担当区域を片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動きが止まった生徒を見つけてアドバイスする。 ・ 各グループの間の作業進捗がかたよらないよう援助する。 ・ 装飾全体のイメージに関わる助言をする。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少し離れた位置から、作品を鑑賞し、必要があれば手直しを加える。 ・ 終礼 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 司会をしながら、装飾活動の感想も含めて発表させる。



題	材	名	校	種	分	野	学	年	教	室
彫刻鑑賞	(彫刻美術館を訪ねて)	中	学	校	彫刻鑑賞	2	年	美	術	館

○生徒

札幌市立八軒中学校

○指導者

中山 龍 雄

1. 題材目標

札幌彫刻美術館を訪ねて、作品を鑑賞し、彫刻のもつ造形美や魅力を感じることが出来る。本郷新氏の人間像にも迫りたい。

2. 題材設定の理由

札幌市宮の森にある札幌彫刻美術館を訪ねた経験のある生徒は、極めて少数である。我々の日常生活の中で彫刻のはたす役割は大きいものがあるが、まだまだ理解されるに至っていないのも事実である。札幌市をはじめ北海道の各地に数多くの彫刻を残した本郷新氏の彫刻をじかに鑑賞することは、生徒達に彫刻をより身近かに感じさせ、彫刻のもつ造形美も感ずることが出来ると思われる。今後の美術に対する興味が高まることも期待できる。又、授業にもつながっていくと思われる。

3. 指導の全体計画

1. 札幌彫刻美術館(別館)自主制作ビデオ鑑賞(平成2年の授業で鑑賞済)〈30分〉
2. 札幌彫刻美術館を訪ねるにあたり〈2時間〉
ア)本郷新氏の作品紹介…札幌市にある彫刻作品を自主制作ビデオで紹介する。
イ)本郷新氏の人間像(少年時代の話など)にふれ、彫刻家としての考えも紹介する
- 3.“鑑賞カード”の説明と事前準備〈1時間〉
4. 札幌彫刻美術館を訪ねて 〈本時〉
5. 鑑賞カード発表と授業風景鑑賞(ビデオ)
6. 開校30周年記念銅版レリーフ作製へ

4. 本時の目標

彫刻作品を直接鑑賞することにより、日頃感じることのできない彫刻のもつ造形美(量感・質感・プロポーションなど)を感じとれる。又、本郷新氏の人間像に迫る。

生徒の生活動	留意事項
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前後半に班を二つに分け、教師が説明することにより彫刻作品の見方を理解できる。一つの作品が生まれる際の作者の動機や願いにも気がつく。本郷新氏の人間像へ ・ 自由に班ごとに鑑賞できる時間で予想される活動 ア. 作品に手で直接触れることにより、その量感や重さに驚く。同時に彫刻が生徒達にとって親しみのもてるものに変化していく。 イ. ブロンズ鑄造時の凹型を鑑賞し、その制作過程を知ることができる。 ウ. 野外作品では彫刻のもつ空間への働らきかけに気づき、空間と彫刻の調和を感じとることができる。 エ. 数多くの本郷新氏の彫刻を鑑賞しながら事前学習でイメージされていた本郷新氏の人間像が次第に明らかなものとして生徒達の心の中に浮かびあがってくる。鑑賞カードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師がしっかり事前に学習を深め、的確な説明ができるよう注意したい。 ・ 時間を守って行動させる。 ・ 作品の取り扱いには十分注意させたい。 ・ 鑑賞(記録)カードは鑑賞する際にあまり生徒に負担にならないものにする。 ・ 野外作品のもつ存在感を味あわせたい。 ・ エのためには、事前学習でイメージづくりをしっかりとやる。 ・ 鑑賞カードの記入完成は夏休みの課題とする。



----- 分科会構成（その1） -----

① 保幼稚園・表現分科会（会場は授業と同じ4階音楽室）

分科会テーマ	*感じたことや考えたことを表現する意欲を引き出す造形活動	
話し合いの視点	1. 幼児期の造形活動をどのようにおさえるか 2. 造形活動への意欲を引き出すような環境のあり方	
授業者	<input type="checkbox"/> 西野智子（札幌・なかのしま幼）	<input type="checkbox"/> 大滝明美（副）（札幌・なかのしま幼）
提言者	<input type="checkbox"/> 吉田耕一郎（札幌・稲積幼）	<input type="checkbox"/> 柏木順（札幌・手稲中央幼）
助言者	<input type="checkbox"/> 森川昭夫（札幌・清明幼）	<input type="checkbox"/> 内田芳恵（札幌・なかのしま幼）
司会者	<input type="checkbox"/> 酒井三佳（札幌・白楊幼）	<input type="checkbox"/> 細川依子（札幌・清明幼）
記録者	<input type="checkbox"/> 森美由紀（札幌・福井野幼）	
運営委員	<input type="checkbox"/> 一瀬千恵（札幌・なかのしま幼）	

② 小学校・造形あそび分科会（会場は授業と同じ2階1の1）

分科会テーマ	*子どもの造形性が高まる造形あそび	
話し合いの視点	1. 3・4年生の造形あそびの具体化をどうはかるか 2. 子どもの活動が連続する造形あそびの題材開発	
授業者	<input type="checkbox"/> 新井弘通（札幌・三角山小）	
提言者	<input type="checkbox"/> 篠原寛（札幌・新陵小）	<input type="checkbox"/> 高橋百合枝（札幌・二条小）
助言者	<input type="checkbox"/> 高橋忠昭（東藻琴・山園小）	<input type="checkbox"/> 伊藤善彬（札幌・幌南小）
司会者	<input type="checkbox"/> 伊藤有為男（旭川・末広北小）	<input type="checkbox"/> 宮崎むつ（札幌・南白石小）
記録者	<input type="checkbox"/> 宗像宏子（札幌・緑丘小）	<input type="checkbox"/> 田中ふじ子（札幌・幌南小）
運営委員	<input type="checkbox"/> 八木明（札幌・清田南小）	

③ 小学校・絵に表す（低学年）分科会（会場は授業と同じ3階3の2）

分科会テーマ	*子どもの思いがひびきあう絵画指導	
話し合いの視点	1. 一人ひとりの想いを表現にむすびつけるにはどうすべきか 2. 子どもが夢中になって取り組む題材の開発	
授業者	<input type="checkbox"/> 大場章子（札幌・山鼻小）	
提言者	<input type="checkbox"/> 小泉誠（札幌・円山小）	<input type="checkbox"/> 土井善範（札幌・北園小）
助言者	<input type="checkbox"/> 関健治（石狩・花川南小）	<input type="checkbox"/> 蛸子信也（札幌・伏古小）
司会者	<input type="checkbox"/> 大井誠一郎（中標津・中標津東小）	<input type="checkbox"/> 小尾喬（札幌・伏古小）
記録者	<input type="checkbox"/> 平島恵都子（札幌・しらかば台小）	<input type="checkbox"/> 高井裕美子（札幌・幌北小）
運営委員	<input type="checkbox"/> 堀田之俊（札幌・大倉山小）	

④ 小学校・絵に表す（中学年）分科会（会場は授業と同じ3階4の2）

分科会テーマ	*子どもの思いがひろがる絵画指導	
話し合いの視点	1. 表現の幅を広げ、おもいのままに表現させるにはどうすべきか 2. 子どものイメージがふくらむ題材の開発	
授業者	<input type="checkbox"/> 熊谷悦代（札幌・三角山小）	
提言者	<input type="checkbox"/> 氏家珠実（札幌・八軒西小）	<input type="checkbox"/> 葛西良子（札幌・桑園小）
助言者	<input type="checkbox"/> 笠原金一（伊達・長和小）	<input type="checkbox"/> 坂口清一（札幌・藻岩小）
司会者	<input type="checkbox"/> 山谷礼司（函館・昭和小）	<input type="checkbox"/> 西寛（札幌・幌南小）
記録者	<input type="checkbox"/> 広瀬恵子（札幌・北光小）	<input type="checkbox"/> 塚本由希子（札幌・北光小）
運営委員	<input type="checkbox"/> 益村豊（札幌・前田中央小）	

----- 分科会構成（その2） -----

⑤ 小学校・絵に表す（高学年）分科会（会場は授業と同じ3階4の1）

分科会テーマ	*子どもの思いが生きる絵画指導	
話し合いの視点	1. 自己をみつめ進んで表現させるためにはどうすべきか 2. 子どもの思いが生きる題材の開発	
授業者	<input type="checkbox"/> 稲 實 順（札幌・八軒西小）	
提言者	<input type="checkbox"/> 早 坂 学（札幌・伏古小）	<input type="checkbox"/> 窪 田 恵 子（札幌・山の手小）
助言者	<input type="checkbox"/> 中 村 紀 男（釧路・朝陽小）	<input type="checkbox"/> 白 坂 和 夫（札幌・西岡南小）
司会者	<input type="checkbox"/> 渡 辺 貞 之（深川・菊水小）	<input type="checkbox"/> 鈴 村 幸 司（札幌・札苗北小）
記録者	<input type="checkbox"/> 永 井 智 子（札幌・八軒小）	<input type="checkbox"/> 高 向 修 子（札幌・山の手小）
運営委員	<input type="checkbox"/> 沢 波 隆 信（札幌・稲積小）	

⑥ 小学校・立体に表す（粘土）分科会（会場は授業と同じ3階特活室）

分科会テーマ	*一人ひとりの思いを生かす彫塑学習	
話し合いの視点	1. のびのびと表現する学習条件はどうあるべきか 2. 表現と鑑賞学習の一貫性をどうはかるか	
授業者	<input type="checkbox"/> 今 谷 孝（札幌・幌西小）	
提言者	<input type="checkbox"/> 小 柳 雄 嗣（札幌・桑園小）	<input type="checkbox"/> 池 田 悦 子（札幌・山の手小）
助言者	<input type="checkbox"/> 成 瀬 登（帯広・森の里小）	<input type="checkbox"/> 吉 田 俊 雄（札幌・二十四軒小）
司会者	<input type="checkbox"/> 佐 藤 諱 彦（苫小牧・大成小）	<input type="checkbox"/> 花 田 正 雄（札幌・篠舞小）
記録者	<input type="checkbox"/> 石 垣 あけみ（札幌・真駒内緑小）	<input type="checkbox"/> 石 垣 あけみ（札幌・発寒西小）
運営委員	<input type="checkbox"/> 今 川 忠 良（札幌・羊丘小）	

⑦ 小学校・立体に表す（鑑賞）分科会（会場は3階2の2）

分科会テーマ	*一人ひとりの表現活動にむすびついた鑑賞学習	
話し合いの視点	1. 一人ひとりの鑑賞活動を援けるにはどういう指導が望まれるか 2. 表現と鑑賞学習の一貫性をどうはかるか	
授業者	<input type="checkbox"/> 菅 原 清 貴（札幌・三角山小）	
提言者	<input type="checkbox"/> 板 田 恭 侑（札幌・石山南小）	<input type="checkbox"/> 村 田 力（札幌・福井野小）
助言者	<input type="checkbox"/> 石 井 久（森・石倉小）	<input type="checkbox"/> 伊 藤 英 世（札幌・東光小）
司会者	<input type="checkbox"/> 中 村 彰（釧路・附属小）	<input type="checkbox"/> 伊 藤 暢 紀（札幌・東苗穂小）
記録者	<input type="checkbox"/> 山 本 景 子（札幌・太平南小）	<input type="checkbox"/> 和 田 恵 子（札幌・手稲中央小）
運営委員	<input type="checkbox"/> 武 田 晃 一（札幌・福井野小）	

⑧ 小学校・つくりたいものをつくる（低学年）分科会（会場は授業と同じ3階3の1）

分科会テーマ	*つくる喜びがあふれる学習	
話し合いの視点	1. 子どもの思いがあふれる教材化のあり方 2. 子どもの思いをあふれさせる教師のかかわり	
授業者	<input type="checkbox"/> 今 裕 子（札幌・伏見小）	
提言者	<input type="checkbox"/> 桜 田 豊（札幌・幌西小）	<input type="checkbox"/> 濱 野 り な（札幌・澄川小）
助言者	<input type="checkbox"/> 中 川 信一郎（乙部・富岡小）	<input type="checkbox"/> 谷 勲（札幌・澄川西小）
司会者	<input type="checkbox"/> 竹 内 堅 司（留萌・幌糠小）	<input type="checkbox"/> 板 木 武（札幌・幌南小）
記録者	<input type="checkbox"/> 佐 藤 真 弓（札幌・大谷地東小）	<input type="checkbox"/> 田 中 佐知江（札幌・篠路小）
運営委員	<input type="checkbox"/> 毛 利 聡（札幌・中央小）	

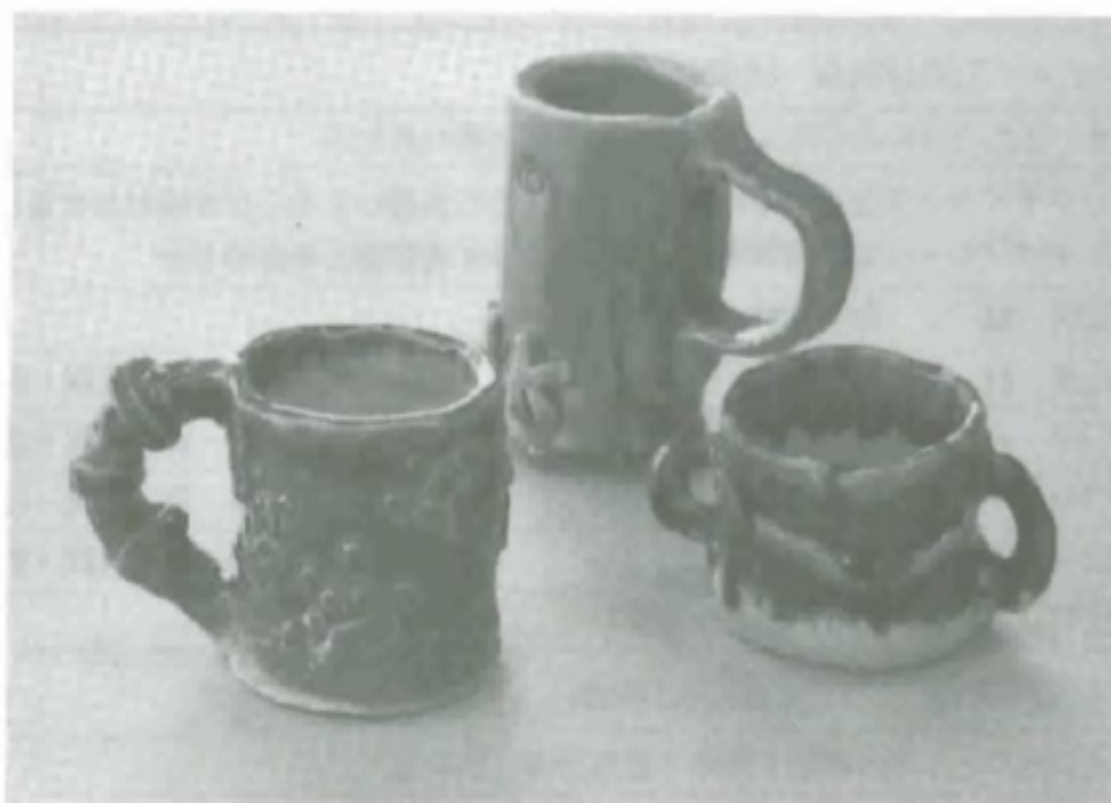
----- 分科会構成（その４） -----

13 高等学校分科会（会場は2階1の2）

分科会テーマ	*生徒の意欲を喚気させる題材研究
話し合いの視点	*（独自の題材の交流）
提言者	□香西富士夫（札幌・平岸高）
助言者	□開沼英則（札幌・東陵高）
司会者	□土岐禎次（札幌・北高）
記録者	□小林智彦（札幌・南高）
運営委員	□中田千年（札幌・稲雲高）

■中学校・新教育過程への対応分科会（2日目・午前9時～10時20分）（会場は4階音楽室）

分科会テーマ	*これからの美術教育 -教育課程はこう変わる-	
提言者	□武市尚政（札幌・清田中）	□奥野郁男（札幌・柏中）
司会者	□村谷利一（札幌・北栄中）	
記録者	□多田紘一（札幌・柏中）	
運営委員	□角力山 旭（札幌・陵北中）	



----- 分科会構成（その3） -----

⑨ 小学校・つくりたいものをつくる（高学年）分科会（会場は授業と同じ4階5の1）

分科会テーマ	*つくる喜びが生きる学習	
話し合いの視点	1. 子どもの想いが生きる教材化のあり方 2. 子どもの想いを生かす教師のかかわり	
授業者	□植木 則子（札幌・桑園小）	
提言者	□土肥 宏充（札幌・小野幌小）	□白井 真澄（札幌・稲積小）
助言者	□渡部 稔（赤平・平岸中）	□鶴賀 孝三（札幌・新陵小）
司会者	□出村 英和（芽室・芽室小）	□小林 万咲彦（札幌・澄川小）
記録者	□山室 ゆかり（札幌・南の沢小）	□木戸 久美子（札幌・共栄小）
運営委員	□大村 憲一（札幌・真駒内南小）	

⑩ 中学校・絵画分科会（会場は授業と同じ4階6の2）

分科会テーマ	一人ひとりの心が拓く絵画指導のあり方	
話し合いの視点	1. 絵画の学習を通してどのように表現の喜びを味わわせるか 2. 絵画の学習を通してどのように造形能力を高めるか	
授業者	□八重樫 真一（札幌・美香保中）	
提言者	□富田 賢司（札幌・新琴似北中）	□向 敏光（札幌・平岡中）
助言者	□稲船 正男（釧路・美原中）	□新谷 純鋪（札幌・札幌中）
司会者	□佐藤 公毅（苫小牧・沼ノ端中）	□小幡 哲也（札幌・札幌北中）
記録者	□六本木 祐司（札幌・東栄中）	□西山 昇（札幌・あやめ野中）
運営委員	□田中 潤（札幌・丘珠中）	

⑪ 中学校・デザイン・工芸分科会（会場は4階6の1）

分科会テーマ	*一人ひとりの心が拓くデザイン・工芸指導のあり方	
話し合いの視点	1. デザイン・工芸の学習を通してどのように表現のよろこびを味わわせるか 2. デザイン・工芸の学習を通してどのように造形能力を高めるか	
授業者	□伊藤 尚（札幌・上野幌中）	
提言者	□高杉 正和（札幌・啓明中）	□阿部 時彦（札幌・南が丘中）
助言者	□田邊 康夫（函館・大川中）	□平山 満（札幌・藤野中）
司会者	□長谷川 政司（留辺蘂・温根湯中）	□小野 泰裕（札幌・山鼻中）
記録者	□木原 英俊（札幌・向陵中）	□菅原 尚俊（札幌・青葉中）
運営委員	□岩間 歳仁（札幌・厚別中）	

⑫ 中学校・彫刻鑑賞分科会（会場は4階5の2）

分科会テーマ	*一人ひとりの心が拓く彫刻・鑑賞指導のあり方	
話し合いの視点	1. 彫刻・鑑賞の学習を通じてどのように表現の喜びを味わわせるか 2. 彫刻・鑑賞の学習を通じてどのように造形能力を高めるか	
授業者	□中山 龍雄（札幌・八軒中）	
提言者	□中尾 孝典（札幌・日章中）	□池嶋 憲彦（札幌・稲積中）
助言者	□千葉 豊治（旭川・六合中）	□東志 隆（札幌・新川中）
司会者	□山口 長伸（羅臼・羅臼中）	□小泉 信嗣（札幌・陵北中）
記録者	□後藤 和司（札幌・白石中）	□岡島 仁志（札幌・稲積中）
運営委員	□合田 典史（札幌・発寒中）	

提 言





表	題	校	種	領	域	学	年	教	室
描く状況作りと描きたい対象	幼稚園	表	現	5	才	音	楽	室	

○提言者

吉田 耕一郎

(学校名)

札幌市立いなづみ幼稚園

1. はじめに

幼児にとっては、遊びを中心とした生活まることが、成長・学習の場である。従って、生活と分断して知識や技能を教え込むのではなく、基本的には長いスパンの、様々な経験の中で、その子に合った方法により、大切だと思われる内容を伝えていかねばならない。

今回は、その様な基本的なスタンスを土台にしながら、絵画という側面に絞り、どのように表現意欲を高めていっらいいか、について私自身の実践を報告することで提言としたい。

2. 研究の概要

描きたい時に描ける、描きたくて仕方のない対象がある、こんな状況をどう作っていったらいいのか、ということ

課題1 幼児が自力で材料を扱えるようにする、環境上の工夫・配慮

課題2 描きたくなる対象とはどんな物で、その特徴を探る

という2点から研究を進めてみた。

3. 指導の実際

(1) 課題1について

① 画材

幼児の描きたい欲求を見ながら、細かい表現に答えられるように色鉛筆、サインペンを用意した。

絵の具は、水との調合は現状では無理と判断し、ペットボトルに7~8色を用意しておくようにした。

② 用紙

用紙は、表現対象、イメージに合わせて選択可能な様に、八つ切画用紙、四つ切色画用紙(淡色系)を用意した。

③ セッティング

準備→描く→片付け、が判り易く、ひとりでもできるように、保育室の片隅を、画材、用紙を置くスペースとして固定した。

(2) 課題2について

① 虹の絵

雨上り、きれいな虹が空に浮き出てきた。注視し、口々に、感激の声をもらす。一人が描き始めると、多くの子が虹を見ながら、或いはイメージを広げて描く。感動や喜びをともなった経験が、表現につながった。

② 山の絵

ペットボトルに絵の具を作っていたことに刺激され、「手稲山を描きたい」と対象を自分で限定して取り組む。表現対象を生活の中から見つけた。

4. 成果と今後の課題

材料を自分で扱えるということは、描きたい時に取り組み、かつ自分のイメージによって自由に選択できることにつながる。今回はそれが可能になったと思う。また、描きたくなる対象も感動したことだけではなく、極めて身近なことが選択されることがわかった。

今後は、これらの環境を活用して、あまり絵を描かない幼児に、この表現の楽しさをどのように伝えていっらいいか究明したい。



表	題	校	種	領	域	学	年	教	室
生	活	・	遊	び	・	絵	幼	稚	園
				絵	画	5	歳	音	楽
								室	

○提言者

柏木 順

(学校名)

札幌市立手稲中央幼稚園

1. はじめに

幼児の遊びを見ると、その中に様々な造形活動が含まれているものが多く、幼児にとって造形活動は身近な物である。

しかし、入園してきた時点では創造的な絵を描く幼児と概念的な絵しか描けない幼児がいる。幼児の生活の中で何が影響して表現に違いが出てくるのか。

そこを具体的な実践を通して考察し提言したい。

2. 研究の概要

(1) 主に造形活動からみた幼児の実態

- ・ 汚れることを嫌う幼児。
- ・ 入園してきた時点で既に絵を描くことに恐怖心を持っている幼児。
- ・ 絵が描けず文字を書きたがる幼児。
- ・ 外界を変過させる遊びが好きな幼児。
- ・ ごっこ遊びにも見られるように想像力の豊かな幼児。

(2) 研究の方向性

現在の幼児の実態をよく見て仮説を立て、その援助を考えた。

3. 指導の実際

<実践例1>

『絵を描きたがらないA君とのかかわり』
A君は入園以来、自分からは好んで描こうとはしなかった。

そこで数種類の素材、道具を用意して教師と一緒に描きを十分に楽しんだ。特にスピードや空間に変化をつけて遊ぶと喜んだ。

しばらく遊ぶとマルをお兄ちゃんや友達に見立て、やがてお母さんの顔を描いて遊び始めた。

<実践例2>

『描く目標を持つことにより絵に変化が表れた例』

「昨日何して遊んだかおもしろかったことを絵で教えて」とクラスの幼児全員に一斉に課題を出した。

普段は自分が描きたい時にそれぞれが自由に描いていることが多かった。しかし、明確な目標を持つことにより今まで概念的な絵を描いていた幼児の絵に変化が見られた。

4. 成果と今後の課題

外界を変化させる喜びを十分に味わうことにより、今まで描きたがらなかった幼児が自ら描き始め、描く目標を持つことにより概念的な絵に変化が見られた。

これらのことから「外界を変化させる喜び」「描く目標」が十分に育っていない幼児には園生活の中でそのことを援助する必要がある。

園生活では表現の技術的なことだけを取り上げていくのではなく、総合的な生活経験を保障することが大切である。しかし、子どもの遊びや生活の変化に伴い表現力の低下が見られる現状では、表現力を培う教師の意図的・積極的な指導が不可欠だと考える。



表	題	校	種	領	域	学	年	教	室
今、なぜ中学年まで造形遊びか		小	学	校	造形遊び	4	年	1	の 1

○提言者

篠原 寛

(学校名)

札幌市立新陵小学校

1. はじめに

今まで低学年にのみあった造形遊びが、平成4年度から中学年まで学年が進んで取り入れられることになった。

もともと幼稚園で遊びを通して造形教育がなされているのに、小学校に入ったとたんに造形教育から遊び的要素がなくなっていることから、「幼稚園とのつながり」も含めて小学校の低学年に造形遊びが取り入れられるようになった。

指導する側の子どもへの要求、おしつけがなく、子ども達は造形遊びを通して子ども本来の遊ぶ活動をしながら造形活動をしていく。その造形遊びが、今なぜ中学年まで取り入れられようとしているのか考え実践してみた。

2. 研究の概要

まず低学年の造形遊びを考えるにあたり

- (1) 机をはなれ広い場所で全身活動をさせる(教室の2倍くらいの広い何も無い部屋、体育館、屋上、体育館など)
- (2) 造形的要素のある素材を大量に使う。(土、砂、石、雪、チョーク、新聞紙、ゴミ袋、あき箱、牛乳パック、ダンボールなど)

これらの素材と場を与えられた子どもたちは、自然と遊びをはじめ、かく、並べる、積む、つなげる、くっつける、穴をあけるという活動になっていく。やがて、個の活動から2~3人の小グループの活動へとになっていく。そこには計画性はなく、思いつき

で活動するのが低学年の実態である。

では、中学年での造形遊びは、この考えをどう発展させていくとよいか。中学年ともなると、ある程度見通しを持って計画的に活動できる学年であるので、場と目的を与えてやると自分達で必要な材料を考え、集め全身を使って造形活動していけると考えた。集めては考え、考えては造り、造って困っては、また新たな材料を思いつき集めて造形活動をする。どのようにするか相談すること、集めること、造ること、完成した物で楽しむこと、このすべてが中学年の造形遊びと考え実践してみた。

3. 指導の実際

<自転車カーニバル>

- (1) 自分の自転車にいろいろな材料を使って改造(仮装)し、〇〇号という名前をつけ発表会をかねて自転車のお祭りをすることを知らせる。
- (2) 個人またはグループでどのように改造(仮装)するか相談し材料を集める。
- (3) 集めた材料を使って自転車を改造する。
- (4) 改造された自転車にふさわしいように乗り手の服装などいろいろな材料をつけて変身する。
- (5) グランドで実際に発表しカーニバルをする。(ビデオにとって親に見てもらう)

4. 成果と今後の課題

- (1) 改造すると乗りづらくなるので子どもなりに苦勞するが、工夫しながら喜んで取り組める題材である。



表	題	校	種	領	域	学	年	教	室			
環境と材料（生活の中の材料）	小	学	校	造	形	遊	び	4	年	1	の	1

○提言者

高橋 百合枝

(学校名)

札幌市立二条小学校

1. はじめに

体全身を使い、持っている力を出し切りながら夢を駆り立てる取り組みは、子供にはもちろん、大人にとっても魅力的である。

既製品にとりまかれている子供達でも、素材や道具に接すると自らの手で創造作品をつくりあげることに関心を示し、意欲的に取り組む。

子供たちの生活の中には素材となる材料はたくさんある。それを集めることで活動への関心が高まり、楽しみながら工夫や気づきを生み出す。さらにそれをもっとダイナミックにとらえて場づくりしていくひとりで大きな活動となり子供たちの夢は広がっていくものとする。

2. 研究の概要

タップボトルを素材とした活動の取り組みのきっかけは、じゃがいもの水栽培で使った清涼飲料水のタップボトルを集めたことであった。透明ボトルはいろいろな夢を生み出す。これをガラクタランドシリーズ“夢工場パートⅡ”としてとり上げた。

パートⅠでは生活の中の廃品であるテレビ、ラジオ、掃除機などをドライバー、ペンチ、金のこを使って分解し、分解された部品を思い思いの作品に変身させて楽しむ活動の展開であった。活動後、子供たちの生活の中にある“廃品”を見る目は、しだいに何かできる“材料”として映ってきたことは確かである。

子供たちをとりまく環境は自然の材料が

集めにくい。そんな地域性を考慮しながら、子供たちの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てていくには、身近材としての廃材の出会い方を工夫していくこともひとつの方法と考える。

子供ひとりひとりが十分材料と関わる中で発想を楽しみ、広げ、最終的には全員でひとつの大きな造形作品をつくりあげていくダイナミックな活動の中に子供を浸らせたいと考え、実践した。

3. 指導の実際

ガラクタランド-夢工場パートⅡ

<ぼくらは建築家>

- (1) 透明ボトルで遊ぶ
- (2) 何ができるか発想し合う
- (3) ひとりひとりが建築家になってボトル建築物を考える。
- (4) 大量のボトルを集める
 - ・発想の広がり（木の枝のすだれ
玉ねぎの染色）
- (5) 新築工事（積み上げ）
- (6) 塗装工事・装飾工事（色・もよう）

4. 成果と今後の課題

子供からの発想で活動の内容を組み立てたが、タップボトルは一本でも大量でも子供の思いを引き出してくれるものであった。

今後も、どうしたら子供が自分から材料と関わり、つくる意欲をもって活動の場をつくり出していくか問い続けたい。しかし、活動の過程で発想の広がりに伴う時間の保障については今後の課題である。



表	題	校	種	領	域	学	年	教	室
技術遊びの中から表わす		小学校		絵	画	低学年		3	の2

○提言者

小 泉 誠

(学校名)

札幌市立円山小学校

1. はじめに

造形遊びの持つ、「楽しさ・速さ・広がり・深まり」の特性を絵画・版画分野でも生かすことすことができないだろうか。

また、その時に、子ども達は、どんな作品を創り出してくれだろうか。

そんな思いで、一年生とのささやかな実践を始めることにした。

2. 研究の概要

～色と形の遊びの中から～

－技法遊びから、絵画表現へ－

(1) 再生的想像から創造的想像へ

これまでの生活画の分野では、イメージを再現させ表現に結びつけていたが、生活科が新設されると、この表現活動は、どうしても生活科へ移行せざるを得ないように感ずる。

図工科では、やはり、創造的想像力を生かした表現活動に中心を移す時期にすでに入っていると思われる。

(2) そこで、色や形からの発想、用具や材料からの発想を豊かに広げる題材づくりや、工作・絵画・版画などという分野を分けずに平面の表現の試行を行うことにした。

3. 指導の実際

(1) 色ぬり遊びから「お母さんの絵」へ
「大きな卵を描こう」という呼びかけから、面ぬりをし、内容を意識化させる。「お母さんのおしろいをつけた顔みたいだね。」
→「おしゃれをしてあげよう。」

(2) はり絵遊びから「ふしぎな鈴の絵」へ
色画用紙をもんでちぎる遊びをして、穴を開け、のぞく中で、土の中の様子を想像させ、好きな動物や、虫の線描をたくさん行った。(線のトレーニング)

(3) ローラー遊びから「かたつむりのお散歩の絵へ

ローラー遊びの中で、子ども達は、「道」を意識し始めた。そこで、毎日一緒に暮らしている「かたつむり」になっておさんぽに行こう。と呼びかけ表現させることにした。

(4) クリスマスが近づき、「あわてんぼうのサンタクロース」を歌っていると、「サンタさんちのおうち、どこにあるの?」「今、なにしているのかな?」などの話題から、描きたいことをコンテで描き、ローラーで雪・氷の野原を彩色する「サンタさん、今、何をしてるのかな?」の表現が生まれた。

4. 成果と今後の課題

今までの私の実践は、やはり、私自身の作品のイメージが強く、どうしても内容が画一的になり、指導者らしきはあるが、ひとり一人の子どもの姿が豊かに表われているとは言えなかったのではなかろうか。

この試みを通して、本来子ども達の持っている造形に対しての活動意欲を支える教師の働きかけと、学習の環境づくりの大切さを強く感じるこちができた。



表	題	校	種	領	域	学	年	教	室
思いを表現にむすびつける試み	小学校	絵画・低	2	年	3	の	2		

○提言者

土井善範

(学校名)

札幌市立北園小学校

1. はじめに

子どもたちが夢中になって取り組む授業をいつも展開したいと思っている。落ちつきなく、じっとしてられないあの子ども、いつも消極的なあの子ども、にこにこ顔で生き生きと表現している授業展開を……。

水彩絵具という新しい用具・材料を手にした子どもたちは、口々に「絵具が大好き！」と言う。これを機会に、他の材料も含めて、表現に関わる経験を遊びを通してながら豊富に持つことを進めていき、その経験のひとつひとつが、自分の表現の手段として持つことができたならば、今まで以上に自分の思いをのびのびと表現していけるのではないかという考えのもとに実践してきている。

2. 研究の概要

自分の実践を振り返ってみると、とかくこの絵はクレヨンで、今後は水彩絵具で等の様に画一的で用具材料についても限定しがちであった。それぞれのように長い歴史があり、価値がある。経験を多く持つことは、慣れ、技能が高まることにも通じる。しかし、もう少し広い視野に立ってみるならば、子どもにとって絵とは内面を伝える1つの手段であり、そこで使用されるものは、より自由であってよいし、きゅう屈なものであってはいけないという考えにいきつく。

子どもたちは表現する時、自分なりの方法で、精一杯思いを伝えようとしている。

技術的に高まっていなくとも、がんばっているのだ。そこで、もっと表現の幅をひろげ

てあげることで、精神的にも技術面からも解放されて、自分の思いを伝えることができるであろうと考えた。研究の進め方として、次のステップを考えた。

- ①材料から表現技法遊び
- ②発展としてどのようなことができるか
- ③様々な経験をもとに、自分で選択しながら表現に生かす段階

3. 指導の実際

表現の技法として実践しているのは

- ①ちぎり紙
- ②かたおし（スタンピング）
- ③こすりだし（フロッタージュ）
- ④コラージュ（砂や廃材をも含む）
- ⑤そめ紙

などである。実践していく中で、気づくことは、材料体験が少ないということである。似たことはやったという子どもも少数いるが、記憶がはっきりしない程度のことである。子どもたちは、時間いっぱい楽しく活動し、次々と試す活動に入っている。描く、つくるといった活動の前にある、こうしが発見や試しという経験が、思いを表現する大切な力となることを痛感したのである。

4. 成果と今後の課題

「こうするとうまくいった！」という経験の積み重ねから、技法や材料の選択も、より自分の思いに合うようにできてくると考えられる。今後は、さらに実践を通して進めていくことと、子どもたちの生活もう少し掘り起こしていくことであろう。



表	題	校	種	領	域	学	年	教	室
子どもの想いを広げるお話の絵の実践		小	学	校	絵に表す	中	4	の	2

○提言者 (学校名)
氏 家 珠 実 札幌市立八軒西小学校

1. はじめに

対象の色や形を何とか自分の見た通りに描き、表現したいという欲求が高まってくる中学年では、いざ描くとなると、知識と手の動きが一致せず、描くことに不安を覚えたり、図工が嫌いになる傾向にある。本題材では、子ども達の生活の身近にある自転車をモチーフに、もう一度見つめ直し新しい形の発見をさせ、次のステップであるお話の絵の確かなイメージづくりに役立てたいと考えた。また、この自転車をモチーフに教師がお話しのきっかけをつくり、子ども達に創造・空想の場を与えることを通して、自由な想いを広げ、絵の中に自己を解放することを願い、お話の絵に取り組んだ。

2. 研究の概要

この実践では、教師の与えたお話のきっかけに続けて、子ども一人一人のつくったお話をもとに、思い思いに画面構成を考えながら下絵を描き、さらに、自分で立てた彩色計画に沿って、絵に見合った色を置いて行く。子ども一人一人が、自分の想いに従って描き進めていく形式を取っている。普段の授業では、指導の徹底、効率の向上を考え、ある程度限定された形で彩色指導を進めることが多いが、今回は、子どもの意欲の持続化と、子ども自身が持つイメージの広がりをねらって、各自の彩色計画に従って描き進めるといった彩色指導のあり方をさぐる一つの問題提起として授業の流れを考えてみた。

3. 指導の実際

“ある日、自転車に乗って出かけた私は、ふと海のそばに自転車を止め、心地良い風にふかかれていると、どうでしょう。不思議な力がぐいぐいと私を海の底に引き寄せるではありませんか…中略…そこには今まで見たこともなかったような不思議な世界が広がってありました。”

モチーフ（自転車）のスケッチ……2時間
 お話の続き・アイデアスケッチ……1時間
 アイデアスケッチをもとに下絵……1時間
 着彩計画を立てる・着彩をする……3時間
 互いの作品を見合う……1時間

モチーフとなった自転車の形を確かなものにするためスケッチも入れ8時間の計画を立てたが、ここでの一番のポイントは、何といってもアイデアスケッチにあった。お話づくりの際にも、前景・中景・後景の手がかりになるものを出す様指示した。しっかりとした下絵作りをした子ども達が絵と相談しながら描き進めて行く様子が印象的だった。

4. 成果と今後の課題

子ども自身のつくったお話をもとに、下絵着彩を進めたが、どの子どもも実に積極的に関わり、絵を描き終えた後、一様に満足の表情を浮かべていた。子ども自身のやる気にゆだねる部分も多く、冒険ではあったが、オリジナルの部分が意欲の高まりにつながる要素も大きいことを感じている。今後は、発達段階に合わせた描法指導も含め、想いの広がりをさらに大きなものにして行きたいと願っている。



表	題	校	種	領	域	学	年	教	室
桑園	み	～	つけ	た	小学校	絵	画	3	年
								4	の
								2	

○提言者

葛西良子

(学校名)

札幌市立桑園小学校

1. はじめに

3年生の社会科で校区探検という学習があるので、これを図工に生かしてみようと思いとりくんでみた。

ふだんなにげなく生活している自分たちの地区を、「こんな建物があつたんだあ。」

「かっこいい車が走ってるよ」

「かわいい馬がいる。」

と、こんなふうに見なおしてみたり、新しく見つけ出したことを絵に表してみようかどうかと考えてみた。

子どもたちが実際に足で歩いて、目や手や耳で感じとったり思ったりしたことをすなおに表現させてみたいと考えた。

2. 研究の概要

表現の幅を広げてみる一つの方法として、これまでの四つ切り八つ切りの画用紙から一步抜け出して、円の形の中に表現させてみようと考えた。

円の形の中に中学年の特徴でもあるくり返しのリズムにのった表現をさせてみようと考えてみた。

また、絵には台紙をつけてみることにし、これには、マーブリングをあしらったものを取り入れ、色彩はえのぐばかりでなく、絵の具と版画の組合わせにより表現の幅を広げてみようと考えた。

題材開発の面では、他教科と関連づけ、社会科で学んだ校区探検を生かし、自分たちの住んでいる地域を見なおし、再発見した感動どうを豊かに表現させたいものである。

3. 指導の実際

(1) 題材みつけ

- ①桑園を探検に行くことを話し合う。
- ②実際に出かけ、スケッチをしたり、調べたりする。

(2) 下絵をかく

- ①何をどのように描くかを定める。
- ②感動した場面を、円形の工作用紙にサインペンを使って描く

(3) 彩色する

- ・えのぐでそえる感じで彩色する。

(4) 台紙作り

- ・四つ切りの画用紙に、マーブリングをする。
- ・色の流れがおもしろい形になるよう工夫する。

(5) 絵に台紙をつける。

4. 成果と今後の課題

絵というと、私自身どうしても、四つ切り八つ切りの画用紙をイメージ化してしまう。色にしてもクレヨンかえのぐと、頭から決めてかかっているむきがある。

教師自身がもっと発想の転換をし、違った角度から子どもの表現のほりおこしをしてやる必要があるのではないかと思う。

教師の考え方、生き方が、子どもののびやかな表現につながることであるし、私たちも固定した概念にとらわれず、子どもの視線に立ってものを考え、実践していくことが必要ではないかと思う。



表	題	校	種	領	域	学	年	教	室
誰も知らない世界を〇〇〇で旅する		小	学	校	絵に表す	6	年	4	の1

○提言者

早坂 学

(学校名)

札幌市立伏古小学校

1. はじめに

私の勤務する学校では、開校以来、年に2回の絵を描く週間を実施しており、絵に対する児童の興味・関心は割合高い。しかし、同題材で毎年くり返してきたことで、表現が画一化され、個性的な絵が少なくなってきた。

新学習指導要領では、作品主義を排し、児童自らの思いや考えを生かすことを重視しているが、この新しい方向性と、わが校で行ってきた絵画指導の反省という観点から、今回の実践を進めてきた。6年生の児童がこれまで培ってきた経験を生かし、一人ひとりが主体的に、多様な表現を指向できるように題材を工夫し、材料・技法を選択させた。

2. 研究の概要

新学習指導要領では、5・6年の目標として、「造形的な見方や感じ方を深め、想像力を働かせて主題の表し方の構想を練り、技法などを工夫して表し、造形的な創造表現の能力を高める。」とある。

この題材では、児童が内なる自由なイメージの世界をふくらませ、自分だけの世界を創造し、表現することをねらいとした。自分だけの世界を作りあげていくにあたり、スパッタリング、マーブリング等の技法を自分の表現したい内容にあわせて取り入れ、さまざまな試行錯誤をくり返しなが、自分に合う表現方法を切り開いていかせた。絵はどんな方法で、何をを使って表してもよい

ということを通して、自由な発想や試みをさせたいと考えた。

3. 指導の実際

この題材に入る準備段階として、カラージュを利用したポスターや、スパッタリング、ローラーステンシル等を利用したカードを作り遊び感覚で行い、楽しみながら技法を覚えていった。構想段階では、「誰も知らない、私だけが知っている、もうひとつの世界を想像しながら、〇〇〇で旅する様子を工夫して表そう。」という呼びかけで制作カードをもとにイメージをふくらませていった。発想は、大きく分けて、題材からイメージし発想する方法と、材料や技法から発想を広げる方法があると思うが、今回はこの両面からの発想が行なわれたようである。表現段階では、表現過程の手順はできるだけ示さず、画材や技法も、児童自らの思いや発想にまかせて判断させた。

4. 成果と今後の課題

子供達は当初、何をしても良いという自由に対するとまどいを見せたが、後には、自分だけの世界を作ることを楽しんでいった。画面に表現された形よりも、思いの方が強い絵であるため、幼稚な表現も見られるが、それはあまり問題にならないのではないかと考えた。一人ひとりが表現の過程において、主体的に創意工夫し試行錯誤しながら、自分なりの表現に向うことができたことが成果と考えたい。課題としては、自由さと時間の保障は相反するという点がある。



表	題	校	種	領	域	学	年	教	室
「三角山の見える風景」	小学校	絵に表す	6年	4	の	1			

○提言者

窪田恵子

(学校名)

札幌市立山の手小学校

1. はじめに

教室の窓から三角山が見える。ちょうど窓が額ぶちのようになって…

そんな三角山と山の手小の子どもたちは大の仲よしである。異学年交流でいっしょに登ったり、クラブで出かけたり、親子でハイキングなど、校下にあって近いせいか、ときどき出かけている。

「ひまな時は、いっしょにおしゃべりしたい」「三角山を丸くして冒険の山にしたい」「世界一の遊びの山となってほしい」などという一人ひとりの想いが、ふだんから三角山とかかわっていく中で、作品にどのような表われてくるのか、多少の不安と期待をもって取り組んでみた。

2. 研究の概要

(1) 学級づくりで…

- ・何でも言える明るい雰囲気づくり
- ・自分の思いを自分の言葉で表現する

(2) 図工科で…

- ・「0時間」の活用
- ・「図工の足あと」の利用
- ・作品の掲示と鑑賞

(3) 「三角山の見える風景」で…

- ・三角山と友だち（草花・木・山ets）
- ・草ぶえ公園から見た三角山
- ・三角山をいろいろな描き方で
- ・もうひとつの三角山

3. 指導の実際

(1) 三角山と友だち

三角山に登り、途中の道ばたに見られる小さな花や木などをスケッチした。描材は、サイペン・黒のボールペン等で短時間ではあったが、花や木に寄せる一人ひとりの想いを大切に線描していた。

- ・「私は小さな花でも強く生きているけなげさをかこうと思った。」
- ・「いっぱい種を飛ばして子孫を残してね！」

(2) 草ぶえ公園から見た三角山

写生会で草ぶえ公園に行き、思い思いの構図を考えて、三角山の見



える風景を表現した。

(3) 三角山をいろいろな描き方で

描材や用紙、技法などいろいろな方法で三角山に挑戦した。（小作品にして）

(4) もうひとつの三角山

三角山に対する一人ひとりの夢や願いを思う存分表現した。

4. 成果と今後の課題

みんなにとって身近かな題材を取り上げたのはいいが、今までいろいろな技法経験が少なく、アイデアの不足が感じられた。



表	題	校 種	領 域	学 年	教 室
一年生、はじめの粘土学習		小 学 校	立体に表す	1 年	特 活 室

○提言者

小 柳 雄 嗣

(学校名)

札幌市立桑園小学校

1. はじめに

子どもと自然とのかかわりが急激に遊離し都会では隔離されているといった現実である。その中にあっても、土あそびや泥あそびは、子ども達が熱中できる原始的な遊びのひとつである。とりわけ、粘土による活動は最も熱中する活動である。土粘土が、自然の土の肌ざわりの良さとあたたかさをもっていること、材質の特性である可塑性を生かして、形を自由に変えるといった特長から、子どもの自由な発想や夢を生み創造していくことができるからだと思う。

このような土になじむ経験の少ない入学時の子ども供に対して本校では1Kg程度の肌ざわり悪い油粘土に変えて、子ども達が自然の土に親しみ、五感を通した全身活動ができるよう工夫してきた。

2. 研究の概要

できるだけ大量の土粘土を用意し、体全体を使った活動を保障するようにつとめた。粘土を通しての活動は、土粘土の持つ可塑性を体でわかり、のぼす・ちぎる・まるめるなどの技法を自然に身につけさせることをねらいとした。また、子ども達がごく自然に粘土遊びに熱中する題材を工夫し、遊ぶことにのめりこむ中で、つくるおもしろさや、たのしさを体験させ、造形する意欲づくりにつとめた。

=宝さがし=では、特につぎのことを造形しつけとして留意した。

○ よごれなど気にせず、のびのびと粘土に取り組ませるための準備として、

・ 子どもは、はだして、半そで、短パン

・ 教室には、床を工業用ビニールシートでしきつめる

○ 教師は助言を最少におさえ、約束ごととして「粘土を投げない」「水を加えない」の2点にとどめた。

3. 指導の実際

○粘土……1000Kgの粘土で5つの山を作る。宝物としてビー玉うめておく。

○導入……宝の山の物語。「さあ、海ぞくがかくした宝物をさがそう！」

○活動1…全身を使って宝さがしをする。
活動2…宝さがしが一段落した所で高さをくらべをする。グループで力を合わせてつみ上げ競争をする。

活動3…グループテーマを決め製作する。動物の遊ぶ山、動物園、高速道路のある街など、自由に活動する。

○片付け…片付けも競争で、

4. 成果と今後の課題

どの子も、粘土の中で十分に造形するたのしさを味わっていた。この経験を、次の粘土学習に生かすよう題材開発につとめたい。



表	題	校 種	領 域	学 年	教 室
どうぶつのサーカス		小学校	立体	1年	特活室

○提言者

池田悦子

(学校名)

札幌市立山の手南小学校

1 はじめに

一年生の粘土学習は、「粘土あそび」を通してその特性をつかみ取らせることから始まる。そのために、ちぎる・まるめる・のぼす・穴をあけるなどの「粘土スケッチ」をくり返しおこない、さらにおおづかみにひねり出していくことで量感と可塑性をとらえながら、イメージをしだいに作り上げることを定着していった。

加えて、一人ひとりの想を生かし自由な表現へと発展した題材が「どうぶつのサーカス」である。ここでは立体表現としてすでに十分力をつけている子、平面的につくっている子という表現の特徴(発達の特徴)を縦軸としておさえながら、子どもの生活を見つめ興味関心を高め意欲化を図るという「サーカスシリーズ」を横軸とし、サーカスのおじさんとの心の交流でさらに心情的な深まりを期待した。

2 研究の概要

本題材は、第一次・第二次で学習したことを土台に動物が芸をしているところをおおづかみに立体表現することと、遊びを通して友だちや自分の作品の良さを見つける確かな目を養うことをねらいとしている。

サーカスは大人にも子どもにも夢と憧れを与えてくれるが、それだけに芸をしている動物は必ずしも身近とはいえない。そこで本題材では「豊かな発想」と命のこめられた動物をつくり認め合う「確かな目」に重点をおいて学習を進めた。

一人ひとりの子どもが自分の想いを生かし

思いきり粘土と取り組むことができるよう、サーカスがやってくる(絵画)ことから始まりサーカス会場作り(工作)をし、いろいろな領域からせまってみた。また、レーザーディスクやテレビなどで見た動物の芸を糸口として動作化させたり、大好きなサーカスのおじさんからの手紙に共感させることで心情的課題にせまらせたいと考えた。

3 指導の実際

(1) サーカスシリーズ指導計画(全9時間)

①第一次「サーカスがやってきた」

- 絵画・たくさんの動物を連れてサーカスがやってきたところをかく。
- ・自分の好きなサーカスの芸をかく。
- ・サーカスのおじさんの夢をかく。

②第二次「サーカス会場をつくろう」

- 工作(共同制作)・ローラーや紙、箱などを使ってサーカス会場を作る。

③第三次「どうぶつのサーカス」本時

- 粘土・自分の好きな動物が芸をしているところを粘土でつくる。
- ・遊びを通して自分や友だちの作品のできばえを確かめる。

4 成果

粘土の題材は年間でとりあげる回数も少なく、時数もわずかであるため、子どもの発想が乏しいままに流れてしまうことも多い。そこで他領域と関連させたシリーズ教材として構成したことは子どもの発想をひきだし意欲化につながっていったと考える。



表	題	校	種	領	域	学	年	教	室
造形活動を楽しくする鑑賞のあり方		小	学	校	鑑	賞	6	年	2の2

○提言者

板田 恭 侑

(学校名)

札幌市立石山南小学校

1. はじめに

今回の指導要領の改訂では、いくつかの改善すべきことが示されているが、そのひとつに鑑賞がある。特に、5・6年では鑑賞を独立して扱うことを明記している。このねらいは、表現活動だけでは養うことのできない「豊かな情操」を重視するとともに、鑑賞によって高められた感覚やものの見方で、表現活動そのものも高めていく相乗効果を期待し、表現と鑑賞が一体化される中で、個性的で創造的表現能力を高めていくことにある。

しかし、その配当時数は、図工科が年間70時間で行う現状からすると……5～6時間程度になると思われる。しかし、この時間は、子どもにとっても夢が膨らみ、発見することの喜びや、気づいたことを大切に、造形物に対し、新鮮な感覚で接するチャンスといえる。

そのため教師が、いつ、どんなタイミングで、どの作品から、何をつかませるのか、しっかりと計画を練ることが、大変重要なことになる。

2. 研究概要

鑑賞のあり方と、その有効性について

ア.(学習反省型の鑑賞)

自分や友だちの作品を理解したり、表現を認め合ったりして、自信や満足感を持たせ、次の製作意欲を高めたいとき。

イ.(停滞離脱型の鑑賞)

表現活動に行き詰まったりして、停滞し

ている状態に、刺激を与へ、表現そのものに幅を持たせたいとき。

ウ.(生涯学習型の鑑賞)

造形活動を長年取り組んだ人や、その作品に感動させ、追及する姿勢や可能性を理解させたいとき。

エ.(国際理解型の鑑賞)

美術史の中で、いろいろな国の交流があった事実を知り、それぞれの表現を尊重する態度を育てたいとき。

以上ア～エまでの鑑賞のあり方について、取り組んでいきたい。

3. 指導の実際

4月、どのような一年間にし、どんな仲間になったらよいか話し合った。それにピッタリの詩「花の世界」を朗読した。みんなの願いを花の世界に託し、みんなでデザインすることにした。作業はグループで進め、作製後、鑑賞会を一時間セットした。研究の概要のア。学習の反省型であったが、一年間の学級目標をデザインしたこと、共同製作であったことなどから、作品を見て反応は活発であり、みんなの願いを理解すると同時に、次の表現意欲を高めることができた。

4. 成果と今後の課題

- (1) 鑑賞の時間が楽しくなったこと。
- (2) 鑑賞を楽しく、有効に導く条件を把握すること。
- (3) イ、ウ、エの鑑賞計画と、参考作品の収集に努めること。



表	題	校	種	領	域	学	年	教	室
心の中にうごめくものを知る為に		小	学	校	鑑	賞	3	年	2 の 2

○提言者

村田 力

(学校名)

札幌市立福井野小学校

1 はじめにかえて

鑑賞といった言葉を思いうかべる時、少々厳ついニュアンスを持ってしまうのは致し方ないのだが、学校での日常実践の中で、その場面場面での実際を考えるとわりあい頻繁に活用されているのではないかとも思う。以下、実際の指導段階や場面に即して、私なりに実践したことを書いてみる。これが良いかどうかはわからないが、考えていく為の素材となれば幸いである。

2 指導の実際

作品をつくる前に、子ども達に備わっていてほしいのは、ものを「見る目」である。家には一枚の絵や一冊の画集でもあれば手にとり、目にふれ、自然な形でそれらのもに親しむ。学校での展覧会等で一堂に会した作品を見るのも望ましい。近くの美術館や野外彫刻等に足や目を向けるのもよいだろう。

次に上記のような機会をたくさん持つことによって、造形性の直観、表現の追体験、連想の興味、情緒的接近…子どもの心に置き換えるなら好奇心、せんさく的関心、情緒的関心、快・不快の均衡感覚等、「感じる心」が養われよう。

自分の作品の構想を練る時、それらのもので「考える頭」が育ち、すんなりと制作に入っていけるだろう。制作中も動かない手を「作る手」に変えていく力になり得るし、又、制作の途中で他人の作品をみせられたりした時、自分と他人との思考や感覚

の違い、主題の理解、作品のもつ造形性等に自身の目と心で共感し、感動し、あるいは反発し、批判をもって多くの事を感じ、そしてそれを自分なりの言葉で発表することによって、他人の考えをうけ入れながら自己啓発を図っていくことになろう。

ひとつの作品ができ上がった時、私達は自己評価をさせたり、小鑑賞会をもったりする。この中で子ども達のナマの声をでき得る限り掘り起こせたなら、その子が次にどんな作品にアプローチしようとしているかがわかるだろう。次の作品にこの時の声を「生かす力」をもった子ども達は、次から次と楽しい作品をつくり出していくことになるのではなかろうか。

3 今後の課題

以上、一般的な指導場面に沿って子ども達の心の中に育てたい教師のねがいをうものを書いてみたが、学習の中でのひとりひとりの子どもとの対応は、個々に著しく差のある場合もあるし、個人としての受け止め方、好き嫌いにも、感覚的、直観的なものもあり、一概には言えないが、その時点、その時点でその子がどのように感じているのかを何らかの形で把握する必要があると思う。そのことが私達の指導の方法等を改善していくことになれば、双方にとってこんな良い事はない。そのようなやりとりが見られる授業を子ども達と展開したいものである。



表	題	校	種	領	域	学	年	教	室
子どもの想いがあふれる授業づくり		小	学	校	つ	く	る	3.4年	3の1

○提言者

桜田 豊

(学校名)

札幌市立幌西小学校

1. はじめに

私の授業づくりの中心は、子どもの表わしたいという思いを大切にしたいということである。

しかしながら、その子なりの発想ややり方を見守り、援助しようとする姿勢を徐々に崩している自分にはたと気がつくことが多い。

教師が主体となり、テーマを一方向的に与え、技法や作り方を教え、決められた順序に従って表現製作していくような指示的な指導、反対に、何の手だてもせず、やりたいように放任して、子どもがどうしてよいのか困って、ゆきづまったり、意欲を失わせたりするような指導にならないために、どのような授業づくりをしなければならないか、今私はまさに試行錯誤の段階である。

2. 指導の実態

「つくりたいものをつくる」分野では、「生活を楽しむもの」、「飾るもの」「想像したもの」等の内容が中心となる。

ここでは、「生活を楽しむもの」の実践を通して子どもの思いを大切にしたい授業づくりについて述べてみたい。

(1) 製作意欲を促す題材名を工夫したい

「止まっちゃいけないまよい道、ゆっくり行こうまよい道」(立体ゲーム)

子どもは、迷路がとても好きである。その迷路を、身近かにある材料を集めて「止まらない」、そして、「すぐ落ちてしまわ

ないで、ゆっくりと落ちてくる」ような迷路を作ることとした。この条件を、題材名の中に読み取ることができると考えた。

(2) つくる過程を一層大切にしたい

はじめに、つくりたいものの簡単な図を書き自分の思いをはっきりさせた。

この図をきっかけに、つくり方をいろいろ工夫したり、試したりしている子を賞賛すること、試行錯誤の場と時間を保障することによって製作活動が生き生きしてくる。自分で計画を立て、材料を用意し、自分なりのやり方で工夫しながらつくる楽しさ喜びを感じさせることが大切であると考えた。

(3) 指導の立場から相談、援助の立場に

自由な発想や意欲を引き出す言葉かけ、活動を広めたり、共感する言葉かけ等子どもの意をくみながらの話し合いをしていく。

*以上のことを、授業記録・作品を提示しながら発表していきたい。



表	題	校 種	領 域	学 年	教 室
マジカル・タワー (ゲーム盤を作る)	小学校	作りたいものを作る	3年	3の1	

○提言者 濱野りな (学校名) 札幌市立澄川小学校

1 はじめに

この時期の児童の造形活動の特徴としてあげられることは、旺盛で、はちきれんばかりの発想の豊かさである。また、この時期は自分の想いを発揮して製作をしながら、材料にふれたり仕組みのおもしろさを発見したりして自分なりの発想をつみ上げていく時でもある。この題材では、このような児童の傾向から楽しく夢があり自分の想いをふくらませていくという点をふまえて製作することにした。この塔は迷路の様になっていてフロアが上がるごとに次の迷路があるといったマジカルな塔をイメージすることにした。

2 研究の概要

指導については、次の点をねらいとした。

発想がつみ上げられていく様に、それをフロアと迷路に託して塔になっていく点・それぞれのフロアの形や色を工夫する点・「マジカル・タワー」というテーマを実現させるため丈夫な塔を製作すること・特に柱のつくりやバランスに気づかせる点である。

児童の想いをあふれさせる教師のかかわりとしては、次のことが留意点として上げられる。まず、どんな想いをこめた塔にするかアイデアスケッチをさせる段階において「イメージをスケッチと言葉で表現する」ということを助言する点である。できるだけ想像力のひろがりやマジカルな世界を積極的に求めるようにヒントを与えたりすることでイメージを具体的に表現させる手だてとしたいからである。

3 指導の実際

「イメージをフロアと迷路に托す点」については、即座に塔を表現しようとするのをせずに「3つの異なった世界」という投げかけを試してみた。たとえば「未来・現在・過去」とか「空・地上・地下」という表し方である。それぞれの世界を想像し、スケッチに取り組ませた。

「フロアの形や色を工夫する点」については四層から五層の塔を作ることを目標に全体の形を決めてから形や色の工夫に取り組んでいった。またフロアとフロアの上り方には階段やシェルターなど児童のアイデアを生かせる場になった様に思える。

「丈夫な塔を製作する点」については塔やフロアを支える柱の基本形から発展させアイデアを出させた。丈夫なものということで一階はダンボール板のようなものや大きな箱などの利用、塔全体は工作用紙を主材料として製作をした。

4 成果と今後の課題

「イメージをスケッチと言葉で表現する」とことは児童にとって困難かと思われたが「3つの異なった世界で」という教師側からの投げかけで、それなりの成果があった様に思われる。それは児童たちが今まで経験したことがあったり、想像した物語があったり児童の持ち味がそれぞれ発揮できた様に思われる。

今後の課題としては、児童のイメージが製作に結びつきやすくなる様な教師側からの手だてが必要と思われる。



表	題	校	種	領	域	学	年	教	室
ぼくのトロフィーを作るぞ！	小	学	校	作	り	た	い	も	の
				の	を	作			
						5	年	5	の
									1

○提言者 土肥宏充 (学校名) 札幌市立小野幌小学校

1. はじめに

子どもたちに、いつも、熱中する題材を与えたいと思い初めている。勿論、現在実践されている題材にも熱中できるものはあるのだが、現代の子どもたちの変化、新指導要領への移行という状況を考えてゆくと、より熱中できる、より楽しく取り組める題材を掘り起こしてゆく必要があると考える。

2. 研究の概要

カップやトロフィー作りは、子どもたちにとっては、とても魅力的な題材ではないだろうか。今までに見たことのないトロフィーを作ってみようとか、あったらおもしろいなあと思うものを作ってみようとか投げかけてみる。例えば、学校お笑い大賞、テスト百点賞、そうじ大臣カップ、学校ゲーム集会チャンピオンカップ、小野幌縦断ミラクルクイズの優勝トロフィーなど、遊び心をくすぐるような導入を試みることによって、思わず熱中してしまう意欲づけができるのではないだろうか。また、ある程度限定された形になることが予想されるが、子どもたちにとっても創作イメージを描きやすいと思われる。多様な材料から、自分なりの選択をさせ、その子の思いがよく作品の中に生かされる題材でもある。

子どもたちには、何に使うトロフィーを作るかにもこだわりを持たせ、その子なりの見通しを持った取り組みの中で、大いにトロフィー、カップ作りに挑戦してもらいたい。

3. 指導の実際

- ①様々なカップやトロフィーを見せる
 - ・ サッカー少年団や、バレー少年団、ミニバス少年団などの学校にあるものや、家庭にあるもの、バレエ、水泳、ゴルフ、ボーリング……等みんなを持ち寄る。
- ②自分の名前のついたトロフィーを作ろう
 - ・ 家で、ゲームやスポーツをした時に使おうとか、学級集会や、学年集会などに使おうと呼びかける。
- ③トロフィーを調べよう
 - ・ 形を実物、写真、絵で調べる。意味を事典とか、話し合いなどで深めてゆく。
- ④アイデアスケッチと材料集め
 - ・ 丈夫で長く使え、こわれにくいような材料を選ばせ作らせる。
- ⑤製作
 - ・ 教師はガイド役に徹する。
- ⑥完成・鑑賞
 - ・ テープをつけてあげる。

4. 成果と今後の課題

様々な材料を使う子が出てくる。例えば、木を使う子、アキカン、ねん土、紙ねん土、アンデルセン編み（一度学習している）プラスチック、発砲スチロール、筒、びん等。その扱う材料によって、またその子の能力、性格によって時間のかかり方はずいぶん違う。

子ども一人一人の作品全てを把握し、ティーチにならず、ガイドに徹しながら、しかも満足感を与える授業作りは、やはり、かなりの困難を伴うところである。



表	題	校 種	領 域	学 年	教 室
その子らしさの表現を求めて -パッケンの大変身-		小学校	つくりたいものをつくる	4 年	5 の 1

○提言者 白井真澄 (学校名) 札幌市立稲穂小学校

1. はじめに

現代、子供たちは自分の手でもものをつくり出しそれを使う、それで遊ぶという経験が極めて少なくなっている。遊び道具もファミコンや既製の玩具が殆どで、身の回りで作っている物も流行を追ってめまぐるしく変わっていく。日常生活の中でも便利さや早さの追及から使い捨ての廃品が数多く出されている。社会科の学習でも、最近パッケ類等の新しい種類のゴミが急増している事を学んだ。放っておけば捨てられてしまう何の変哲もない廃材を子供たちの手仕事によって生き返らせることはできないか、思いもかけない形に変容し、創造の世界を広げていける価値を秘めているのではないか、自分の手仕事によって心を込めた作品をつくらせ、その中でつくる喜びや楽しさを味わわせたいと考え「パッケンの大変身」という題材の実践を試みた。

2. 研究の概要

子供らしさとその子らしさの表現を充実させるには、子供の主体性を重視し、個々の想いや感覚、表現製作の方法を生かす指導が工夫されなければならない。しかし子供の思いが弱かったり他から規制されることが多いと子供の主体的な活動の姿は見ることができない。そのためにも、子供も教師も心が沸き立つような題材の開発、安心して取り組める場（お互いに認め合い磨き合う自由な雰囲気）の設定、適切な教師のかかわりが大切だと考える。

3. 指導の実際

＜学習の流れと留意したこと＞

- (1) 身の回りの物に対して関心を持ち感受の心を育てるために、あらかじめ沢山の材料を集め触れ合うなかで、つくって見たもののイメージをふくらませた。
- (2) 自分なりの方法で自信を持って製作を進めていけるよう学習プログラムを考え材料、形、つくり方等アイデアを作戰カードにまとめていった。
- (3) 丈夫に美しく、楽しく使い易くする工夫をしながらつくる。つまずきには、ワンポイントアドバイスを出しさらに良い閃きが出るよう激励したり、ウォッチングタイムを設け友達の良さを自分の中に吸収していけるように心がけた。
- (4) 実際に遊んだり、実物を入れて確かめたりしながらお互いの作品の鑑賞をした。

4. 成果と今後の課題

身近な材料を3年生では平面としてお面づくりに取り入れた。4年生では、いろいろな容器を立体的表現に発展させ、容器の形を塊として生かすよう活動させたが、子供の見る目、つくる心を広げていった題材であったように思う。

4年生は、形、色、材料の世界へ冒険心を持って入っていく時である。これからも材料や用具の活用の幅（深まり）を広げ、五感を通して自分の中に取り入れるようにさせたいと考えている。



表	題	校	種	分	野	学	年	教	室
感性に働きかける		中	学	校	絵	画	全	6	の2

○提言者 (学校名)
富田賢司 札幌市立新琴似北中学校

1. はじめに

美術科にもとめられる今日的な課題の把握・解決に向って、私達札幌北地区では生徒の情意的側面に着目し、実践交流を中心に研究をすすめて来た。今年度は絵画分野における教材開発をテーマに研究の緒についたばかりであり、これまでの実践研究の中から絵画指導に関わる部分を取り上げ提言したい。

2. 研究の概要

62年度は研究推進の方向にもとづき情意的側面にどのように切り込んでゆくか、特に普段の授業実践を情意面からとらえ直し、『生徒をゆさぶり意欲を高める授業のしくみやなげかけの工夫』を、63年度は『表現意欲を持続させ完成に至るための指導の工夫』をテーマに設定した。平成元年度も同様に学習過程の工夫や題材構成のあり方、教材、教具の開発及び活用に視点をあてた取り組みをし、生徒ひとりひとりが表現のよろこびを味わう楽しい造形学習のあり方を探ってきた。

絵画指導においても学習に対する抵抗感を取り除き造形的興味・関心・意欲を喚起する方策が論じられ、基礎・基本に関わる再検討、教材のもつ学習価値、題材の意義の再考が行なわれ、多様な個性に応じた指導の幅が中心課題となった。

3. 指導の実際

実践交流(実践表)の中からテーマに関わるポイントを拾いあげてみると、「模写～私も美術評論家～」(新川西中)では模写を単に技術的表現力を培うだけでなく、作品を味わう鑑賞の学習を中心に、感性の面にも踏み込んだ題材として効果を上げている。

「色彩を感じる絵」(屯田中央中)「美術室の風景」(上篠路中)では、主題、構図、色彩、技法の条件設定の幅を拡げ、生徒に個性的な表現を引き出そうとした。更に「イメージの世界」「自画像」(附属中)においては『ゴルフリーの発想』が大切にされた授業がなされ、個性の重視や自己教育力の視点から大きな示唆を与えた。

4. 成果と今後の課題

生徒の心(感性)に働きかける授業・生徒が成就感もてる授業を探る中で、情意面を中心とした研究の重要性が明確になり、感性に新しい刺激を与える体験をしくみ、美的環境を整備することも課題となった。

情意面は認知・技能面とたえずからみ合っており、表現の幅の設定は基礎・基本をおさえた上で、多様な個性に応じた条件設定が可能な教材・題材を必要とし、授業は生徒の発達段階や個性に応じた総合的な目標設定が必要になると同時に評価の幅や尺度も今後の課題になるであろう。



表	題	校	種	分	野	学	年	教	室
一人ひとりの心を拓く版画指導		中	学	校	絵	画	1	年	6の2

○提言者

(学校名)

向 敏 光

札幌市立平岡中学校

1. はじめに

これから新しい教育課程を推進するにあたり、美術科に課せられた期待には大きなものがあるが、それを共同研究という形でより具体化していく取り組みは、今後、私達により身近な研究成果として明らかにされていくと考える。豊平地区では、その研究の段階として、①研究課題の共通化②共同研究の計画・組織化を進めながら、全市の研究主題「表現のよろこびを味わわせる授業の創造」に取り組んでいる。しかし、個性化をめざすこの研究について、多くの先生方の意見をもって組織するには、まだ数多くの問題があるのも実態である。

2. 研究の概要

小主題「ひとりひとりの心が拓く造形学習のあり方」を求め、「目標を達成させるためのより効果的な教材開発をする。」具体的な研究課題のその視点として

- ①造形力が高まることによって学習意欲は高まるのではないか。
- ②一人ひとりの個性を把握し、それによって新たななげかけを行い、よさや美しさを感じる心や造形力を育てることができるのではないか。

という仮説を立て、公開授業・作品や実践表をもとに話し合いをすすめている。中でも、情意的側面（関心・態度・感受）・技能的側面（造形的思考・技能）から具体的な指導法を交流しているが、体系的な答えを出すには至っていない。

3. 指導の実際

豊平地区の取り組み分野は多岐にわたり、絵画分野は少なかった。そこで、未熟な実践ではあるが私の取り組みを紹介したい。

「私の家族」（木版画・一般多色）1年

- ①住宅ローンに追われ、共働き家庭が多く生徒は家族と過ごす時間が少ない。ゆえに家族をテーマに生徒自身の生活観をひらいてやりたいと考えた。
- ②与えられた版形式の中で一人ひとりが表現目標を持てるよう工夫した。
- ③下絵・画面構成・彫りを意識した線の工夫・刷りの方法と工夫・彫刻刀の特性や正しい使用法について表現能力を高める指導を行い主題追求に全力を上げさせた。

4. 成果と今後の課題

題材を生徒の生活と結びつけることにより、心情表現を豊かにし学習意欲を高めることができた。

版画は、汚れ指導時間を多く必要とするので敬遠されがちであるが、基礎・基本としての造形力を育てることにより、個性的表現意欲を高めることができるという観点からもう一度見直すべき分野ではないかと考える。

この研究において絵画分野の教材開発とは何か、これから地区として研究をすすめたい。



表	題	校	種	分	野	学	年	教	室
生徒が主体的に表現する工芸		中	学	校	工	芸	1・2	6	の 1

○提言者

高杉正和

(学校名)

札幌市立啓明中学校

1. はじめに

我々教師は生徒の実態を把握することにはじまり、発達段階をおさせ効果的な教材配列をし、さらに指導法の工夫を重ね「生徒にたしかな力量」をつけさせようとしてきたはずである。が……教師が考えているほど定着していなかったのではないか。

我々が考えていた生徒の力量は「生徒が質の高い作品をつくる。」ことに力点を置いてきたのではないか。と言う疑問から日常実践を見直すことにした。

2. 研究の概要

ここで言う我々教師とは中央区(中央中、中島中、啓明中、伏見中、向陵中、柏中、宮の森中、山鼻中)の8校である。

生徒に質の高い作品を製作させることは教師にとって大へんなことである。

それは、何処なのか。と言うことで次のような研究仮説を立ててみた。「基礎基本をおさえ個性化、個別化をはかることによって生徒自らの感性や造形意欲を高めることができる」という視点を持って臨んだ。

ともすると認知、技能的な面に力を注ぎ生徒の情意的な面を見すごすことが多かった。それぞれが調和し「生徒に主体的な力量」をつけさせることが課題である。しかし課題はむずかしく、ゆっくりと進行中である。

3. 指導の実際

「たまごをつくる」木彫(平成元年度)

授業者 辻岡 環 教諭(宮の森中)

1年生の段階なので「木彫、丸彫りで、たまごをつくる」の教材は木の量感をとらえる基本として適していた。手ざわりを含めた手づくりは木のぬくもりを底辺の生徒ひとりひとりにも感受させた。認知、技能、情意をおさえ教材の基礎基本がしっかりし「個性化」のもとになるものであった。

「ペン立てを木でつくる」(平成2年度)

授業者 木原英俊 教諭(向陵中2年)

生徒自らの目標に沿って糸のこで板を切断する生徒、組み立てイメージを探る生徒、やすりかけをする生徒など、イメージも多様で学習の個別化が見られ、生徒が主体的に活動する場面もあった。

4. 成果と今後の課題

上記は2年間にわたって中央区の研究仮説を授業によって検証し生徒の感性や造形意欲を高めることができた。

今後の課題としては教材に対する

- ①生徒の当初のイメージ(発想実態)を探る。
- ②教師例で生徒のイメージを大切にしながら教材の性質を補足する。
- ③第2次段階のイメージを生徒が描く。
- ④製作、
- ⑤評価

と言った授業過程を大切にし、さらに「生徒に主体的な力量」をつけさせたい。



表	題	校種	分野	学年	教室
木の生きた証を！！ -導入時のVTRの活用について-		中学校	工芸	1年	6の1

○提言者 阿部時彦 (学校名) 札幌市立南が丘中学校

1. はじめに

札幌南地区では、札幌の共同研究の全体構造を受け、研究が進められてきた。この提言は地区の研究内容に基づいて、私が昨年度おこなった研究授業の内容をまとめたものである。それは導入段階で自作のVTR教具を使い、生徒の意欲づけを高めようとしたものである。

2. 研究の概要

南区では「一人ひとりの個性を把握し、それらを生かした指導をすることによって生徒の意欲は高まる」との研究仮説を立て研究を進め、その実践交流の場として指導案検討会・研究事業を設定し活動した。

その中で私は、まず題材の導入の段階で意欲を持って題材に取り組む気持ちをつくり、そしてその中で個々に適切な指導をすることに着目した。それにより一人ひとりの制作意欲が更に高まるのではないかと考え、導入の方法について考察することにしたのである。実際、新しい題材に入る時、生徒に言葉だけで何を追求していく題材かなど、題材のイメージをふくらませることは難しい。そこで視覚に訴える資料が不可欠となる。教科書、資料集の写真やTPシートなどがその役目を担うが、本校の生徒は、それでも今ひとつ理解力に欠け、意欲づけが不十分となり作業内容も把握しにくいようである。もっと良い教具がないかと考え、VTR教具の使用によって意欲づけを高めようところみた。

3. 指導の実際

題材は、木工芸のサラダサーバーであった。教科書の工芸の導入に『木と語る』という文章があり、工芸や木に対する考え方、作業へ取り組む姿勢が書かれている。それをもとに教師が強調したかった「死んだ状態にある素材としての木に新しい生命をあたえること、木の生きた証である木目を意識する」という点をVTR教具の映像で補強できたため、意欲づけの面で生徒の心情に強く訴えることができた。

また、実際の制作に当たって、生徒は計画的に作業するために流れを理解しておく必要があるが、デザインも含めて制作の順序を映像を使って説明した方が私語も少なくははっきりと認知できるようだ。特にこの題材は木目を生かすためにやすりだけ（木工やすり・金工やすり・紙やすり）で作業させることにしたが、木工やすりは初めての用具であるがVTRはその使用法の理解を良く助けてくれた。

4. 成果と今後の課題

成果としては、何よりも生徒が意欲的に取り組んだこと。VTR教具が一人でも簡単制作できることが上げられる。またカメラを再生用にも使用すると未録画の内容でもすぐにテレビに写すことができるという利点もあった。課題としては、デザイン・絵画分野に応用した場合の色の解像力の点である。また教材・教具という表現であるが、この部分の明確化が必要であろう。



表	題	校	種	分	野	学	年	教	室
表	情	の	あ	る	手	中	学	校	彫
					彫	塑	2	年	5
							の		2

○提言者 (学校名)
 中尾孝典 札幌市立日章中学校

1. はじめに

- ・本校では、1年生でかたまりに重点を置き身近な野菜や果物の写実表現を彫塑の学習への興味指導とし、2年生では動きに重点を置き身近な手を題材に意識的にテーマを持たせてみた。(感情表現が立体に表出されるかどうか)
- ・札幌市立日章中学校(8校中)では「手」を題材にしている学校が1年(4校)2年(4校)と、題材としては身近であり取りくみやすいのではないかと。
- ・動きを表現させる為に、スポーツする人など、よく題材としてとりあげられているが、2年生の段階としては、無理と思われる、実際モデルにポーズをとらせて見せて制作学習するのならばいいが頭の中で概念で制作させると形は出来たとしても彫塑の動きとして満足できるのだろうか。

2. 研究の概要 (テーマ設定について)

- ・ただ漠然と手を制作させるのではなく、手を1人の人間に置きかえさせる発想、構想指導に力点を置いた。
 「くたびれた手(人)」「希望に燃える手(人)」「怒った手(人)」「はいつくばった手(人)」「歌っている手(人)」……
- ・感情表現は抽象性が強く、それを実際の形の置きかえさせることは以外と難しいものであり、実際、指導して気付いた事は、生徒は内面的な形容表現にテーマを求めより、どうしても実際的な現実表

現に近いテーマを選ぶ傾向になる。

- 「ボールを握った手」「ひらいた手」
- 「鉛筆を使っている手」「折り曲げた手」
- ……等

3. 指導の実際

- a テーマ設定と手のデッサン 2時間
- b 心棒(支柱)づくり 2時間
- c 肉づけ(粘土)表現 2時間
- d 肉づけ(再追究)と鑑賞(評価) 2時間

用 加工粘土、支柱セット(台、針金、クギ、ビニール袋)、ベンチ、かなづち、麻ひもかしゅろ縄

この学習で一番大切でしかも難しい場面は、心棒づくりです。

1. 土台と手との接点を明確に印させ固定
2. 手首、手のひらの太さや厚みを構築する
3. 手のひら(こう)と指との比例をはかる
4. 太い針金と細い針金、麻糸との使いわけ
5. 粘土は手首、手の厚みからつけさせ指へ
6. 自分のテーマと作品の確かめ、感想を大切に

4. 成果と今後の課題

- ・テーマから多少づれても生徒の喜びがあった。
- ・身近な題材としては最適であった。
- ・形にこだわる前に「手」の持つ意味を生活に密着させ、もっと考えさせる事が必要。
- ・心棒づくりだけでも十分な内容であった。



表	題	校 種	分 野	学 年	教 室
見る事・感じる取る事・味わう喜び (表現活動の中の鑑賞)		中 学 校	表現の中 の鑑賞	全	5 の 2

○提言者 池 嶋 憲 彦 (学校名) 札幌市立稲積中学校

1. はじめに

私達の共同研究は西区から手稲区の分区という時期と重なり、そのほとんどは西区の合同研究という形で進められて来たもので参加校は12校である。今大会の担当領域は鑑賞の分野でという事ことであるが、今までの地区の研究と合せみて、表現活動の中で取りあげられた作品の鑑賞という事で提言を進めたいと考える。生徒へ提示される資料はそれぞれ個性の価値を持っており、それを、積極的に味わうことにより表現活動への意欲をわかせる喜びを感じるといふ、日常の授業実践の一視点としての鑑賞を取りあげた。

2. 研究の概要

私達の研究は、創作活動を通して、どのような過程で、どのような能力を養うかという事を目標構造を考える中で明らかにしてみようという試みであり、それぞれの教材にあって、認知、技能、情意の三つの視点から授業の見なおしをしようとしたものである。それは札幌市の中学美術の全体像「ひとりひとりの～個性化・個別化、心が拓く～楽しさ・喜び・鑑賞眼・情操、造形学習～造形能力・造形的思考、あり方～学習の仕方・手段・過程」をテーマに、生徒ひとりひとりのあり様をできる限り適切に把握し、それに対処し、生徒自らの学ぶ意欲を育てる手だてを工夫しようとしたものである。共同研究の効果は大きいといいながら

も、課題はなかなか尽きないものである。

3. 指導の実際

共同研究のテーブルにとりあげられた教材は、日常実践のカリキュラムの日程に従う形で、一学年の単色木版～友達の顔。デザイン～自然物からの構成。2学年の木工芸～寄せ木づくりの小物入れ。3学年のステンシル～卒業メッセージカードなどである。継続的な研究としては表現に重点をおいた研究であったが、今ここで視点を少し移して、鑑賞という点から見てみると、表現へ生きる鑑賞～わかる鑑賞から味わうこと個性の価値を味わい、新しい価値の創造への喜びを持てる鑑賞への転換という事が提示された。受け取る生徒側の主体性を重んじる資料の内容選択の重要性が問われる事であり、学習の目標を先の三つの視点から分析するという研究により、いくらか選択の巾が広げられつつあるように感ずる。

4. 成果と今後の課題

4年継続の共同研究という事で、多くの目で学習目標を分析する場面を持てたことが大きな成果である。今後は認知・技能・情意の各視点で出された目標を、表現と鑑賞という相互にかかわりあう学習過程の中で味わう喜びをより感じとれる教材、表現への意欲を持てる教材の構造の研究へと視点を広げてゆきたいと考える。



表	題	校	種	分	野	学	年	教	室
生徒の意欲を喚起させる題材の研究	高	校	全	全	2	の	1		

○提言者

香西 富士夫

(学校名)

北海道札幌平岸高等学校

1 はじめに

「“美術的体験を豊にする”のために、一つの題材における制作時間を少なくして、多くの題材を扱うべきだ。」

「いや、時間を多くかけ、その過程における模索が大事だ。成就感も大きい。」

「新鮮な題材を与えることによって関心と感動を呼び“美術的感覚が洗練される”のだ。制作時数や題材の数は問題ではない。」

皆、一理ある意見である。結論はでないと思う。各高校での実践の交流のなかから、明日からの授業に生かす何かを捉えたい。

2 主題設定について

学習指導要領の美術科の目標として

- ・(美術Ⅰ) 美術の創造活動を通して、美的体験を豊かにし、表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに、美術を愛好する心情を養う。
- ・(美術Ⅱ) 美術の創造活動を通して、美的感覚を洗練し、表現と鑑賞の能力を高めるとともに美術について理解を深め美術を愛好する心情を育てる。とある。

授業に興味を持たせ、なおかつ生徒の人間性教育のため力となるような魅力ある題材はないものか。図工美術教師のすべてが、それを求め工夫し開発の努力をしていることと思う。

生徒の発達段階や社会の要求を察知感得し、与える側も学ぶ側も自信をもって伸び伸びと授業に参加できるような題材、これを皆さんと話しあって捜していきたいと思う。

3 話しあいの柱として

- ・学習指導要領美術科の目標に縛られる必要はないと思うが、これを話し合いの一つの柱として押さえたい。
- ・与える側の条件(教室の広狭や数、経済的なものなど)や、学習する側の条件(生徒の求めているもの、能力など)踏まえた話し合いとしたい。
- ・古くあら扱われてきた題材(石膏素描、油彩、ポスターなど)の見直しもしてみたい。導入・展開の工夫とちょっとした助言で、“意欲を喚起させる題材”になると思う、奇抜さよりも、従来の題材をより効果的に生かす研究のほうが今日の研究のねらいに沿っているのかも知れない。
- ・一つの学年で取り扱う題材はいくつ位が良いのか。
- ・領域(平面・立体)に対しては如何考えてどのように扱っているか。
- ・独自の題材を披露してほしい。
- ・自習時間の題材に対する考え、またどのような課題をだしているか。

4 期待するもの

毎年毎年同じ指導計画で同じ資料を使って、何ら進歩のない、時代に合わない授業を毎日繰り返している自分に喝をいれて頂きたい。

また、美術部活動の実際についても時間があれば交流してほしい。

お聞きしたい、学びたいことがたくさんある、当日はよろしくお願い致します。



年次研究主題

全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧

- 第1回（札幌）1950
情操教育の一環として本道図工教育の進展を図るため。
- 第2回（札幌）1952
美術教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について。
- 第3回（旭川）1953
美術教育の指導とは何か。
- 第4回（函館）1954
図画工作教育実践上の諸問題について。
- 第5回（釧路）1955
図画工作教育における学習指導上の問題点の解明。
- 第6回（札幌）1956
造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか。
- 第7回（室蘭）1957
のぞましい造形教育における具体的諸問題について。
- 第8回（小樽）1958
図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか。
- 第9回（帯広）1959
新段階における造形教育のあり方。
- 第10回（網走）1960
本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見よう。
- 第11回（滝川）1961
子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか。
- 第12回（名寄）1962
子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- 第13回（余市）1963
子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- 第14回（札幌）1964
子どもの造形能力とは何か。
- 第15回（稚内）1965
子どもの造形能力とは何か。
- 第16回（室蘭）1966
子どもの造形能力とは何か。
- 第17回（函館）1967
指導の構築を具体化する。
- 第18回（苫小牧）1968
指導の構築を具体化する。
- 第19回（札幌）1969
造形能力は、どのような指導によって育てられるか。
- 第20回（旭川）1970
ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか。
- 第21回（札幌）1971
造形能力は、どのような指導によって育てられるか。

- 第22回（帯広）1972
未来に生きる子どもの造形教育（生活に根ざした造形教育をどう高めるか）。
- 第23回（室蘭）1973
未来に生きる子どもの造形教育（たしかな表現力をどのように育てるか）。
- 第24回（美幌）1974
未来に生きる子どもの造形教育（ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか）。
- 第25回（江別）1975
未来に生きる子どもの造形教育（自ら創り出す力をどう育てるか）。
- 第26回（岩見沢）1976
未来に生きる子どもの造形教育（すべての子どもの造形のよろこびを）。
- 第27回（札幌）1977
（第30回全国造形教育研究大会とかねる。）みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践。
- 第28回（函館）1978
みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践（すべての子どもが生き生きととりくむ学習。）
- 第29回（旭川）1979
生き生きとしたゆとりのある子どもを育てる図工美術教育のあり方。
- 第30回（苫小牧）1980
ひろがりやと深まりの造形教育を求めて。
- 第31回（釧路）1981
創り出す心をよびおこす造形教育
- 第32回（室蘭）1982
見る、知る、感ずるそして、創りあげる喜びを。

- 第33回（留萌）1983
生活とふれ合い、創る心のひろがりを求める造形活動。
- 第34回（札幌）1984
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動（わきたつ発想・たしかな表現・つくり出す喜び）
- 第35回（函館）1985
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動（心をこめてつくりだす子どもを育てる。）
- 第36回（旭川）1986
（第39回全国造形教育研究大会とかねる。）子どもの心をゆり動かす造形教育（つくる心のひろがり求めて。）
- 第37回（紋別）1987
子どもの心をゆり動かす造形教育（表現の喜びにひたる子どもを育てる。）
- 第38回（滝川）1988
子どもの心をゆり動かす造形教育（ひたむきに創る心を育てる。）
- 第39回（帯広）1989
子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実（君はいま創造のとりこに）
- 第40回（苫小牧）1990
広がり、深まり、そして感動を！

◎第41回（札幌）1991
子どものつくる喜びをひらく

- ・北海道造形教育連盟結成40周年誌「創造の大地」発刊
- ・魅力ある実践事例集「造形の未来をひらく」発刊

北海道造形教育連盟規約

1. 名称と目的

本連盟は、北海道造形教育連盟といい、北海道造形教育の振興をはかるをもって目的とする

2. 事業

本連盟は、目的を達するためつぎの事業を行う

1. 研究会・講習会・展覧会等の開催及び後援
2. 造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究
3. 機関誌の発行
4. 他の造形教育団体との連絡提携
5. その他造形教育振興上必要な事項

3. 会 員

正 会 員 本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員

賛助会員 本連盟の目的に賛同するもの

4. 組 織

サークル 本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する

本 部 本連盟の本部は札幌におく

5. 構成及び任務

1. 役 員

委 員 長 1 名 本連盟を代表する

副委員長 若干名 委員長を補佐する

会計監査 2 名 会計の監査をする

2. 委 員

地区委員 地区1名 地区サークルを代表する

常任委員 若干名 本連盟の運営に当たる

顧 問 連盟の重要な問題につき意見の述べる

6. 選 任

* 委員長、副委員長、会計監査は委員総会で選出する

* 地区委員は地区サークルで選出する

* 常任委員は委員長の委嘱による

* 顧問は委員総会において委嘱する

7. 任 期

役員及び委員の任期は1カ年とする 但し重任を妨げない

8. 会 議

- *総 会 必要に応じ開催し、連盟事業につき協議する
- *委員総会 役員、委員をもって構成し毎年開催する
役員を選出、予算、決算及び年度計画等につき審議する
- *常任委員会 役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する

9. 会 計

本連盟の会計は、会費・事業収入及び寄付金により執行する
会 費 正会員は、一人年額1,000円を納入するものとする
サークルは、年額4,000円を本部に納入するものとする

10. 事務局

- *事務局は事務局長在勤の学校におく
- *事務局長は常任委員中より委員長が委嘱する
- *事務局には必要に応じて各部を設け業務の分担をする

11. 年 度

本連盟の事業並びに会計年度は5月に始まり翌年4月に終わる

12. 規約の改廃

本規約の改廃は委員総会の決議による

(昭和62年5月3日改定)

平成3年度 北海道造形教育連盟名簿

役員

役名	氏名	勤務校	所在地	電話
委員長	佐々木理温	札幌市三角山小長	064 札幌市中央区宮の森4条11丁目4-1	011(643)1133
副委員長	田邊 康夫	函館市大川中長	040 函館市大川町12-38	0138(41)2775
"	庄 栄一	月形町知来乙小長	061-05 月形町知来乙24	0126(53)3148
"	川島 信也	旭川市神居古潭小長	078-01 旭川市神居町神居古潭	0166(72)2014
"	宗廣 義彦	釧路市城山小長	085 釧路市城山1丁目14-35	0154(41)1461
監査	寺本 吉明	中札内村中札内中長	089-13 河西郡中札内村東1条南5丁目24	0155(67)2020
"	山宮 喬也	留辺藪町留辺藪小長	091 常呂郡留辺藪町栄町18	0157(42)2055

本部事務局

役名	氏名	勤務校	電話	役名	氏名	勤務校	電話
事務局長	鹿嶋 健	栄東小長	(753)2670	研究部長	冨田 泰	伏見小	(551)2771
事務局次長	船着 昭弘	開成小長	(783)4492	次長	阿部 宏行	附属小	(778)8607
"	村谷 利一	北栄中	(731)0264	"	菅原 清貴	三角山小	(643)1133
"	土岐 禎次	札幌北高	(736)3191	"	篠原 寛	新陵小	(682)8412
会計部長	白井 罔毅	藤野小長	(591)4110	"	岡澤 邦彦	屯田中央中	(771)5981
次長	永井 恭子	平岡小	(883)7801	"	塚野 昭臣	附属中	(778)8527
庶務部長	佐藤 靖	三角山小	(643)1133	"	角力山 旭	陵北中	(621)1225
次長	窪田 恵子	山の手小	(621)0439	"	香西 富士夫	札幌平岸高	(812)2010
"	高杉 正和	啓明中	(561)4168	事業部長	藤井 正治	創成小	(241)1756
広報部長	毛馬内 国夫	桑園小	(611)4211	次長	冨所 玲	北九条小	(736)2564
次長	稲實 順	八軒西小	(643)4352	"	小柳 雄嗣	桑園小	(611)4211
"	植木 則子	桑園小	(611)4211	"	熊谷 悦代	三角山小	(643)1133
"	島 昇二	札幌苗中	(783)1027	"	多田 紘一	柏中	(521)2341
"	岩間 歳仁	厚別中	(898)3257	"	安原 正	八軒東中	(643)5050
				"	佐野 千尋	札幌真栄高	(883)0465

事務局

〒065 札幌市東区北46条東13丁目1番地

札幌市立栄東小学校 鹿嶋 健

☎011(753)2670

本部常任委員

校種	氏名	勤務校	電話	校種	氏名	勤務校	電話
幼保部	酒井三佳	白楊幼	(736) 0764		小林万咲彦	澄川小	(821) 1141
	細川依子	清明幼	(721) 6750		中居正光	東札幌小	(821) 6333
	吉田耕一郎	稲積幼	(683) 3185		土肥宏充	小野幌小	(898) 0552
	柏木順	手稲中央幼	(681) 2298		今谷孝	幌西小	(561) 2201
	森美由紀	福井野幼	(663) 0363		中学部	早川輝彦	屯田中央中
小学部	伊藤暢紀	東苗穂小	(781) 9191	田中潤		丘珠中	(782) 6511
	花田正雄	簾舞小	(596) 2852	武田郁代		啓明中	(561) 4168
	国分照子	真駒内南小	(581) 0221	小幡哲也		札幌北中	(791) 1190
	葛西良子	桑園小	(611) 4211	福島彰一		平岡中	(883) 3761
	今裕子	伏見小	(551) 2771	中山龍雄		八軒中	(631) 3517
	鈴村幸司	札幌北小	(791) 3831	依田靖広		新川中	(762) 7991
	高橋百合枝	二条小	(261) 6596	小泉信嗣		陵北中	(621) 1225
	長野祐平	川北小	(872) 5422	富田寛司		新琴似北中	(761) 5122
	桜田豊	幌西小	(561) 2201	池嶋憲彦		稲積中	(684) 1430
	小泉誠	円山小	(631) 3437	八重樫真一		美香保中	(711) 8151
	西寛	幌南小	(521) 0214	伊藤尚		上野幌中	(895) 0531
	大場章子	山鼻小	(511) 6616	高校部		照井栄一	札幌白石高
	浜野りな	澄川小	(821) 1141		松井茂樹	札幌月寒高	(851) 3111
	氏家珠実	八軒西小	(643) 4352		小林智彦	札幌南高	(521) 2311
	小尾喬	伏古小	(783) 5656		開沼英則	札幌東陵高	(791) 5055
	土井善範	北園小	(721) 5245		石川雅昭	東海大四高	(571) 5175
	板田恭侑	石山南小	(591) 4747		中田千年	札幌稲雲高	(684) 0034
	赤石芳郎	石山東小	(591) 3495				

事務局顧問

校種	氏名	勤務校	電話	校種	氏名	勤務校	電話
幼保部	芝木捷子	中の島幼長	(821) 7414	高校部他	今本哲夫	八条中長	(831) 6145
小学部	伊藤英世	東光小長	(782) 8097		奥野郁男	柏中頭	(521) 2341
	伊藤善彬	幌南小頭	(521) 0214		加藤五十和	向陵中	(611) 4271
	蛭子信也	伏古小	(783) 5656		香取正人	柏丘中頭	(861) 9235
	坂口清一	藻岩小	(571) 6011		新谷純輔	札幌中長	(781) 2221
	谷勲	澄川西小	(811) 7785		武市尚政	清田中頭	(881) 2034
	鶴賀孝三	新陵小	(682) 8412		東志隆	新川中長	(762) 7991
	福嶋斎	月寒東小頭	(851) 7924		平山満	藤野中長	(592) 1921
中学部	吉田倭雄	二十四軒小頭	(642) 2855		石谷正美	市指導室	(214) 4572
	荒谷博文	札幌中	(783) 1027		芝木秀昭	市研究所	(822) 1130
	石岡博明	もみじ台中長	(897) 4584				

地区委員

地区	サークル名	氏名	勤務校	所在地	電話
札幌	連盟札幌支部	荒谷 博文	札幌中	065 東区東苗穂7条1丁目1-1	011(783)1027
	"	伊藤 暢紀	東苗穂小	065 東区東苗穂5条2丁目	011(781)9191
道央	石狩造形連盟	巖 信栄	対雁小長	067 江別市見晴台17-1	011(382)2004
	"	宮川 誠一	恵み野中頭	061-13 恵庭市恵み野東1丁目1-2	0123(37)0331
	空知美術教育研究会	田上 功	南美唄小	072 美唄市南美唄町下18条3丁目	01266(3)2349
	"	内田 暢一	峰延小	079-01 美唄市峰延町東	01266(7)2229
道西	連盟後志支部	田丸 公記	余市東中	046 余市郡余市町朝日町71	0135(22)3293
道北	上川造形教育研究会	佐藤 弘法	名寄東中	096 名寄市大橋1-3	01654(2)3174
	旭川市教育研究会園工美術部会	飯塚 礼二	末広小	071 旭川市末広6条2丁目	0166(52)4339
	"	及川 輝夫	永山南中	079 旭川市永山町5丁目118	0166(48)8117
	留萌地方美術教育研究会	高橋 鯨治	問寒別中長	098-29 手塩郡梶延町字問寒別130	01632(6)5141
道南	渡島美術教育研究会	近堂 俊行	古武井小	041-05 亀田郡恵山町字高岱68	0138(85)2304
	函館市美術教育研究会	安井 孝	深堀中	042 函館市深堀町28-1	0138(52)2682
	桧山造形教育研究会	堀合 隆	乙部中長	043-01 爾志郡乙部町字緑町17	01396(2)2350
	胆振造形教育研究会	笠原 金一	長和小頭	052 伊達市長和町630-1	0142(23)3709
	"	佐藤 輝彦	大成小	053 苫小牧市大成町2-3-2	0144(72)6434
	室蘭市教育研究会造形部	佐伯 達	高平小	050 室蘭市港北町4-13-1	0143(55)5501
	苫小牧造形研究会	片桐 勉	凌雲中	059-12 苫小牧市錦岡325	0144(67)0415
	"	佐藤 公毅	沼ノ端	059-13 苫小牧市沼ノ端519-5	0144(55)0340
道東	十勝造形サークル	横田 裕美	士幌中央中頭	080-12 河東郡士幌町士幌幹線164	01564(5)2221
	帯広市教育研究会園工美術部会	奥野 淳一	帯広第四中	080 帯広市西5条南25丁目	0155(24)3511
	釧路造形教育研究会	稲船 正男	美原中頭	085 釧路市美原4丁目7-1	0154(37)1171
	"	三枝 佑嘉	芦野小頭	085 釧路市芦野1丁目13-1	0154(37)2151
	オホーツク造形教育連盟	山宮 喬也	留辺蘂小長	091 常呂郡留辺蘂町栄町18	0157(42)2055
	"	高橋 忠昭	山園小長	099-33 網走郡東藻琴村末広662-2	0152(66)3101
	根室造形教育連盟	清水 克美	標津中長	086-16 標津郡標津町標津1321	01538(2)2083

協賛会員

会社名	代表者名	所在地	電話
K.K.サクラクレパス札幌出張所	木塚 正雄	064 中央区南4条西13丁目	011(563)5161
べんてるK.K.札幌支店	白橋山 傑	003 厚別区大谷地227-87	011(862)8921
開隆堂出版K.K.北海道支社	一倉 正治	060 中央区南1条西4丁目 日の出ビル内	011(231)0403
東京書籍K.K.北海道支社	塚本 国樹	064 中央区南6条西14丁目1-5 東書ビル内	011(562)5721
日本文教出版K.K.札幌出張所	中元 忠	001 北区新琴似9条12丁目1-1	011(764)1201
野幌陶芸社	野田 慎二	069 江別市野幌町9-13	011(382)2737
文学堂製筆K.K.札幌店	向久保 誠	062 豊平区平岸5条9丁目	011(812)4669
セメダイン通商K.K.札幌店	宮部 二郎	060 中央区北7条西25丁目 協栄生命札幌西ビル内	011(644)6621
コニシK.K.札幌営業所	加藤 敏文	063 西区琴似1条5丁目 札幌松井ビル内	011(612)0211
銀鳥産業K.K.札幌店	畠山 修	062 豊平区平岸4条10丁目4	011(822)0215
ほくとくK.K.	下沢 敏也	065 東区北16条東7丁目23	011(723)6236
寺西化学工業K.K.(ギター)	渋谷 幸時	162 東京都新宿区富久町1-11	03(3355)0361

顧問

氏名	自宅住所	電話
秋山修世	042 函館市深堀町27-1	0138(51)1992
荒木アイ	060 札幌市中央区北20条西15丁目	011(721)1836
砂金隆	003 札幌市厚別区青葉町8丁目11	011(891)3887
石崎義政	050 室蘭市東町2-25-12	0143(44)7265
石塚潔	059-04 登別市美園町5丁目35-12	01438(6)8820
泉秀雄	070 旭川市旭ヶ丘東25	0166(51)6496
伊藤恵	004 札幌市豊平区月寒東3-18-20-20	011(851)8396
伊東将夫	064 札幌市中央区旭ヶ丘東5	011(561)0607
一ノ戸信雄	063 札幌市西区西野6条10丁目15-2	011(662)5002
遠藤久男	005 札幌市南区石山1条2丁目13-5	011(591)3647
遠藤満男	053 苫小牧市白金町2	0144(74)2767
小山田武	084 釧路市緑ヶ丘6-2-23	0154(46)0805
加藤彬	040 函館市本町26-10	0138(53)3519
加藤正	005 札幌市南区南沢5-2-6-5	011(572)6196
金井秀男	064 札幌市中央区円山西町3丁目4-13 札幌市立桑園小学校長	011(631)2748
上条雄也	070 旭川市末広東1条5丁目	0166(51)0057
川井坦	002 札幌市北区あいの里5-3 道教大附属札幌小学校長	011(778)8607
川野上彰	086-02 野付郡別海町別海緑町108	01537(5)0154
佐藤潔	084 釧路市春採3-5-14	0154(41)1767
佐藤吉五郎	006 札幌市手稲区前田8条10丁目6-3	011(683)1054
菅原隆治	090 北見市公園町147	0157(61)5051
諏訪英雄	050 登別市若草町5-13-5	01438(6)3630
高橋栄吉	064 札幌市中央区南16条西13丁目	011(561)9024
滝村虎雄	041 函館市東山1丁目19-16	0138(51)6440
種市誠次郎	063 札幌市西区二十四軒3-6	011(611)5784
辻悦平	063 札幌市西区二十四軒2-5 二十四軒パークマンション507	011(611)4649
出村保	077 留萌市見晴町1丁目18番地	01632(7)2034
豊島豊	094 紋別市南ヶ丘町1丁目	01582(3)3396
中川大三	064 札幌市中央区南20条西7丁目	011(511)4098
橋本富	003 札幌市厚別区青葉町7丁目11	011(891)1559
長谷川傳	064 札幌市中央区南28条西10丁目	011(511)7509
畠山三代喜	005 札幌市南区南32条西9丁目388-238 グランドハイツ320	011(581)2709
早弓弘行	073 滝川市本町1丁目7-23	0125(23)4828
藤川叢三	061-11 札幌郡広島町若葉町3丁目8-1	011(373)5461
藤野高常	005 札幌市南区石山東2-4-12	011(591)5201
松島輝男	001 札幌市北区屯田3条4丁目11-12	011(771)6191
三浦敏勝	041 函館市山の手3丁目13-1	0138(32)3070
三谷哲司	062 札幌市豊平区月寒西2条10丁目1-15	011(851)8557
森川昭夫	062 札幌市豊平区平岸4条7丁目	011(831)0307
柳原寿夫	070 旭川市旭ヶ丘4丁目	0166(52)6086
吉田義晴	099-32 網走郡東藻琴村55 東藻琴幼稚園	0152(66)3548
米谷哲夫	060 札幌市中央区南3条西23丁目	011(621)0793
和田芳郎	064 札幌市中央区北3条西26丁目	011(611)1941

第41回全道造形教育研究大会札幌大会・運営実行委員会組織

大会長	佐々木 理 温 (連盟委員長)	札幌・三角山小長)
副大会長	田 邊 康 夫 (連盟副委員長)	函館・大川中長)
"	庄 栄 一 (")	月形・知来乙小長)
"	川 島 信 也 (")	旭川・神居古潭小長)
"	宗 廣 義 彦 (")	釧路・城山小長)
大会実行委員長	鹿 嶋 健 (連盟事務局長)	札幌・栄東小長)
大会副実行委員長	船 着 昭 弘 (連盟事務局次長)	札幌・開成小長)
"	村 谷 利 一 (")	札幌・北栄中)
"	土 岐 禎 次 (")	札幌・北高)
大会顧問	秋 山 修 世 (連 盟 顧 問)	
"	荒 木 了 一 (")	
"	砂 金 隆 (")	
"	石 崎 義 政 (")	
"	石 塚 潔 (")	
"	泉 秀 雄 (")	
"	伊 藤 恵 (")	
"	伊 東 将 夫 (")	
"	一ノ戸 信 雄 (")	
"	遠 藤 久 男 (")	
"	遠 藤 満 男 (")	
"	小山田 武 (")	
"	加 藤 彬 (")	
"	加 藤 正 (")	
"	金 井 秀 男 (")	
"	上 条 雄 也 (")	
"	川 井 坦 (")	
"	川野上 彰 (")	
"	佐 藤 潔 (")	
"	佐 藤 吉五郎 (")	
"	菅 原 隆 治 (")	
"	諏 訪 英 雄 (")	
"	高 橋 栄 吉 (")	
"	滝 村 虎 雄 (")	
"	種 市 誠次郎 (")	

大会顧問	辻悦平	(")	
"	出村保	(")	
"	豊島豊	(")	
"	中川大三	(")	
"	橋本富	(")	
"	長谷川傳	(")	
"	畠山三代喜	(")	
"	早弓弘行	(")	
"	藤川叢三	(")	
"	藤野高常	(")	
"	松島輝男	(")	
"	三浦敏勝	(")	
"	三谷哲司	(")	
"	森川昭夫	(")	
"	柳原寿夫	(")	
"	吉田義晴	(")	
"	米谷哲夫	(")	
"	和田芳郎	(")	
大会渉外部部長	奥野郁男	(連盟事務局顧問	札幌・柏中頭)
大会渉外部副部長	吉田倭雄	(")	札幌・二十四軒小頭)
大会渉外部	芝木捷子	(")	札幌・中の島幼長)
"	大友和子	(札幌・手稲中央幼長)	
"	伊藤英世	(連盟事務局顧問	札幌・東光小長)
"	坂口清一	(")	札幌・藻岩小)
"	伊藤善彬	(")	札幌・幌南小頭)
"	白坂和夫	(札幌・西岡南小長)	
"	東志隆	(連盟事務局顧問	札幌・新川中長)
"	平山満	(")	札幌・藤野中長)
"	石岡博明	(")	札幌・もみじ台中長)
"	今本哲夫	(")	札幌・八条中長)
"	新谷純鋪	(")	札幌・札幌中長)
"	武市尚政	(")	札幌・清田中頭)
"	小川全	(札幌・陵北中頭)	
"	荒谷博文	(連盟事務局顧問	札幌・札苗中)
"	加藤五十和	(")	札幌・向陵中)
"	香取正人	(")	札幌・柏丘中頭)

大会会計部長	白井 罔 毅 (連盟本部事務局会計部長 札幌・藤野中長)
大会会計部副部長	高杉 正 和 (連盟本部事務局庶務部次長 札幌・啓明中)
大会会計部	鶴賀 孝 三 (連盟事務局顧問 札幌・新陵小)
”	谷 勲 (” 札幌・澄川西小)
”	永井 恭 子 (連盟本部事務局会計部次長 札幌・平岡小)
”	武田 郁 代 (連盟本部常任委員 札幌・啓明中)
大会庶務部部長	佐藤 靖 (連盟本部事務局庶務部長 札幌・三角山小)
大会庶務部副部長	角力山 旭 (連盟本部事務局研究部次長 札幌・陵北中)
大会庶務部	国分 照 子 (連盟本部常任委員 札幌・真駒内南小)
”	窪田 恵 子 (連盟本部事務局庶務部次長 札幌・山の手小)
”	高橋 百合枝 (連盟本部常任委員 札幌・二条小)
”	蛭子 信 也 (連盟事務局顧問 札幌・伏古小)
”	早川 輝 彦 (連盟本部常任委員 札幌・屯田中央中)
”	富田 賢 司 (” 札幌・新琴似北中)
”	小野 泰 裕 (札幌・山鼻中)
大会記録部部長	毛馬内 国 夫 (連盟本部事務局広報部長 札幌・桑園小)
大会記録部副部長	岩間 歳 仁 (連盟本部事務局広報部次長 札幌・厚別中)
大会記録部	冨所 玲 (連盟本部事務局事業部次長 札幌・北九条小)
”	西 寛 (連盟本部常任委員 札幌・幌南小)
”	赤石 芳 郎 (” 札幌・石山東小)
”	土井 善 範 (” 札幌・北園小)
”	氏家 朱 実 (” 札幌・八軒西小)
”	加藤 正 幸 (札幌・新琴似北小)
”	小野 正 二 (札幌・太平南小)
”	安木 尚 博 (札幌・米里小)
”	甫木 テル子 (札幌・北野平小)
”	佐藤 尚 之 (札幌・山鼻小)
”	広瀬 恵 子 (札幌・北光小)
”	川島 正 夫 (札幌・共栄小)
”	富居 道 雄 (札幌・真駒内緑小)
”	谷山 圭 子 (札幌・西宮の沢小)
”	高井 裕美子 (札幌・北光小)
”	木戸 久美子 (札幌・共栄小)
”	宗像 宏 子 (札幌・緑丘小)
”	平畠 恵都子 (札幌・しらかば台小)
”	山本 景 子 (札幌・太平南小)

大会記録部	飯塚泰久	(札幌・三角山小)
"	宇野智泰	(札幌・三角山小)
"	島界二	(連盟本部事務局広報部次長 札幌・札苗中)
"	小幡哲也	(連盟本部常任委員 札幌・札苗北中)
"	小泉信嗣	(" 札幌・陵北中)
"	溝久美子	(札幌・西岡中)
"	後藤和司	(札幌・白石中)
"	岡島仁志	(札幌・稲陵中)
"	佐野千尋	(連盟本部事務局事業部次長 札幌・真栄高)
大会会場部部长	藤井正治	(連盟本部事務局事業部長 札幌・創成小)
大会会場部副部长	多田紘一	(連盟本部事務局事業部次長 札幌・柏中)
大会会場部	小尾喬	(連盟本部常任委員 札幌・伏古小)
"	伊藤暢紀	(" 札幌・東苗穂小)
"	鈴村幸司	(" 札幌・札苗北小)
"	長野祐平	(" 札幌・川北小)
"	小泉誠	(" 札幌・円山小)
"	土肥宏充	(" 札幌・小野幌小)
"	八木明	(札幌・三里塚小)
"	早坂学	(札幌・伏古小)
"	中居正光	(連盟本部常任委員 札幌・東札幌小)
"	浜野りな	(" 札幌・澄川小)
"	益村豊	(札幌・前田中央小)
"	仁木隆	(札幌・手稲北小)
"	古谷寿朗	(札幌・苗穂小)
"	毛利聡	(札幌・中央小)
"	佐藤真弓	(札幌・大谷地東小)
"	大村憲一	(札幌・真駒内南小)
"	高向修子	(札幌・山の手小)
"	池田悦子	(札幌・山の手南小)
"	辻喜夫	(札幌・澄川南小)
"	伊藤正敏	(札幌・東橋小)
"	岩山英輝	(札幌・石山南小)
"	板木武	(札幌・幌南小)
"	宮崎むつ	(札幌・南白石小)
"	伊藤武司	(札幌・篠路小)
"	平松美恵子	(札幌・三里塚小)

大会会場部	和田 恵子 (札幌・手稲中央小)	
"	田中 佐知江 (札幌・篠路小)	
"	田中 ふじこ (札幌・幌南小)	
"	塚本 由希子 (札幌・北光小)	
"	沢波 隆 信 (札幌・稲積小)	
"	小村 裕 (札幌・三角山小頭)	
"	沢村 将 行 (札幌・三角山小)	
"	萩谷 一 雄 (")	
"	飯塚 泰 久 (")	
"	尾形 朝 良 (")	
"	岸浪 優 子 (")	
"	西本 直 美 (")	
"	国島 那知子 (")	
"	井上 肇 (")	
"	畠山 時 枝 (")	
"	細野 秀 明 (")	
"	岡田 克 則 (")	
"	田中 潤 (連盟本部常任委員 札幌・丘珠中)	
"	依田 靖 広 (" 札幌・新川中)	
"	福島 彰 一 (" 札幌・平岡中)	
"	西山 昇 (札幌・あやめ野中)	
大会事業部部長	福島 斎 (連盟事務局顧問 札幌・月寒東小頭)	
大会事業部副部長	安原 正 (連盟本部事務局事業部次長 札幌・八軒東中)	
大会事業部	花田 正 雄 (連盟本部常任委員 札幌・簾舞小)	
"	葛西 良 子 (" 札幌・桑園小)	
"	小林 万咲彦 (" 札幌・澄川小)	
"	板田 恭 侑 (" 札幌・石山南小)	
"	小柳 雄 嗣 (連盟本部事務局事業部次長 札幌・桑園小)	
"	村田 力 (札幌・福井野小)	
"	田口 和 男 (札幌・月寒東小)	
"	武田 晃 一 (札幌・福井野小)	
"	堀田 之 俊 (札幌・大倉山小)	
"	今川 忠 良 (札幌・羊丘小)	
"	加藤 倬 英 (札幌・札苗北小)	
"	永井 智 子 (札幌・大倉山小)	
"	江幡 和 子 (札幌・月寒東小)	

大会事業部	上 田 祐 子 (札幌・西白石小)
"	山 室 ゆかり (札幌・南の沢小)
"	三 好 哲 司 (札幌・三角山小)
"	魚 住 劭 (")
"	宇 野 智 泰 (")
"	谷 寧 (")
"	初 島 由 記 (")
"	中 尾 孝 典 (札幌・日章中)
"	六本木 祐 司 (札幌・東栄中)
"	木 原 英 俊 (札幌・向陵中)
"	菅 原 尚 俊 (札幌・青葉中)
"	向 敏 光 (札幌・平岡中)
"	阿 部 時 彦 (札幌・南が丘中)
大会研究部部長	富 田 泰 (連盟本部事務局研究部長 札幌・伏見小)
大会研究部副部長	岡 澤 邦 彦 (連盟本部事務局研究部次長 札幌・屯田中央中)
大会研究部	酒 井 三 佳 (連盟本部常任委員 札幌・白楊幼)
"	細 川 依 子 (" 札幌・清明幼)
"	吉 田 耕一郎 (" 札幌・稲積幼)
"	柏 木 順 (" 札幌・手稲中央幼)
"	森 美由紀 (" 札幌・ふくい幼)
"	西 野 智 子 (札幌・なかのしま幼)
"	大 滝 明 美 (")
"	本 永 智 子 (")
"	一 瀬 千 恵 (")
"	内 田 芳 恵 (")
"	阿 部 宏 行 (連盟本部事務局研究部次長 札幌・附属小)
"	菅 原 清 貴 (" 札幌・三角山小)
"	篠 原 寛 (" 札幌・新陵小)
"	桜 田 豊 (連盟本部常任委員 札幌・幌西小)
"	大 場 章 子 (" 札幌・山鼻小)
"	熊 谷 悦 代 (連盟本部事務局研究部次長 札幌・三角山小)
"	稲 實 順 (連盟本部事務局広報部次長 札幌・八軒西小)
"	植 木 則 子 (" 札幌・桑園小)
"	今 裕 子 (連盟本部常任委員 札幌・伏見小)
"	今 谷 孝 (" 札幌・幌西小)
"	新 井 弘 通 (札幌・三角山小)

大会研究部	塚野昭臣	(連盟本部事務局研究部次長 札幌・附属中)
"	池嶋憲彦	(連盟本部常任委員 札幌・稻積中)
"	中山龍雄	(" 札幌・八軒中)
"	伊藤尚	(" 札幌・上野幌中)
"	八重樫真一	(" 札幌・美香保中)
"	香西富士夫	(連盟本部事務局研究部次長 札幌・平岸高)
"	松井茂樹	(連盟本部常任委員 札幌・月寒高)
"	小林智彦	(" 札幌・南高)
"	石川雅昭	(" 札幌・東海大四高)
"	開沼英則	(" 札幌・東陵高)
"	照井栄一	(" 札幌・白石高)
"	中田千年	(" 札幌・稲雲高)

御協賛芳名

北海道造形教育連盟

協賛会員

サクラクレパスK・K ☎011-563-5161

ぺんてる株式会社 ☎011-862-8921

開隆堂出版K・K ☎011-231-0403

東京書籍K・K ☎011-562-5721

日本文教出版K・K ☎011-764-1201

野幌陶芸社 ☎011-382-2737

文学堂製筆K・K ☎011-812-4669

セメダインK・K ☎011-261-1471

コニシK・K ☎011-612-0211

銀鳥産業株式会社 ☎011-822-0215

さっぽろ北1条に文化の風——銀杏並木の画廊

N ギャラリー ^(ノルテ) Norte

財団法人 北海道教職員厚生会直営



開館/10:00~17:30

絵画が、書が、彫塑が、工芸が、写真が、
語りかける。

芸術との出会い、作品との安らかな対話のひとつとき。

- 道内美術をリードする作家たちの秀作展示・販売幹旋。
- 個展・グループ展への貸ギャラリー。広いスペースと秀れた設備。
- 美味しいコーヒー・紅茶・ジュースの喫茶室。

《休館日/日曜、祝日、年末年始》 TEL(011)241-0807

北海道美術の交差点

札幌市中央区北1条西6丁目安田火災北海道ビル3F (地下鉄大通駅下車徒歩5分)

ますます充実する教育ソフト。 ハイパーメディアの表現力が、あらゆる教科に生きてきます。



▲歴史資料館

▲小学算術

▲日本の野鳥

▲ハイパー星の軌道

▲FM TOWNS パノラマ

▲TOWNS 物理ニュートン集

▲NEW HORIZON CD Learning System

▲Healthy Life

▲日本の旗

▲漢詩の世界

▲HYPER PLANET

▲恐竜の世界

▲SCHOOL CARD

▲SCHOOL ACE

▲TOWNS 地理リンクソフトウェア

▲星の宇宙大冒険
〔企画〕SAS、コンピュータセンター
〔制作〕NHK/ソフトウェア
〔協力〕NHK、NHKエンタープライズ



表現力 **540** 倍
(CD-ROMは、700ピッチディスクの容量をも540倍)

富士通のパソコン
FM TOWNS
●FM TOWNS-SF-----本体標準価格 ¥258,000(税別)
(35インチFD0X2)
●FM TOWNS-SH-----本体標準価格 ¥308,000(税別)
(35インチFD0X2, 40MB HDD内蔵)
※本体標準価格にはTownsシステムソフトウェアが含まれていません。
キーボード・カラーCRTは含まれておりません。

コンパクトボディのFM R-505シリーズ
標準搭載の40ピッチディスクドライブ
FM R-505 **FM R-505II**

32,000色同時発色、PCM音源1ch、CD-ROM
ならではのAV表現力が、授業をより立体的にします。
FM TOWNSでまず驚かされるのが、映像の美しさです。32,000色同時発色、または1677万色中256色発色。色彩教育にも有利な情報量です。640×480ドットの高精細度、高速アニメーション対応のスプライト機能は、図鑑ソフトまでもを実現する臨場感を備えています。また音声も6ch・FM音源に加え、PCM音源を8ch搭載。忠実な原音の再現は、教育の場にこそいっそう大切です。

ハイパーメディアの時代は、
さらに本格化します。
映像・音・文字を組み合わせた高度なマルチメディアを、誰もが簡単に使い自分の資質を伸ばしてゆく。それが「ハイパーメディア」のコンセプトです。膨大な情報量を必要とするこのシステムを可能にしたのがフロッピーディスク540枚分の容量を持つ、CD-ROM。FM TOWNSは、いち早くCD-ROMをキーステーションに採用し教育の分野にもさまざまな将来性を提案しています。

※386™は米国インテル社の登録商標です。
※本広告に掲載の商品について消費税は含まれておりません。ご購入の際、商品ならびにそれに関する消耗品等および役務について、消費税が付加されますので、ご承知お願います。

富士通株式会社 北海道支店 〒060 札幌市中央区北1条西2丁目1 電話(011)271-4311

陶芸

- 陶芸機器 ■
- 陶芸材料 ■
- 耐火材 ■
- 素焼製品 ■

陶芸機材専門商社

株式会社

ほくと

〒065 札幌市東区北16条東7丁目

●お問い合わせ

☎(011) 723-6236~7

セントラルは、文化創世紀。

CIは、次代を拓くキャピタルワード。

「文化創世紀」は、文化の創造と継承をテーマに、アート、デザイン、ファッション、音楽、映画、テレビ、出版、教育、スポーツ、エンターテインメント、観光、まちづくり、社会貢献など、幅広い分野で展開する。また、国内外の文化機関やアーティストと連携し、国際的な文化交流を促進する。さらに、デジタル技術を活用し、新しい文化体験を提供する。このように、文化創世紀は、未来を拓くための重要なキーワードである。



1F ベーバーマーケット ヤングマーケットY・m
カード・レター サービスカウンター
万年筆
バラエティ
ラッピング

2F オフィスステーションナリー
パーソナルステーションナリー
OAプラザ
別注品カウンター
トレンディプラザ

3F 素材 コピーラボ
機織 インスタントレタリング
製図・デザイン 日本産肉類
書道用品 書籍・工芸品
フレームラボ 香

4F パーソナルホビー
模型材料
ホビーラボ
ノーザンランド
コミュニティギャラリー：
「レインボー」

7階ギャラリー

スカイホール

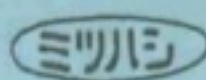
質の高いアートスペースとして、
使う人の個性で演出する新しいタイプの多目的空間。

CENTRAL

大丸藤井セントラル

札幌市中央区南1西3・電話(011)231-1131代

いつも気持ち良く学校へ迎えて
下さいまして心から御礼を申し
上げます。



株式
会社

北澤教材社

札幌市北区北23条西5丁目

札幌サンプラザ前

☎756-4545(代)

財 団 法 人

北海道教育文化協会

〒064 札幌市中央区南6条西17丁目

TEL 561-1301

教育現場と 27 年の実績 共に歩んだ

- じひつ文集・卒業文集
- 研究紀要・名簿
- 記念誌
- 各種フォーム

■OAの先端を走る

旭プリント株式会社

札幌市西区発寒1条4丁目

TEL(011)666-4040

FAX(011)666-5444

伸びる小学生に、
まいにちの好奇心。

いまのお父さんやお母さんも小学生の頃読んでいた、という声も聞かれるほど、長い歴史をもつ「毎日小学生新聞」。

創刊以来55年、日本で最も歴史ある学習紙。
●「毎日小学生新聞」は、小学生の成長を応援する、親しみやすい学習紙。
●「毎日小学生新聞」は、小学生の成長を応援する、親しみやすい学習紙。
●「毎日小学生新聞」は、小学生の成長を応援する、親しみやすい学習紙。
●「毎日小学生新聞」は、小学生の成長を応援する、親しみやすい学習紙。

毎月1,200円(消費税を含む)
月ごめ購読料(宅配)



中学生時代は、子供から大人への移行期。そんな
じずかしい年頃にぜひおすすめしたいのが「毎日
中学生新聞」です。



電話でお申し込みください。

見本紙を無料でお送りします。

011(231)5837 毎日新聞北海道支社
学生新聞営業課

(お申し込みは、日・祝日を除く10時～17時まで受け付けております)

ゆれる中学生に、
まいにちの羅針盤。

豊富な情報に加え、読者参加のページも多数
設けて、中学生のまいにちを暖かく見守ります。

創刊42年、ジュニアのための日刊新聞です。

毎日中学生新聞

●タブロイド判・8ページ・土、日はカラー印刷

月ごめ購読料(宅配)1,200円(消費税を含む)

●「ニュースがわかる」●「おもしろサイエンス・アイ」●「Myクラブ」
●「高知ポンスランド」●「高知力・高知コーチ」●「合格・必勝ゼミ」
●「伝説の書写」●「世界の人気まんが」●「カーフェルト」●「海から来たバフバフ」
●「地獄絵巻まんが」●「ゲキカラ中学校」●「英語でコミニテハ」
●「話題の映画紹介」●「パソコンソフト紹介」……ほか
役立つ記事がいっぱい。

見る・聞く・体験—楽しい思い出!

豊かな心を育む

修学旅行

広い視野と
ふれあいの旅を。



名鉄観光

運輸大臣登録一般旅行業第55号

札幌営業所
教育旅行センター

〒060 札幌市中央区北4条西2丁目(石垣ビル)

☎ 代表 (011)241-4986

直通 (011)232-7775

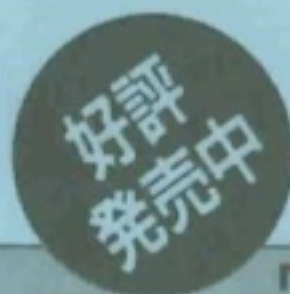
御料理仕出し宴会

創業六十七年

花久一本店

札幌市中央区南十三条西八丁目

TEL 五二二—〇一四三



使って安心。

ワシンの学校教材用塗料

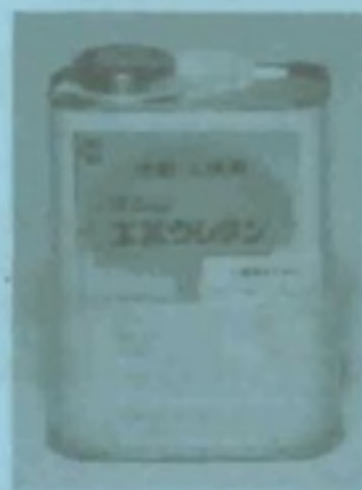
●教材用塗料からクリアーラッカー、シンナーを追放しましょう。

ワシン木彫オイル




木目の自然の美しさと木肌の感触を生かすワシン工芸塗料シリーズの傑作で、つやのない透明で上品な北欧調に仕上がります。

ワシン工芸ウレタン



ワシン特製の一液型ポリウレタン樹脂塗料で木目を生かした透明な仕上がりが得られます。塗りやすく乾きが早く、塗膜は衝撃・摩擦・湿気等に丈夫で熱湯にも強い。

 **和信ペイント株式会社**

和信東京サービスセンター 〒170 東京都豊島区駒込1-11-4 TEL (03)942-9111 (代表)
協賛: 和信化学工業株式会社

知能・学力・性格・各種心理検査
教材教具・事務用品・教育図書

教研式教育・心理検査

株式会社 図書文化社代理店

Y G 性格検査

竹井機器工業株式会社代理店

株式会社 **平 和 堂**

代表取締役 高川 庄平

〒065 札幌市東区北20条東14丁目

☎ 011-741-1658

FAX 011-741-5368

SNZ ART MATERIALS

PRINTING PRESS

SHIN NIHON ZOKEI CO., LTD.

明日の造形教育を指向する
SNZ製品



新日本造形株式会社

東京本社

〒165 東京都中野区新井1-42-8

☎03-3389-1221

大阪支社

〒540 大阪市東成区神路1-10-6

☎06-974-5111

＝マイカーをお求めのとき＝

学協オートローン

〈30万～250万〉まで 〈アドオン年率 4.8%
1年～5年払〉まで 〈実質年率 8.75% (12回払例)〉

札幌市中央区南3条西12丁目(道)教育会館内
北海道学校生活協同組合

TEL 011-561-6493

タイプオフ・写植 他各種印刷

大和印刷社

社長 北 茂

札幌市中央区南4条西11丁目

電話 561-3347番

561-8589番

教育楽器から
一般楽器まで

エコ楽器

札幌市西区福井1丁目1番1号

電話 662-5115



高校古語が
よわかる新辞典。



収録語数15,000語。色と絵でビジュアルにわかる最新版古語辞典。用例はすべて文法に忠実な現代語訳つき。学習欄も随所に掲載。新工夫がいっぱいの新辞典。
桜井 満・宮腰 賢編

●定価2,200円(税込)

旺文社全訳古語辞典

旺文社 東京都新宿区横寺町55 〒162

教養と親睦を深める旅、
ツーリストで安心。



先生方の研修・視察旅行をはじめ、親睦・家族旅行などは、それぞれの目的に合わせた、効果的な旅のプランニングが必要です。いつ、どこへ、何のために、どんな方法で、一ツーリストは、長年培った経験と実績から、ニーズに合わせたアイデア豊かな旅をプランニングし、お届けいたします。

近畿日本ツーリスト 札幌中央支店

運輸大臣登録一般旅行業第20号

営 業 品 目

学校教材・教具
理科学機械器具
図工美術材料

事務機器・事務用品
技術科教材・教具
視聴覚機器

(株)すずらん教材社

〒003 札幌市白石区北郷4条3丁目

電話(代表)872-1806番

舞台幕・カーテン・暗幕

有限会社 あかしやカーテン

〒062 札幌市豊平区美園8条2丁目

電話(代)831-7654

カギと錠のフリーダイヤル

カギと錠のトラブルでしたら、どんなことでもお気軽にお電話下さい。

すぐお伺いします!!



市内全域をネットワークでカバーできる。市内全地区無線カーで連結プレーノ

MIWA 長和ロックサービス代行認定店、電気錠・出入管理システム診断・施工
札幌市住宅管理公社指定、都庁登録店、北海道防犯運動協力会・会員店

こんな経験は、ありませんか？

- より安全な錠前をつけたい時
- 錠前の修理・点検をしたい時
- 錠前を新しく取替えたい時
- 防犯ベル機器の設備をしたい時
- ドアを開けたいのにカギがない時
- 予備の合カギを作りたい時
- 金庫が開けられない時

*ロッカー・デスク・シャッター・自動販売機・
自動車・金庫など特殊錠も、おまかせ下さい。

進栄ロックサービス(株)

札幌市東区北17条東7丁目368番地

お申し込みは電話料金、無料のフリーダイヤルで

ロックロック

本社(東区) 0120-25-6969

(北区)0120-13-6969 (白石区)0120-17-6969

(西区)0120-14-6969 (豊平区)0120-18-6969

カーテン・暗幕・舞台幕
カーペット・テント・旗
椅子カバー・繊維製品全般

有限
会社

リリーカーテン

代表取締役 新山 秋 静

札幌市南区澄川3条4丁目

電話 831-5870

学校図書 参考書 ワークブック
図工・美術工芸材料 ONE WORLD準拠備品
技術・家庭実習材料 北海道統一学力テスト

(株) 光 陽 社

代表 中野源一郎

〒064 札幌市中央区南20条西6丁目 電話(代)511-4408

牛乳をたっぷり使った
まろやかな口あたりが
自慢です。



食は文化

当社の製品は、永年の研究の末、技術と
経験を生かし、最良の原料を吟味して製
造いたしております。
日頃のご愛顧を感謝いたしますと共に、
益々のご食味をお願い申し上げます。

株式会社 ロバパン

札幌市白石区本通7丁目南5番1号 TEL861-8131(代)

ご婚礼組合員割引

- ★ご両家負担額より50,000円の割引/
- ★お2人方はもとより幹事様もビックリ。お1人様500円割引/
- ★さらにご婚礼衣裳使用料は30%割引とさせていただきます。
- ★ご両家控え室の使用料は無料といたします。

ご法要 組合員10%割引

- ★組合員が主催するご法要のお料理を10%割引させていただきます。
- ★幹事様(全員)にコーヒー利用券をプレゼントいたします。

☎(011)521-5211

組合員 特典



勢揃い!

公立学校共済組合

ホテルアカシヤ

札幌市中央区南12条西1丁目(中島公園前)

こどもをはげまし 育てる総合教材

札幌市中央区南3条西12丁目(道)教育会館内
(株)北海道学校用品協会

TEL011-561-6493

教材・教具・事務機器・事務用品

ご用命は TEL **742-3711**

有限会社 **大島商会**

〒065 札幌市東区北26条東2丁目

スポーツ用品全般

札幌企業開発株式会社

タウンスポーツ

〒065 札幌市東区東苗穂6条2丁目6-20
TEL 784-9551(代表)
FAX 784-9087

企画・編集

撮影・印刷

(株)491アヴァン

〒001 札幌市北区北14条西1丁目
☎011-727-3231 FAX 011-727-3232

あなたのスポーツライフを
お手伝いします



タイワスポーツ 株式
会社

札幌市中央区南3条西3丁目（三番街時計台通り）

ウェアショップ
TEL231-2207
FAX231-2209

外 商 ・ 経 理
TEL231-2205

印 刷 刷 印

TEL561-5555 FAX561-5691

お気軽にご相談ください。

TOKKYU PRINTING CO.,LTD.

特急印刷株式会社

本社 〒064札幌市中央区南9条西12丁目1番36号

あすの教育を大きくひらく秀学社の学習図書

- 美術の表現と鑑賞(北海道版)
- レタリング字典
- 新版 美術教室・美術資料

特約店 (株)札幌教材社

〒005 さっぽろ南区澄川4条4丁目
TEL(代)812-5461



ゲルニカ(ピカソ)を
子ども達に見せて伝
えるのも鑑賞教育で
はありませんか

〒167 東京都杉並区荻窪5-28-7
プリハード(株) ☎03・3398・9155

プリハード複製“世界の名画”
は原画再現性・絵柄300種とも
トップです。(解説パネル付き)

「図工・美術」教育の鑑賞教材となる複製画の条件は

1. 鑑賞教材といえる秀れた原画再現性があること
2. 原画鑑賞と同じ様に壁に飾って鑑賞できること
3. 美術の流れや鑑賞指導のテーマに沿って作品が揃う
4. 堅牢で耐久性があり、変色しにくく、危険がない
5. 価格が学校備品の教材として適切であること

後援者等は、本誌の発行に多大の寄与をなされた

(昭和33年)創刊以来、この日誌を

発行して、これによって

教育界の発展に寄与する

教育界の発展に寄与する

札幌教育研究会 発行
1967年10月1日



第41回
全道造形教育研究大会札幌大会
大会紀要

●平成3年7月20日 発行

発行 第41回 全道造形教育研究大会

大会長 佐々木 理 温

編集 札幌大会事務局・研究部

印刷 株式会社491 アヴェン

札幌市北区北14条西1丁目 ☎011-727-3231



北海道造形教育連盟

